新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 290 集

県内遺跡発掘調査報告書Ⅸ

令和元・2年度県内遺跡試掘・確認調査

2021

新　潟　県　教　育　委　員　会

県内遺跡発掘調査報告書Ⅸ

令和元・2年度県内遺跡試掘・確認調査

２０２１

新　潟　県　教　育　委　員　会

序

新潟県教育委員会では、平成25年度から国土交通省及び東日本高速道路株式会社が所管する道路事業に伴う埋蔵文化財の事前調査を直営の体制で行っており、本書は令和元年度及び令和２年度に実施した調査成果をまとめたものです。

本書には47か所で実施した試掘・確認調査の結果を掲載しました。国土交通省が新直轄道路として村上市朝日から山形県鶴岡市まで建設する一般国道７号朝日温海道路（日本海沿岸東北自動車道）の試掘・確認調査が平成27年度から本格化しており、当該年度においては縄文時代の上野遺跡・法妙遺跡、中世の大川城跡や、新たに発見した古代・中世の竹ノ下遺跡等の調査を行いました。また、一般国道17号神立待避所建設事業では縄文時代の宮林Ｂ遺跡、一般国道253号八箇峠道路建設事業では古代の金屋遺跡・六日町藤塚遺跡の広がりを確認し、一般国道17号川口待避所建設事業では新たにササラ西遺跡を発見しました。

本書が県内の埋蔵文化財保護行政の基礎資料となり、地域の歴史に興味を持つ多くの方に活用されることを願っています。

最後になりますが、調査に際して多大な御協力と御援助を賜りました地元市町村教育委員会、近隣住民各位、国土交通省北陸地方整備局及び各国道事務所に対し、厚くお礼申し上げます。

令和３年３月

新潟県教育委員会

教育長　稲　荷　善　之

例　　言

1　本書は、新潟県教育委員会が令和元年度及び令和２年度に実施した埋蔵文化財の事前調査（試掘・確認調査、詳細分布調査）の記録である。

2　本事業は、文化庁国庫補助金（県内遺跡発掘調査等）を受けて、新潟県教育委員会が主体となって実施した。

3　出土遺物の注記は、調査年度と略号を用い、トレンチ番号・層位等を記載した。略号は次のとおりである。

【一般国道７号朝日温海道路】　上野遺跡：Ｒ２カミノ　　竹ノ下遺跡：Ｒ２タケノ
早稲田地区：Ｒ２ワセダ

【一般国道 49 号阿賀野バイパス】　蕪木遺跡：Ｒ２カフキ

【一般国道８号曽地チェーン着脱所】　曽地地区：Ｒ２ソチ

【一般国道 17 号川口待避所】　ササラ西遺跡：Ｒ２ササラ

【一般国道 17 号神立待避所】　宮林Ｂ遺跡：Ｒ２ミヤＢ

【一般国道 253 号八箇峠道路】　金屋遺跡：Ｒ２カナヤ　　六日町藤塚遺跡：Ｒ２ムイカ
余川地区：Ｒ２八カ

4　出土品及び調査・整理作業に係る各種資料は、一括して新潟県教育委員会が保管・管理している。

5　本事業に係る重機・作業員等の調査支援業務は、株式会社島田組（令和元年度）、株式会社吉田建設（令和２年度）に委託した。

6　各事業の図版の構成は、第１図　位置図、第２図　トレンチ位置図、第３図　土層柱状図、第４図　遺構図面を基本とし、複数ある場合は枝番を付した。それ以降を写真図版とし、遺構図面が無い場合は第４図から１点ごとに連番を付した。

7　土層柱状図は分層を行ったものの、同一層名を付したトレンチがある。各トレンチ内で分層できるが、相対的に同じ層として捉えられると判断した場合、そのように記載した。

8　本書の執筆は、加藤学・髙橋保雄・塩野寛人・工藤祐大が行った。

9　図書館等（著作権法第 31 条第１項に規定する図書館等をいう。）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。

凡例			
	令和元・2年度 調査対象範囲		調査トレンチ （遺構検出）
	前年度以前 調査対象範囲		調査トレンチ （中世以前の遺物出土）
	調査トレンチ （遺構・遺物出土）		調査トレンチ （遺構・遺物なし）
	本調査必要範囲		判断保留範囲

目　　次

第Ⅰ章　事業の概要

1　調査に至る経緯と体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　調査の概要・・1

第Ⅱ章　令和元年度調査

1　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 24」（村上市堀ノ内地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

2　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 19」（村上市勝木地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

3　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 17」（村上市立島地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

4　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 13」（村上市北黒川地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

5　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 11」（村上市北中地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

6　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地７（センター杭 No.679＋50～681＋00）」（村上市大須戸地区）試掘調査・・・・・・20

7　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地７（センター杭 No.673＋85～675＋90）」（村上市大須戸地区）試掘調査 ・・・・・・22

8　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地７（センター杭 No.671＋60～673＋00）」（村上市大須戸地区）試掘調査・・・・・・25

9　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地６（センター杭 No.667＋11～667＋38）」（村上市大須戸地区）試掘調査・・・・・・27

10　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地６（センター杭 No.656＋40～665＋60）」（村上市大須戸地区）試掘調査・・・・・・29

11　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地５」（村上市塩野町地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

12　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地２」（村上市檜原地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

13　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「上野遺跡」（村上市檜原地区）確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

14　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「上野遺跡」（村上市猿沢地区）確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

15　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地１」（村上市猿沢地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
16　一般国道７号新発田拡幅事業関係　新発田市小舟町～城北町地区　試掘調査・・・・・・・・・45
17　一般国道７号栗ノ木道路事業関係　新潟市中央区長嶺地区～JR 地区　試掘調査・・・・・・・48
18　一般国道７号紫竹山道路事業関係　新潟市中央区紫竹山地区～東区紫竹地区　試掘調査・・・50
19　一般国道８号福島新田交差点事故対策事業関係　三条市一ツ屋敷新田地区　試掘調査・・・・52
20　一般国道 17 号和南津改良事業関係　長岡市和南津地区　試掘調査・・・・・・・・・・・・・53
21　一般国道 17 号浦佐バイパス事業関係　南魚沼市浦佐地区　試掘調査・・・・・・・・・・・・55
22　一般国道 253 号八箇峠道路事業関係　南魚沼市余川地区　試掘調査・・・・・・・・・・・・56
23　一般国道 17 号六日町バイパス事業関係　南魚沼市竹俣地区　試掘調査・・・・・・・・・・・59
24　一般国道 253 号上越三和道路事業関係
「舘遺跡」（上越市駒林地区）確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62

第Ⅲ章　令和２年度調査

1　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「法妙遺跡」（村上市中浜地区）確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
2　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地 25」（村上市中浜地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
3　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地 24」（村上市堀之内地区・寺沢地区）確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
4　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「大川城跡」（村上市府屋地区）確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
5　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地 23」（村上市府屋地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
6　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地 21」（村上市碁石地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
7　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地 19」（村上市勝木地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82
8　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地 15」（村上市中津原地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
9　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地 13」（村上市北黒川地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
10　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地 10」（村上市大毎地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
11　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地９_①」（村上市大毎地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91

12　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地９_②」（村上市大毎地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
13　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地３」（村上市早稲田地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
14　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「上野遺跡」（村上市檜原地区）確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
15　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地１」（村上市猿沢地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103
16　一般国道７号朝日温海道路事業関係
「推定地１」（村上市川端地区）試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105
17　一般国道 49 号野村待避所事業関係
「野田原館跡」（阿賀町野村地区）確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・106
18　一般国道８号曽地チェーン着脱場事業関係　柏崎市曽地地区　試掘調査・・・・・・・・・・・110
19　一般国道 17 号川口待避所事業関係　長岡市川口地区　試掘調査・・・・・・・・・・・・・・113
20　一般国道 253 号八箇峠道路事業関係　南魚沼市余川地区　試掘調査・・・・・・・・・・・・・117
21　一般国道 17 号神立待避所事業関係　湯沢町神立地区　試掘調査　・・・・・・・・・・・・・126
22　一般国道８号大潟除雪基地事業関係　上越市大潟区渋柿浜地区　試掘調査・・・・・・・・・・131
23　一般国道 49 号阿賀野バイパス事業関係
「蕪木遺跡」（阿賀野市堀越地先）確認調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・133

第Ⅰ章　事業の概要

１　調査に至る経緯と体制

新潟県教育委員会(以下、県教委)では、文化庁国庫補助金(県内遺跡発掘調査等)を受けて、主に国土交通省及び東日本高速道路株式会社が所管する道路事業に伴う埋蔵文化財の事前調査(試掘･確認調査、詳細分布調査)を平成 25 年度から県教委が直営で行っている。調査に係る体制は以下のとおりである。

【令和元年度】

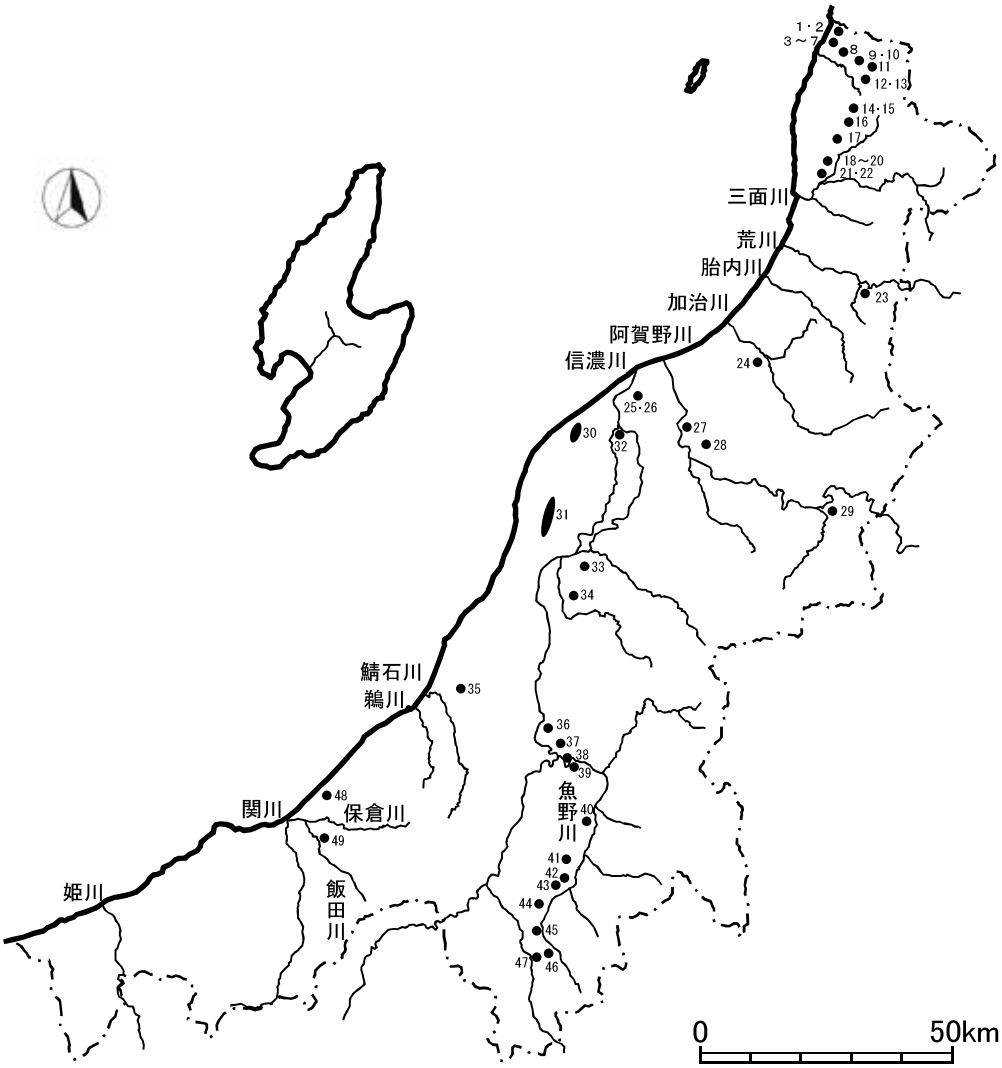
総　　括　　佐藤美由紀（新潟県教育庁文化行政課長）
管　　理　　樋山　光英（新潟県教育庁文化行政課長補佐）
調査指導　　滝沢　規朗（新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係長）
調 査 員　　髙橋　保雄（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）
　　工藤　祐大（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）

【令和２年度】

総　　括　　佐藤美由紀（新潟県教育庁文化行政課長）
管　　理　　樋山　光英（新潟県教育庁文化行政課長補佐）
調査指導　　渡邊　裕之（新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係長）
調 査 員　　加藤　学　（新潟県教育庁文化行政課専門調査員）
　　渡邉　祐司（新潟県教育庁文化行政課主任調査員）
　　塩野　寛人（新潟県教育庁文化行政課文化財調査員）

２　調査の概要

令和元年５月から令和２年 12 月までに行った調査は、第１～４表、調査箇所は第１図のとおりである。本書では、試掘・確認調査の主な成果について報告する。



第１図　試掘・確認調査、分布調査位置図

※番号は第１・２表「位置番号」と一致する。

年度	事業者		調査種別	事業名	位置番号	所在地・地区名	調査期間	調査※1 当初面積	実績面積	調査面積	調査結果 本調査必要範囲	時代	遺跡名等	遺構面数
令和元年度	国土交通省	新潟国道	試掘	一般国道７号 朝日温海道路事業	3	村上市堀ノ内地区 (推定地24)	６月７日～６月10日、 10月８日～10月17日、 １月23日～１月27日	171,769	25,583	518	2,080	古代 中世	竹ノ下	1
			試掘		7	村上市勝木地区 (推定地19)	９月25日～10月２日		16,800	265	－			
			試掘		8	村上市立島地区 (推定地17)	９月10日～９月13日		10,400	172	－			
			試掘		10	村上市北黒川地区 (推定地13)	７月18日・19日		10,400	117	－			
			試掘		11	村上市北中地区 (推定地11)	11月28日		4,600	9	－			
			試掘		14	村上市大須戸地区 (推定地７ STA.No.679＋50～681＋00)	10月23日～29日		13,400	223	－			
			試掘			村上市大須戸地区 (推定地７ STA.No.673＋85～675＋90)	６月３日～５日		11,760	147	－			
			試掘			村上市大須戸地区 (推定地７ STA.No.671＋60～673＋00)	10月30日～11月１日		9,300	18	－			
			試掘		15	村上市大須戸地区 (推定地６STA.No.667＋11～667＋38)	７月２日		2,122	39	－			
			試掘			村上市大須戸地区 (推定地６ STA.No.656＋40～665＋60)	７月16日・17日、 ８月27日～29日、 ９月18日、10月３日		23,300	41	－			
			試掘		16	村上市塩野町地区 (推定地５)	６月６日		1,500	33	－			
			試掘		18	村上市檜原地区 (推定地２)	６月６日～６月13日		15,400	225	－			
			確認		19	村上市檜原地区 (上野遺跡)	11月18日～11月22日		7,540	109	6,179	縄文 後期	上野	1
			確認			村上市猿沢地区 (上野遺跡)	５月29日・30日		1,654	58				
			試掘		21	村上市猿沢地区 (推定地１)	11月14日・15日		2,200	95	－			
			試掘	一般国道７号 新発田拡幅事業	24	新発田市小舟町地区～城北町地区	９月２日～９月６日	7,683	7,683	115	－			
			試掘	一般国道７号 栗ノ木道路事業	25	新潟市中央区長嶺地区～JR地内	12月10日・11日	2,554	2,554	46	－			
			試掘	一般国道７号 紫竹山道路事業	26	新潟市中央区紫竹山地区～東区紫竹地区	５月27日・28日	1,990	1,990	67	－			
			実施：４件18か所				小計	183,996	168,186	2,297	8,259			
		長岡国道	試掘	一般国道８号 福島新田交差点事故対策事業	33	三条市一ツ屋敷新田地区	８月22日	950	950	9	－			
			試掘	一般国道17号 和南津改良事業	39	長岡市川口和南津地区	６月12日・13日	4,192	4,192	147	－			
			試掘	一般国道17号 浦佐バイパス事業	40	南魚沼市浦佐地区	６月14日・17日	6,100	6,100	45	－			
			試掘	一般国道253号 八箇峠道路事業	41	南魚沼市余川地区	11月25日・26日	3,000	3,000	66	1,600	古代	金屋	1
			試掘	一般国道17号 六日町バイパス事業	42	南魚沼市竹俣地区	６月18日～６月21日	8,246	8,246	198	－			
			実施：５件５か所				小計	22,488	22,488	465	1,600			
		高田河川	確認	一般国道253号 上越三和道路事業	49	上越市駒林地区	９月19日	2,077	2,077	92	2,077	古代	舘	1
			実施：１件１か所				小計	2,077	2,077	92	2,077			
	実施：10件24か所						合計	208,561	192,751	2,854	11,936			

第１表　令和元年度　試掘・確認調査一覧

※１：「当初」は事業者からの要望対象面積、「実績」は取り扱い判断した面積、「調査」はトレンチ面積を示す。

年度	事業者		調査種別	事業名	位置番号	所在地・地区名	調査期間	調査結果
令和元年度	国土交通省	羽越河川	分布	一般国道７号 朝日温海道路事業	6	村上市碁石地区	10月15日	試掘調査不要
			分布	一般国道７号 檜原地区交通安全対策事業	20	村上市檜原地区	11月13日	試掘調査不要
			分布	一般国道113号 鷹ノ巣道路事業	23	関川村大内渕地区	８月23日	試掘調査不要
		新潟国道	分布	一般国道49号 水原バイパス事業	27	阿賀野市窪川原地区～下黒瀬地区	６月20日	試掘調査不要
		長岡国道	分布	一般国道８号 上新田南交差点事故対策事業	34	見附市上新田町地区	12月23日	試掘調査不要
			分布	一般国道８号 曽地チェーン着脱場事業	35	柏崎市曽地地区	12月23日	**試掘調査必要**
			分布	一般国道17号 木津交差点除雪車回転場事業	36	小千谷市ひ生地区	12月20日	**試掘調査必要**
			分布	一般国道17号 東川口地区土石流対策工事業	37	長岡市東川口地区	12月20日	試掘調査不要
			分布	一般国道17号 川口待避所事業	38	長岡市川口中山地区	12月20日	**試掘調査必要**
			分布	一般国道253号 八箇峠道路事業	41	南魚沼市余川地区	10月24日	**試掘調査必要**
			分布	一般国道17号 塩沢駅入口交差点事故対策事業	43	南魚沼市塩沢地区	12月９日	試掘調査不要
			分布	一般国道17号 上一日市地区歩道事業	44	南魚沼市上一日市地区～下一日市地区	12月９日	試掘調査不要
			分布	一般国道17号 湯沢町湯沢地区土石流対策工事業	45	湯沢町湯沢地区	12月17日	試掘調査不要
			分布	一般国道17号 神立待避所事業	46	湯沢町神立地区	12月17日	**試掘調査必要**
			分布	一般国道17号 三俣防災事業	47	湯沢町三俣地区～神立地区	11月５日	**試掘調査必要**
		高田河川	分布	一般国道８号 大潟除雪基地事業	48	上越市大潟区渋柿浜地区	12月16日	**試掘調査必要**

第２表　令和元年度　分布調査一覧

年度	事業者		調査種別	事業名	位置番号	所在地・地区名	調査期間	調査※1			調査結果			
								当初面積	実績面積	調査面積	本調査必要範囲	時代	遺跡名等	遺構面数
令和２年度	国土交通省	羽越河川	確認	一般国道７号 朝日温海道路事業	1	村上市中浜地区 (法妙遺跡)	６月１日～６月４日	4,500	4,500	166	－	縄文	法妙	
			試掘		2	村上市中浜地区 (推定地25)	10月６日・10月７日	2,100	2,100	61	－			
			確認		3	村上市堀ノ内地区・寺沢地区(推定地24)	４月22日、６月５日・６月８日・6月24日、７月６日	4,646	4,646	231	900	古代 中世	竹ノ下	1
			確認		4	村上市府屋地区 (大川城跡)	５月29日、６月１日、９月17日・18日	7,100	7,100	51	1,500	中世	大川城跡	1
			試掘		5	村上市府屋地区 (推定地23)	５月26日～５月28日	8,100	8,100	63	－			
			試掘		6	村上市碁石地区 (推定地21)	10月20日・21日	1,500	1,500	13	－			
			試掘		7	村上市勝木地区 (推定地19)	５月26日	1,100	1,100	11	－			
			実施：１件７か所				小計	29,046	29,046	596	2,400			
		新潟国道	試掘	一般国道７号 朝日温海道路事業	9	村上市中津原地区 (推定地15)	10月７日～10月９日	59,907	2,500	57	－			
			試掘		10	村上市北黒川地区 (推定地13)	７月20日～７月22日		6,100	81	－			
			試掘		12	村上市大毎地区 (推定地10)	７月７日～７月９日		9,380	113	－			
			試掘		13	村上市大毎地区 (推定地９_①)	９月７日～９月10日		16,500	122	－			
			試掘			村上市大毎地区 (推定地９_②)	10月５日		500	5	－			
			試掘		17	村上市早稲田地区 (推定地３)	７月10日・14日・15日		13,700	237	－			
			確認		19	村上市檜原地区 (上野遺跡)	７月16日		920	31	－	縄文 後期	上野	
			試掘		21	村上市猿沢地区 (推定地１)	７月20日		2,353	19	－			
			試掘		22	村上市川端地区 (推定地１)	７月17日		874	23	－			
			確認	一般国道49号 阿賀野バイパス事業	28	阿賀野市堀越地区	12月４日	270	270	40	－	平安 中世	蕪木	
			確認	一般国道49号 野村待避所事業	29	阿賀町野村地区	６月23日～６月25日、10月27日・28日	14,000	14,000	272	－	不明	野田原館跡	
			実施：３件11か所				小計	74,177	67,097	1,000				
		長岡国道	試掘	一般国道８号 曽地チェーン着脱場事業	35	柏崎市曽地地区	12月１日・２日	4,012	4,012	36	－			
			試掘	一般国道17号 川口待避所事業	38	長岡市川口地区	10月29日･30日	4,476	4,476	96	1,900	縄文 晩期	ササラ西	1
			試掘	一般国道253号 八箇峠道路事業	41	南魚沼市余川地区	11月16日～11月20日、11月24日・25日	11,460	11,460	176	1,310	古代	金屋	1
											4,820	古墳 古代	六日町藤塚	3
			試掘	一般国道17号 神立待避所事業	46	湯沢町神立地区	８月３日･４日	4,213	4,213	109	200	縄文 前期	宮林Ｂ	1
			実施：４件４か所				小計	24,161	24,161	417	8,230			
		高田河川	試掘	一般国道８号 大潟除雪基地事業	48	上越市大潟区渋柿浜地区	６月10日･11日	7,000	7,000	122	－			
			実施：１件１か所				小計	7,000	7,000	122				
	実施：９件23か所						合計	134,384	127,304	2,135	10,630			

第３表　令和２年度　試掘・確認調査一覧

※１：「当初」は事業者からの要望対象面積、「実績」は取り扱い判断した面積、「調査」はトレンチ面積を示す。

年度	事業者		調査種別	事業名	位置番号	所在地・地区名	調査期間	調査結果
令和２年度	国土交通省	新潟国道	分布	一般国道116号 新潟西道路	30	新潟市西区明田地区～西区曽和地区	12月９日	**試掘調査必要**
			分布	一般国道116号 吉田バイパス	31	燕市熊森地区～新潟市西蒲区高橋地区	12月８日・９日	**試掘調査必要**
			分布	一般国道８号 大通西交差点改良事業	32	新潟市南区大通地区	12月10日	**試掘調査必要**
		長岡国道	分布	一般国道17号 木津交差点除雪車回転場事業	36	小千谷市ひ生地内	４月27日 ６月18日	試掘調査不要

第４表　令和２年度　分布調査一覧

第Ⅱ章　令和元年度調査

１　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 24」（村上市堀ノ内（ほりのうち）地区）試掘調査

（１）立　地

日本海から約１km内陸に位置する。調査対象地は、大川右岸の沖積地及び段丘上と、これに連続する寺沢川の谷間の緩斜面に立地する。現況は水田・畑・荒地・山林で、標高は沖積地が 6.8～8.9m、段丘上が 14.2～23.2mである。周辺には東 100m に巻貝形土製品(国指定重要文化財)で著名な上山遺跡、大川を挟んで対岸に大川城跡・大川館跡が存在する。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成２年「温海」　１：50,000 原図）

（２）調査の概要

26 か所のトレンチを設定して試掘調査を行なった。段丘下の沖積地と段丘上から寺沢川の谷間まで間では堆積状況が異なる。段丘下では大川から供給される砂礫が含まれるのに対し、段丘上では寺沢川から供給される泥岩が多く含まれる。

（３）層　序

【段丘上～寺沢川谷間】１Ｔ～６Ｔ・12Ｔ～18Ｔ

寺沢川が主な供給源であり、上方は泥岩主体の土石流の礫が大きく、段丘崖近くでは礫の粒径が小さい。安定した時期に堆積したと思われる土層も見られる。

Ⅰ　層：褐色～暗褐色シルト（耕作土）

Ⅰｂ層：褐灰色シルト（Ⅰ層とⅡ層の混合土）

Ⅰｃ層：褐色シルト（旧耕作土か？）　炭化粒を少量含む。

Ⅱ　層：褐灰色砂礫（ほ場整備時の整地土）　下部に酸化鉄分・マンガンが沈着するトレンチもある。

Ⅲ　層：褐灰色～暗褐色シルト（遺物包含層）　炭化粒やや多く混入する。

Ⅳ　層：褐色～青灰色シルト（遺構検出面）　泥岩主体の砂礫が多く混入する。

Ⅴ　層：褐色～暗青灰色砂礫　泥岩主体の砂礫土。

【段丘下】７Ｔ～11Ｔ・19Ｔ～26Ｔ

大川右岸の沖積地であり、一部の微高地を除き、多くは氾濫原と推定される。

Ⅰ　層：暗褐色シルト（水田耕作土）

Ⅱ　層：暗褐色砂礫（ほ場整備時の整地土）

Ⅲ　層：灰色シルト～粘土（遺物包含層）　炭化粒がやや多く見られる。

Ⅳ　層：灰色砂（洪水堆積層）　炭化粒は含まれない。

Ⅳｂ層：灰色シルト～粘土（遺構検出面）　炭化粒は含まれない。

Ⅴ　層：褐色砂礫土（大川氾濫原）

Ⅵ　層：Ⅱ層とⅢ層間に介在する砂礫層（洪水層堆積）　24Ｔのみに見られた。

（４）遺構

段丘上では、段丘崖近くの 15Ｔで土坑１基、ピット１基、18Ｔでピット１基を検出した。いずれも遺構検出面はⅣ層上面である。15Ｔ－ＳＫ１は長軸 90 ㎝・短軸 70 ㎝の隅丸方形を呈し、深さ 10 ㎝を測る。覆土は泥岩の小礫が混入する暗褐色シルトである。炭化粒がやや多く見られた。15Ｔ－Ｐ１は径 40×35 ㎝・深さ６㎝を測る。覆土は暗褐色シルトで、炭化粒が少量見られた。遺物は出土していないが、周辺からは製塩土器、黒色土器を含む土師器の細片が出土している。18Ｔ－Ｐ１は径 50×45 ㎝の円形を呈し、深さ 10 ㎝を測る。覆土には炭化物が極めて多く含まれていた。

段丘下では、21Ｔで３基のピットを検出した。いずれも遺構検出面はⅣｂ層上面である。21Ｔ－Ｐ１は径 25 ㎝を測り、ピット内から４点の鉄滓が出土した。鉄滓はいずれも椀形滓である。21Ｔ－Ｐ２は径 15 ㎝、21Ｔ－Ｐ３は径 35 ㎝を測る。21Ｔ－Ｐ３は東壁にかかり、断面を見る限りⅣｂ層上面から掘り込まれている。覆土はすべてのピットで同じであり、暗灰色シルトで炭化粒をやや多く含んでいる。

放射性炭素年代測定の結果は 15Ｔ－ＳＫ１は 105±20ＢＰ（calＡＤ1,687～1,927）、18Ｔ－Ｐ１は 775±20ＢＰ（calＡＤ1,222～1,276）である。18Ｔ－Ｐ１は、おおむね妥当な年代が得られているが、15Ｔ－ＳＫ１は予想に反して新しい年代である。周辺からは黒色土器や製塩土器が出土していることや遺構検出面がⅣ層であることから今後検討する必要がある。

（５）遺物

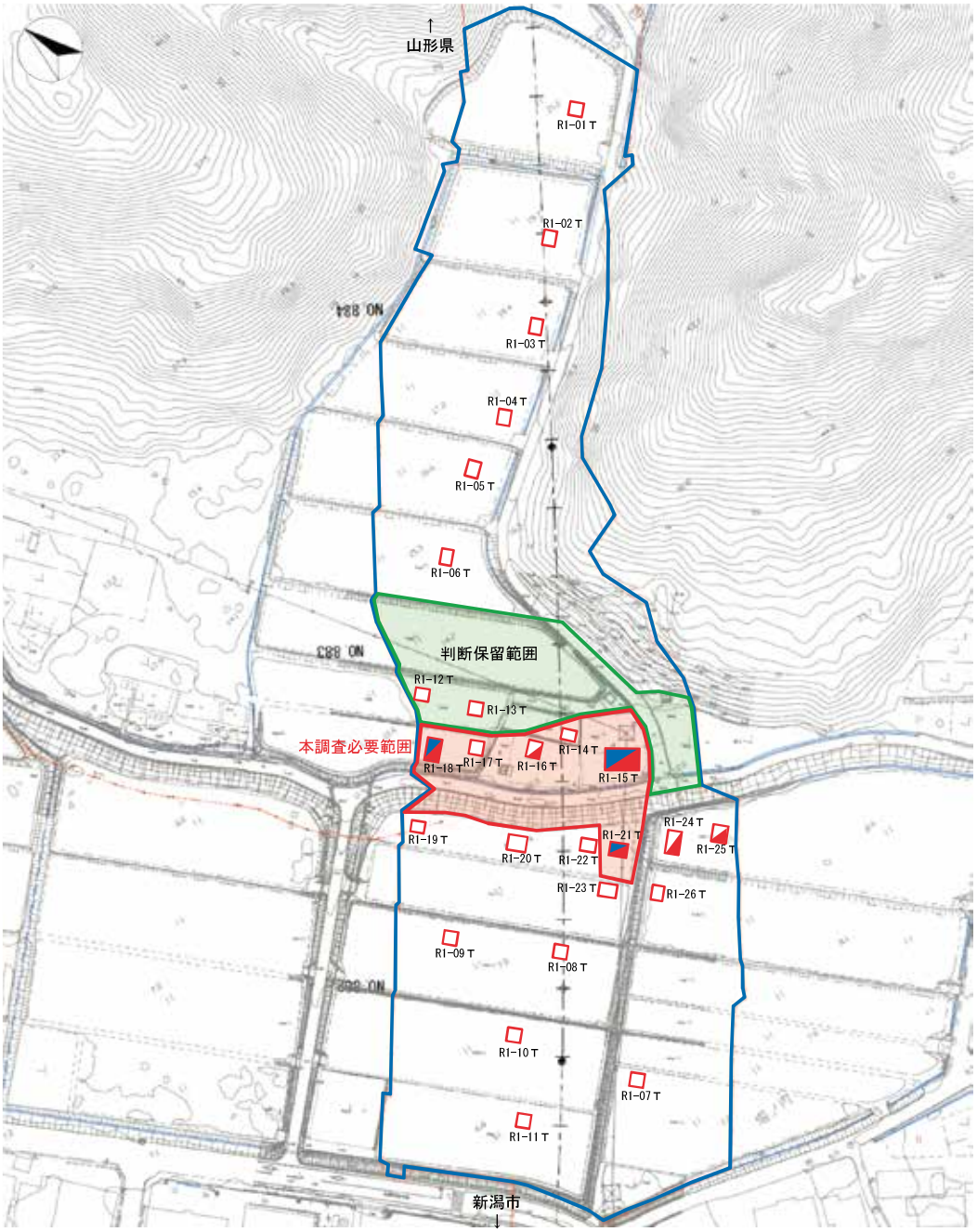
段丘上では、段丘崖近くの 15Ｔ・16Ｔ・18ＴのⅡ層・Ⅲ層で土師器・須恵器・珠洲焼・青磁が少量出土した。Ⅲ層は炭化粒が多く見られ、遺物包含層と推定される。Ⅱ層はほ場整備時の整地土で、遺物は分布調査時のものも含め原位置を保っていない。遺物は細片が多く所属時期がはっきりしないが、黒色土器椀、製塩土器から９世紀頃と推定され、珠洲焼、米色青磁は中世に所属する。

段丘下では、21Ｔ・24Ｔ・25ＴのⅡ・Ⅲ・Ⅴ層から土師器、須恵器、鉄滓が出土した。Ⅲ層は炭化粒が多く見られ、遺物包含層と推定される。Ⅱ層はほ場整備時の整地土、Ⅴ層は洪水堆積層からの出土であり、原位置を保っていない。21Ｔ－Ｐ１からは椀形滓が４点出土し、意図的に入れたものと思われる。

製塩土器、椀形滓の出土から周辺地域で製塩や製鉄が行われたことが推定される。遺物の所属時期は製塩土器から９世紀ころと考えられる。

（６）調査の結果と取扱い

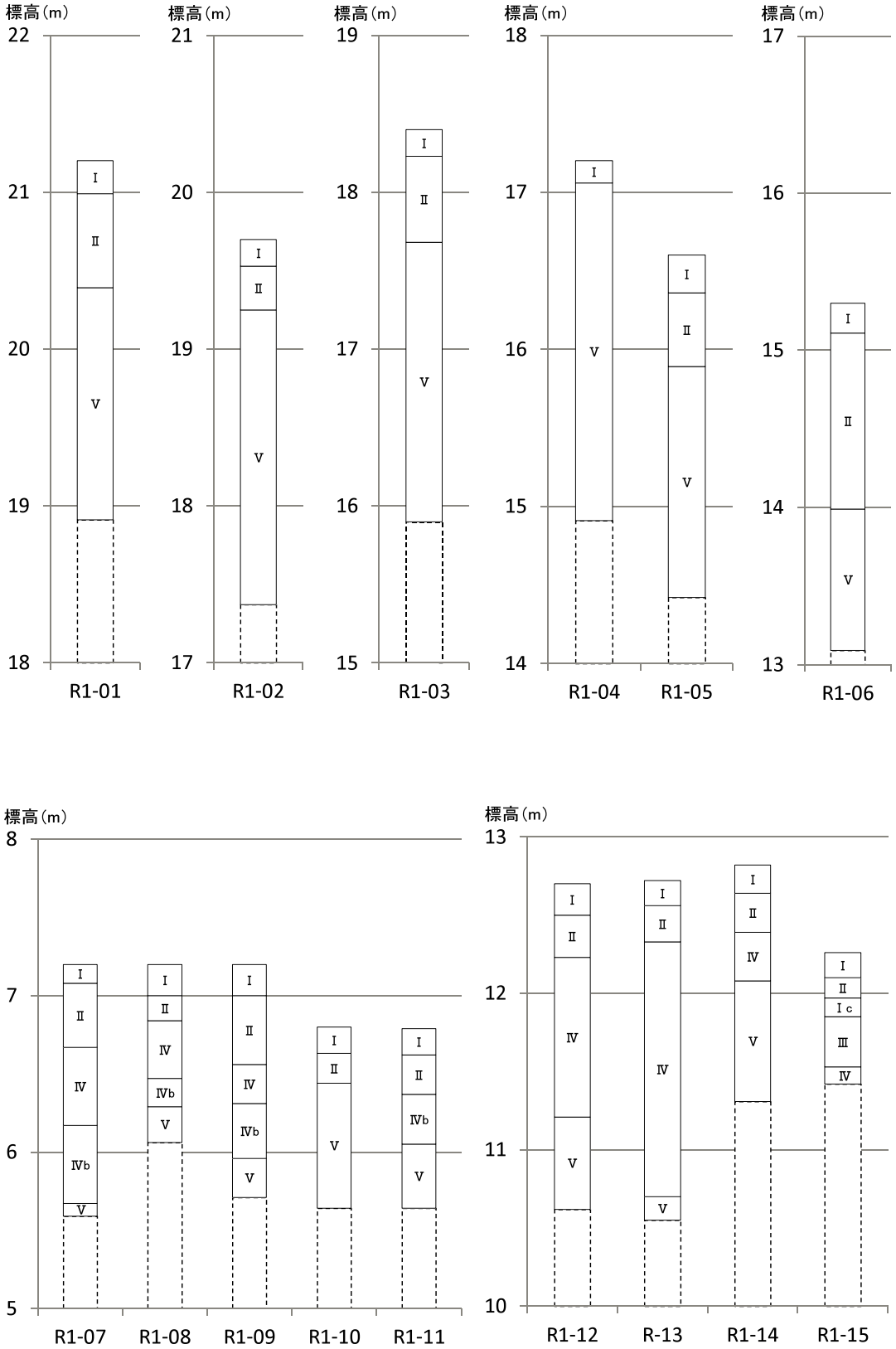
調査の結果、試掘対象地の一部を新発見遺跡「竹ノ下遺跡」とした。遺物・遺構の検出状況、地形の観察から段丘上、段丘崖、段丘下の 2,080 ㎡を本調査必要範囲とした。なお、未買収地で今回試掘調査ができなかった範囲を含め北側は判断保留とした。今後、未買収地の試掘調査を実施し、北側の本調査範囲を確定する必要がある。



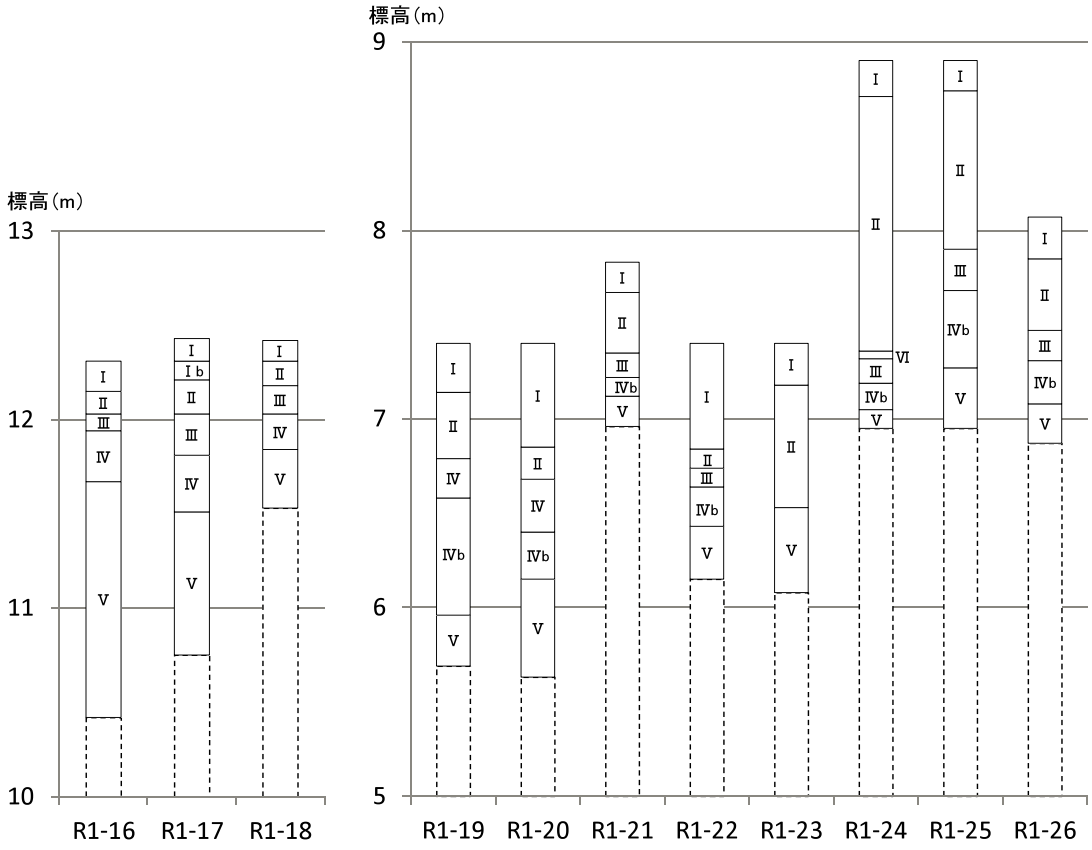
第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

第５図　調査対象地近景（Ｒ１－１～26Ｔ付近　南西から）

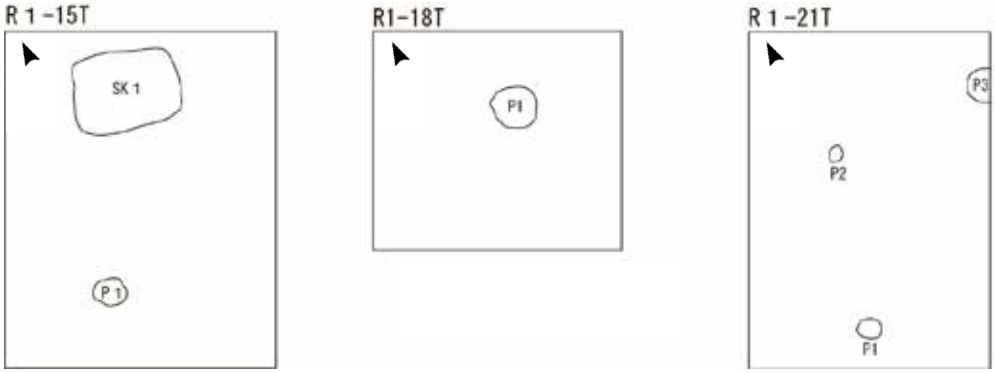
第６図　Ｒ１-15Ｔ全景（北から）



第３－１図　土層柱状図（１:40）



第３－２図　土層柱状図（１:40）



第４図　遺構平面図（１:80）

第７図　Ｒ１-15Ｔトレンチ断面（南西から）

第８図　　Ｒ１-15Ｔ遺構検出状況（南西から）

第９図　Ｒ１-17Ｔトレンチ断面（北西から）

第 10 図　Ｒ１-18Ｔ全景（東から）

第 11 図　Ｒ１-21Ｔトレンチ断面（北西から）

第 12 図　Ｒ１-21Ｔ全景（北から）

第 13 図　Ｒ１-21Ｔ出土遺物

第 14 図　Ｒ１-21Ｔ出土遺物

第 15 図　Ｒ１-24Ｔ出土遺物

第 16 図　Ｒ１-25Ｔ出土遺物

２　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 19」（村上市勝木（がつぎ）地区）試掘調査

（１）立　地

調査対象地は日本海から約 800ｍ内陸の勝木川下流部に位置する。日本海に注ぐ勝木川右岸の沖積地及びこれから東に続く小田沢の谷間に立地する。標高は前者が７～９ｍ、後者が 10～19ｍで、現況は水田、畑、荒地である。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 16 年「勝木」　１：50,000 原図）

（２）調査の概要

16 か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。１Ｔ～９Ｔ（沖積地）と 10Ｔ～16Ｔ（小田沢の谷間）では堆積状況が異なる。

（３）層　序

【１Ｔ～９Ｔ】

客土以外は、勝木川起源と小田沢起源の砂礫が混在する。

０　層：明褐色シルト（盛土）泥岩が多く混入する。山北徳洲会病院の建設残土の搬入土。

０ｂ層：褐色～暗褐色砂礫土（ほ場整備に伴う整地土）

０ｃ層：暗褐色～黒褐色砂礫土（旧表土下の整地土）

Ⅰ　層：灰色～暗褐色シルト～砂質シルト（表土・水田耕作土）　小砂礫を多く含む。

Ⅰｂ層：暗褐色シルト　（旧表土）

Ⅱ　層：オリーブ灰色砂

Ⅲ　層：灰色～暗褐色粘土

Ⅳ　層：灰色～褐色砂礫土

【10Ｔ～16Ｔ】

客土以外は小田沢起源の砂礫（泥岩）である。

０　層：明褐色シルト（盛土）泥岩が多く混入する。山北徳洲会病院の建設残土の搬入土。

０ｂ層：灰黄褐色砕石（ほ場整備に伴う整地砕石）

Ⅰ　層：褐灰色～褐色シルト（表土・水田耕作土）

Ⅰｂ層：黒褐色シルト（旧表土）

Ⅱ　層：オリーブ灰色粘土　小砂礫か多く混入する。

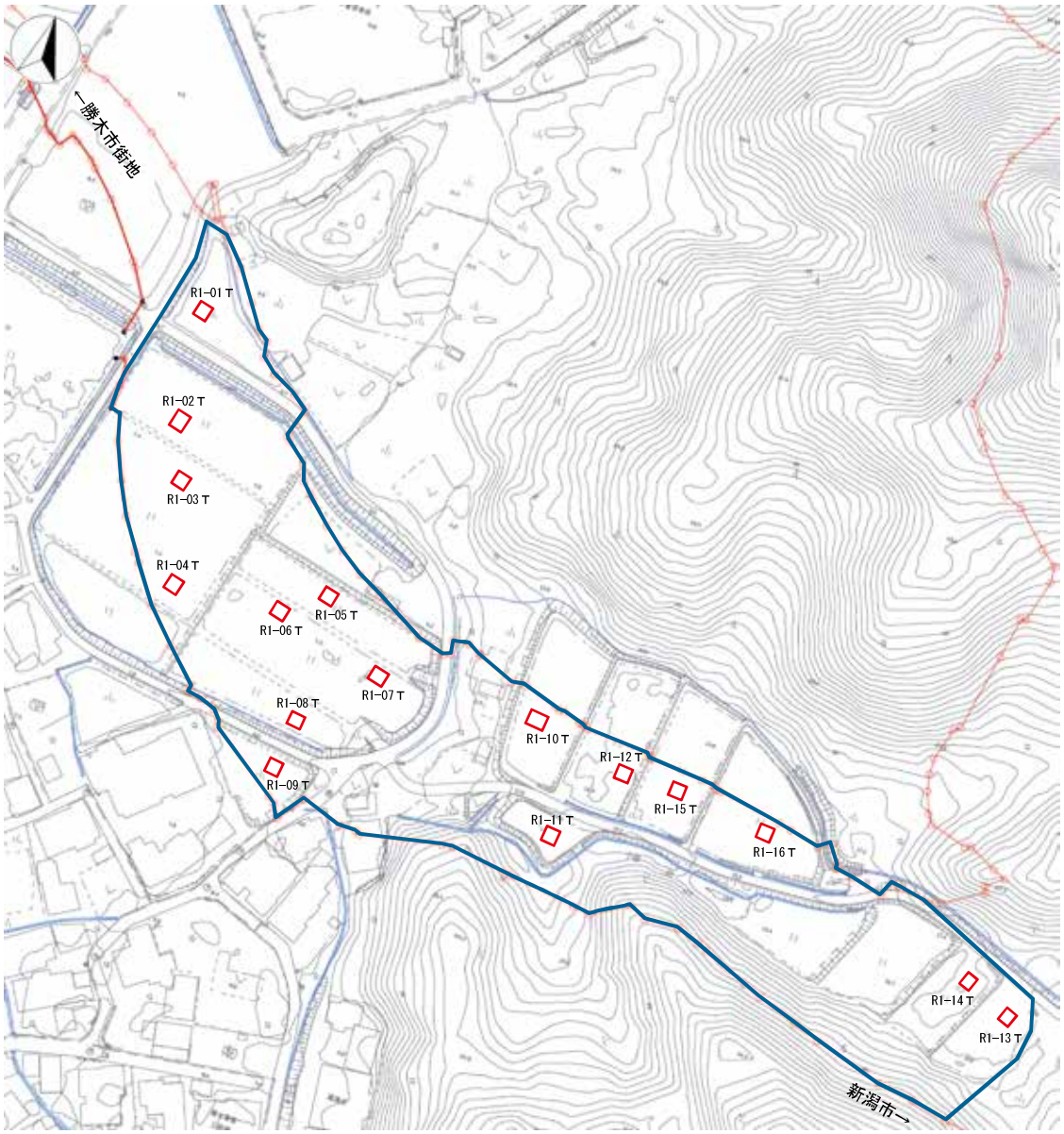
Ⅲ　層：オリーブ灰～暗灰色砂礫土　下部には未分解植物を含む。土石流に伴う泥岩の大礫が多い。

（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

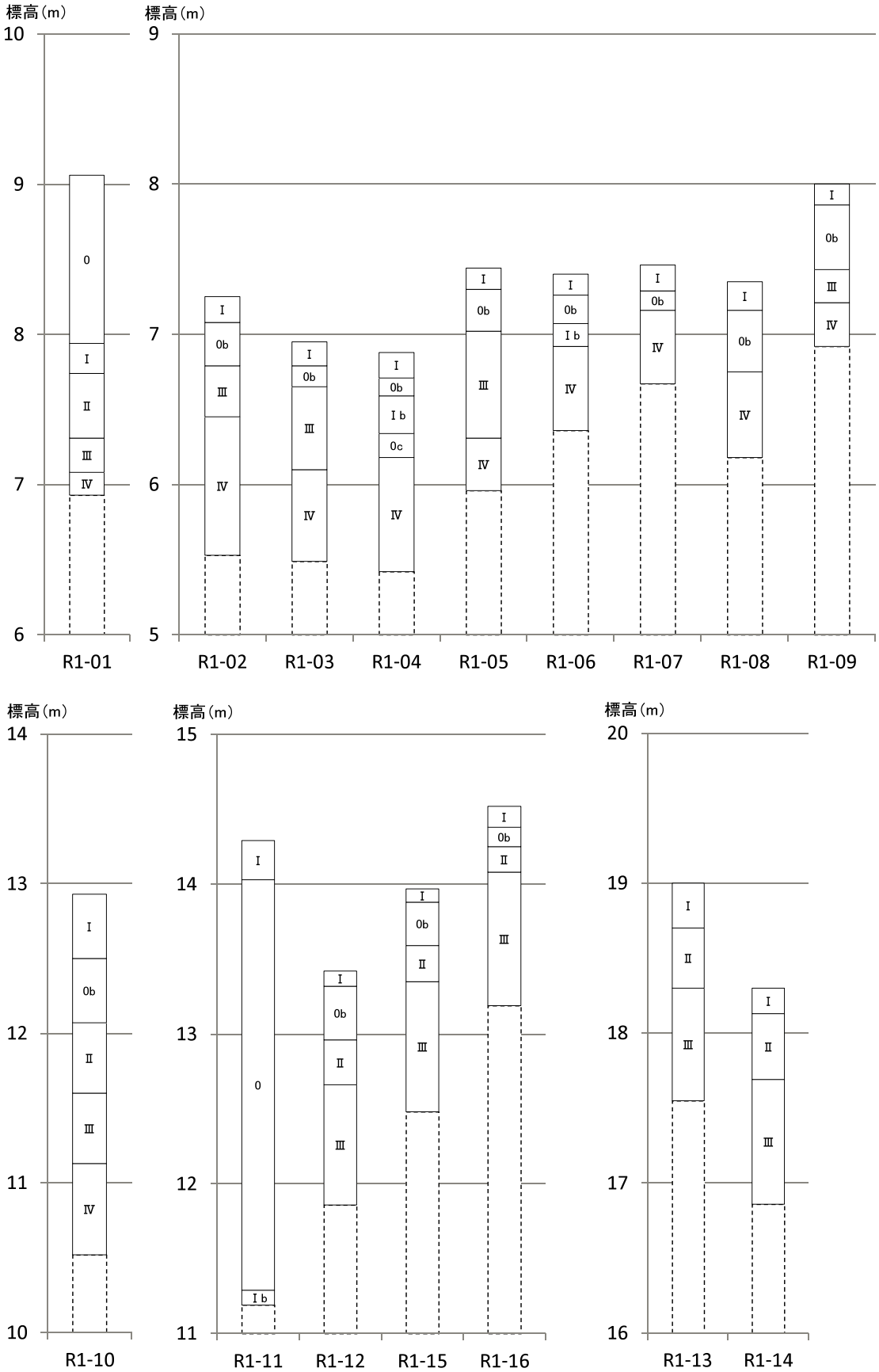
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお、未買収地で試掘調査ができなかった範囲については、地形や周辺のトレンチから同様の土層堆積状況を示すものと思われる。したがって、試掘調査は不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

第４図　調査対象地近景（Ｒ１－１～16Ｔ付近　西から）

第５図 Ｒ１－１Ｔ断面（東から）



第３図　土層柱状図（１:40）

３　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 17」（村上市立島（たてしま）地区）試掘調査

（１）立　地

調査対象地は勝木川により形成された沖積地（１Ｔ～10Ｔ）と、これに注ぐ小川により堆積した微高地（11Ｔ・12Ｔ）からなる

（２）調査の概要

12 か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。１Ｔ～10Ｔと 11Ｔ・12Ｔでは、堆積状況が異なる。

（３）層　序

【1Ｔ～10Ｔ】

Ⅰ　層：暗褐色シルト（表土・水田耕作土）小砂利を多く含む。

Ⅱ　層：灰オリーブ粘土（ほ場整備時の整地土）

Ⅲ　層：黒褐色シルト（旧表土）　小砂利を多く含む。

Ⅳ　層：灰色シルト～砂　勝木川起源の洪水堆積層。

Ⅴ　層：褐色シルト～砂　勝木川起源の洪水堆積層。

Ⅵ　層：黄褐色砂礫　勝木川起源の洪水堆積層。

【11Ｔ・12Ｔ】

０　層：褐色砂礫土（盛土）

Ⅰ　層：黒褐色砂礫（表土）

Ⅰｂ層：暗褐色砂礫（旧表土）

Ⅱ　層：暗褐色砂礫　砂主体。

Ⅲ　層：褐色砂礫　砂主体。

Ⅳ　層：暗褐色砂礫　砂主体。

Ⅴ　層：褐色砂礫　礫主体。

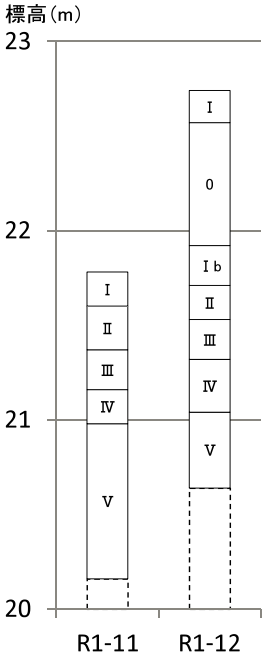
（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

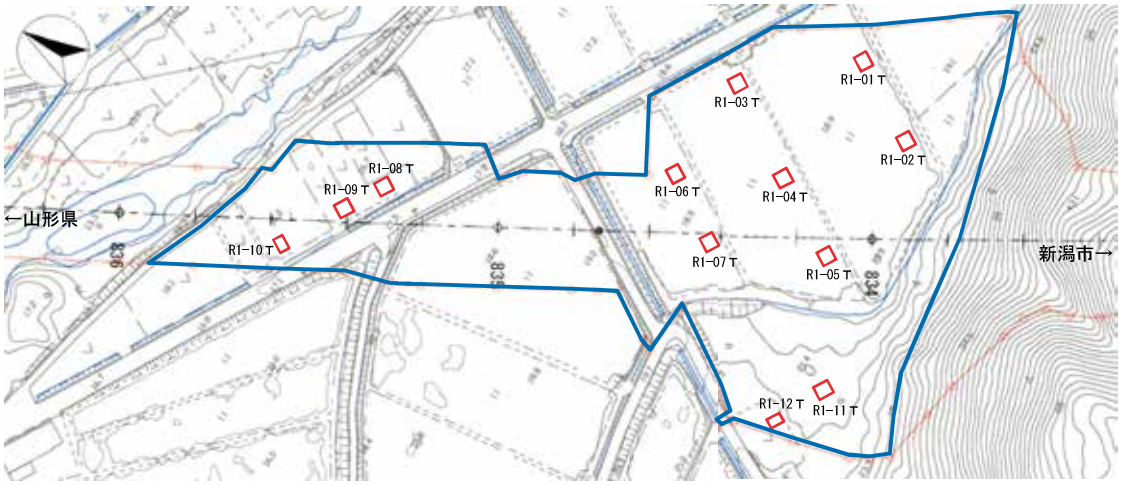
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお、未買収地で試掘調査ができなかった範囲については、地形や周辺のトレンチから同様の土層堆積状況を示すものと思われる。したがって、試掘調査は不要と判断する。

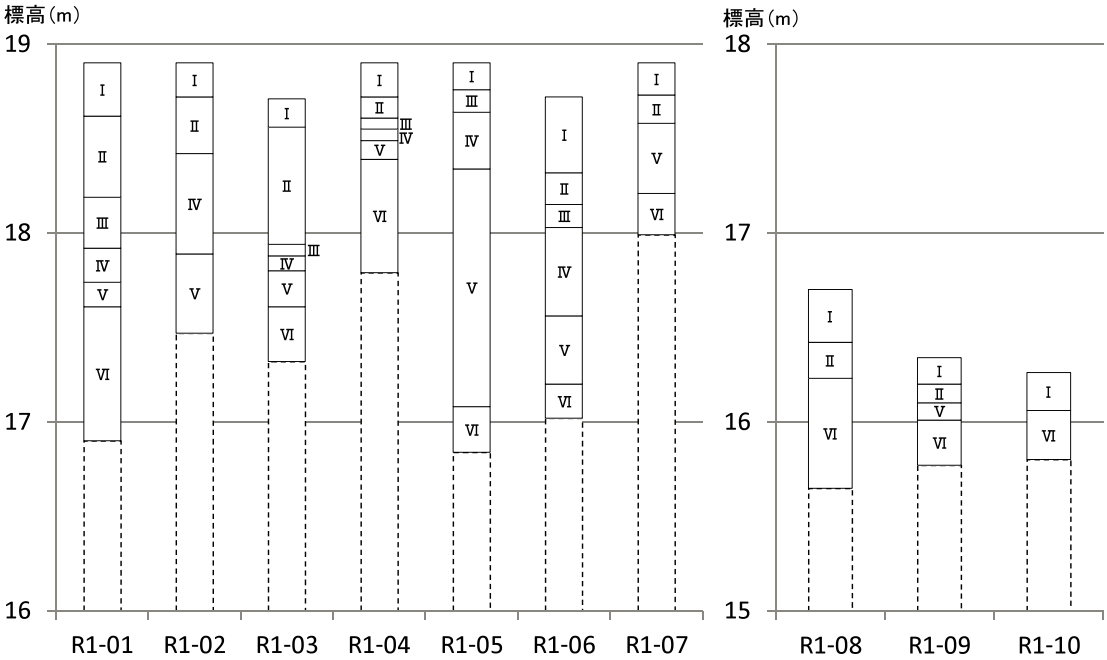
第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 16 年「勝木」　１：50,000 原図）



第３－１図　土層柱状図（１:40）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３−２図　土層柱状図（１:40）

第４図　調査対象地近景（Ｒ１−１〜12Ｔ付近　東から）

第５図　Ｒ１−１Ｔトレンチ断面（北西から）

４　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 13」（村上市北黒川（きたくろかわ）地区）試掘調査

（１）立　地

日本海から約７㎞内陸の岩船山地北部に位置する。日本海に注ぐ勝木川の右岸沿いの河岸段丘上に立地し、現河床との比高は約 10ｍを測る。標高は 93～95ｍほどで、現況は水田である。

（２）調査の概要

８か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地は河岸段丘上であり、基盤層は勝木川の氾濫原堆積物の砂礫である。

（３）層　序

Ⅰ　層：黒褐色シルト（水田耕作土）　小砂礫が混入する。

０　層：褐灰色砂礫土（ほ場整備時の整地土）

Ⅰｂ層：暗褐色シルト（旧表土）　小砂礫が混入する。

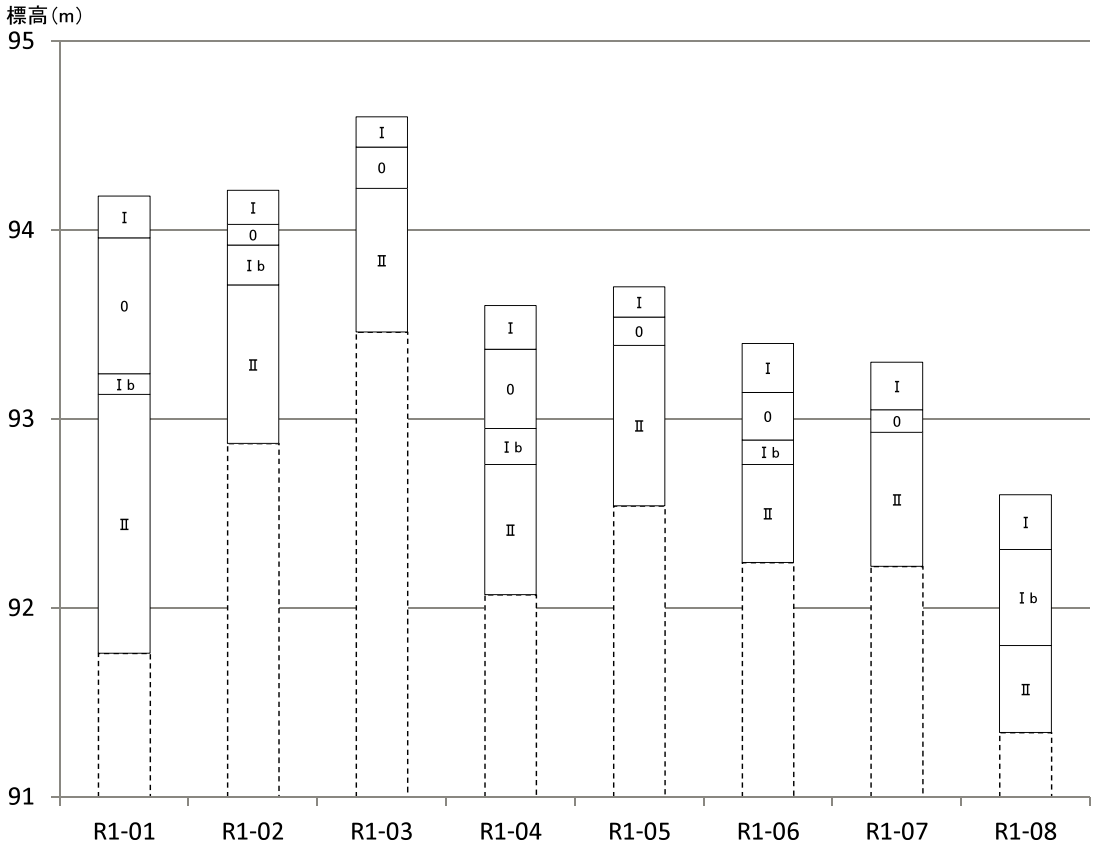
Ⅱ　層：灰黄褐色砂礫土　（基盤層）

（４）遺構・遺物

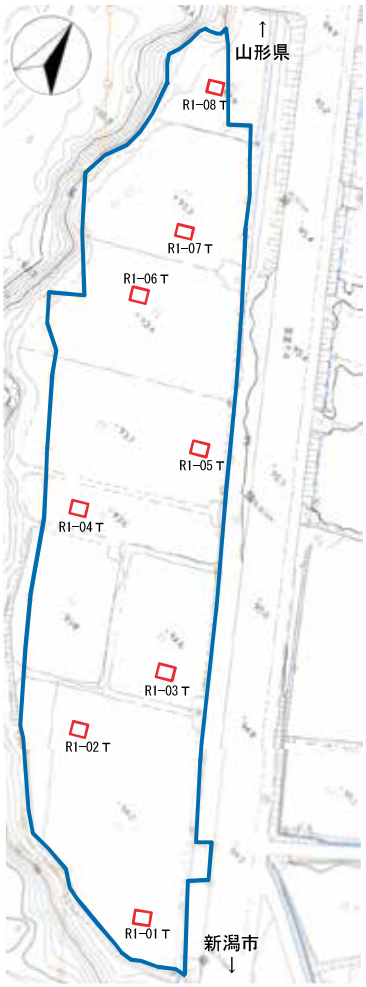
遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第３図　土層柱状図（１:40）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

第４図　調査対象地近景（東から）

第５図　Ｒ１−１Ｔトレンチ断面（北西から）

第６図　Ｒ１−４Ｔトレンチ断面（北西から）

第７図　Ｒ１−６Ｔトレンチ断面（北西から）

第８図　Ｒ１−７Ｔトレンチ断面（北西から）

５　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 11」（村上市北中（きたなか）地区）試掘調査

（１）立　地

調査対象地は岩船山地北東部の内陸に位置する。調査対象地は２か所に分かれる。①地点は岩船山地の北東に延びる支尾根の頂部付近、②地点は同じく岩船山地の北東に延びる支尾根の裾部に立地する。標高は①地点:161～169m、②地点：114～120mを測る。現況はいずれも杉林である。

（２）調査の概要

４か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。①地点に R1-01T・02T を②地点に R1-03T・04T を設定した。

（３）層　序

Ⅰ　層：暗褐色シルト（表土）

Ⅱ　層：褐色シルト（Ⅲ層への漸移層）

Ⅲ　層：黄褐色シルト　②地点では泥岩が多く混入する。

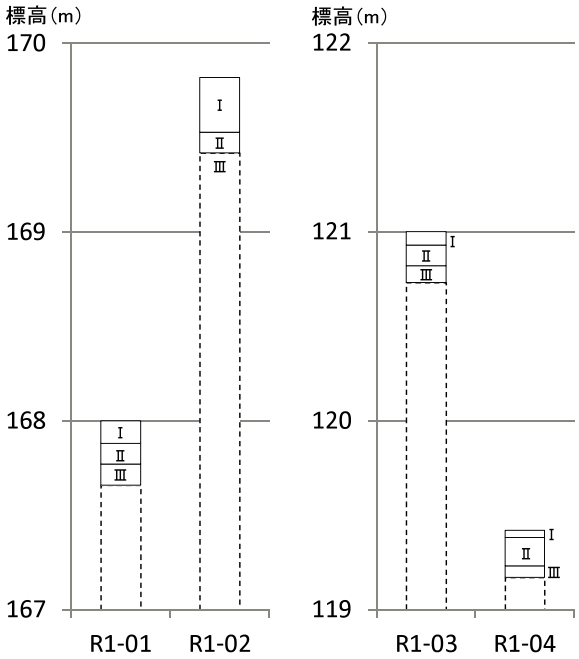
（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。また、山城等の人工的な痕跡も認められなかった。

（５）調査の結果と取扱い

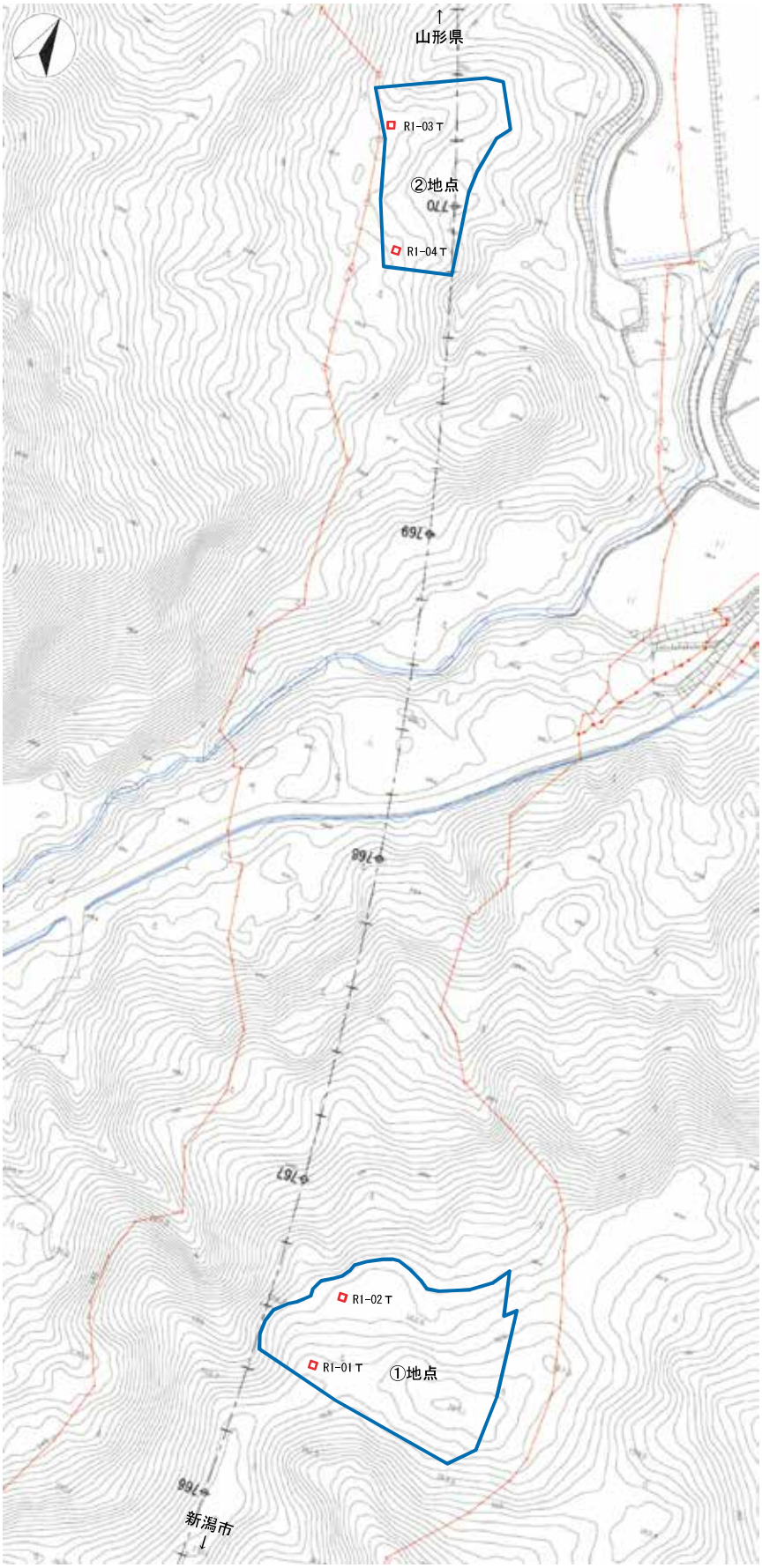
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお、未伐採地や貯木場で試掘調査ができなかった範囲については、地形やその周辺のトレンチから同様の土層堆積状況を示すものと思われる。したがって、試掘調査は不要と判断する。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 16 年「勝木」　１：50,000 原図）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　Ｒ１−１Ｔトレンチ断面（西から）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

６　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地７（センター杭 No.679＋50～681＋00）」

（村上市大須戸（おおすど）地区）試掘調査

（１）立　地

調査対象地は岩船山地の東側、大須戸川右岸に位置する。その支流の米ヶ沢左岸の河岸段丘最上位に立地する。標高は 124～128ｍほどで、現況は水田、畑である。

（２）調査の概要

14 か所のトレンチで試掘調査を行った。調査対象地は米ヶ沢右岸の河岸段丘上であり、基盤層は米ヶ沢に起因する土石流堆積物である。加えてほ場整備による地形改変のため、旧地形の遺存している部分は非常に少なかった。

（３）層　序

Ⅰ　層：暗褐色シルト（現耕作土）

Ⅱ　層：暗褐色砂礫土(ほ場整備に伴う整地土)

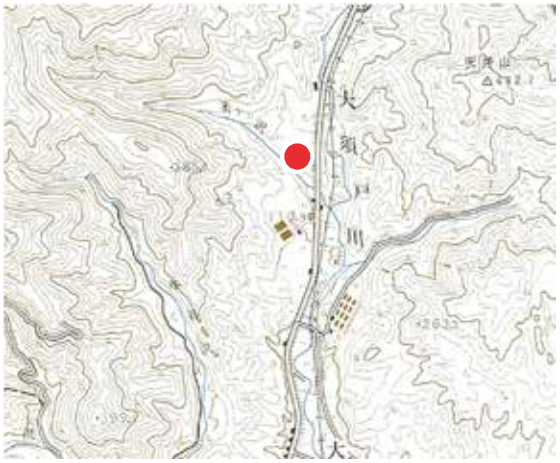
Ⅲａ層：黒褐色シルト（旧耕作土）

Ⅲｂ層：暗褐色～黒褐色砂礫土（旧耕作土下の整地土）

Ⅳ　層：黄褐色シルト質砂

Ⅴ　層：黄褐色～褐色～暗褐色砂礫土

Ⅳ　層･Ⅴ層は米ヶ沢起源の土石流堆積物である。



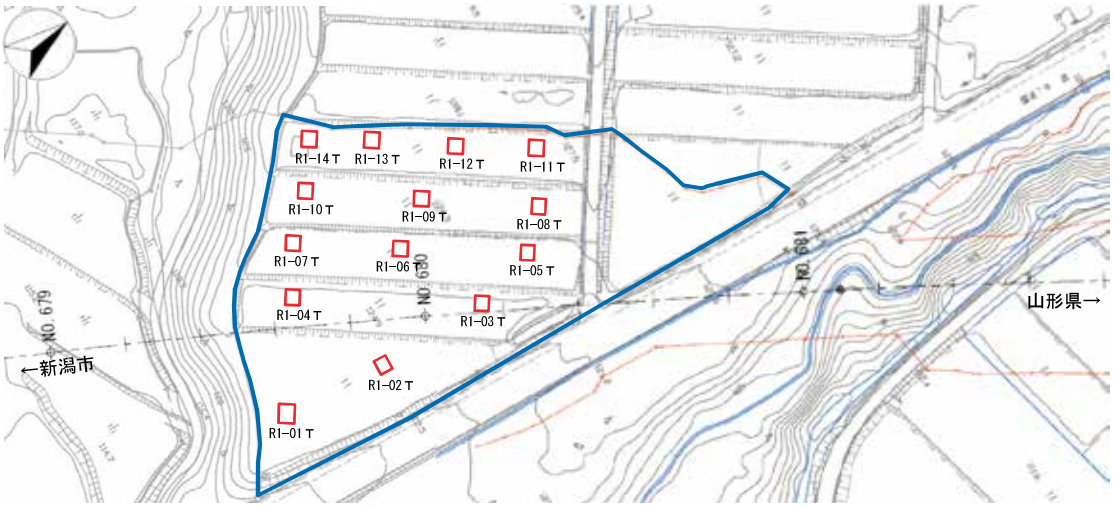
第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 16 年「勝木」　１：50,000 原図）

（４）遺構・遺物

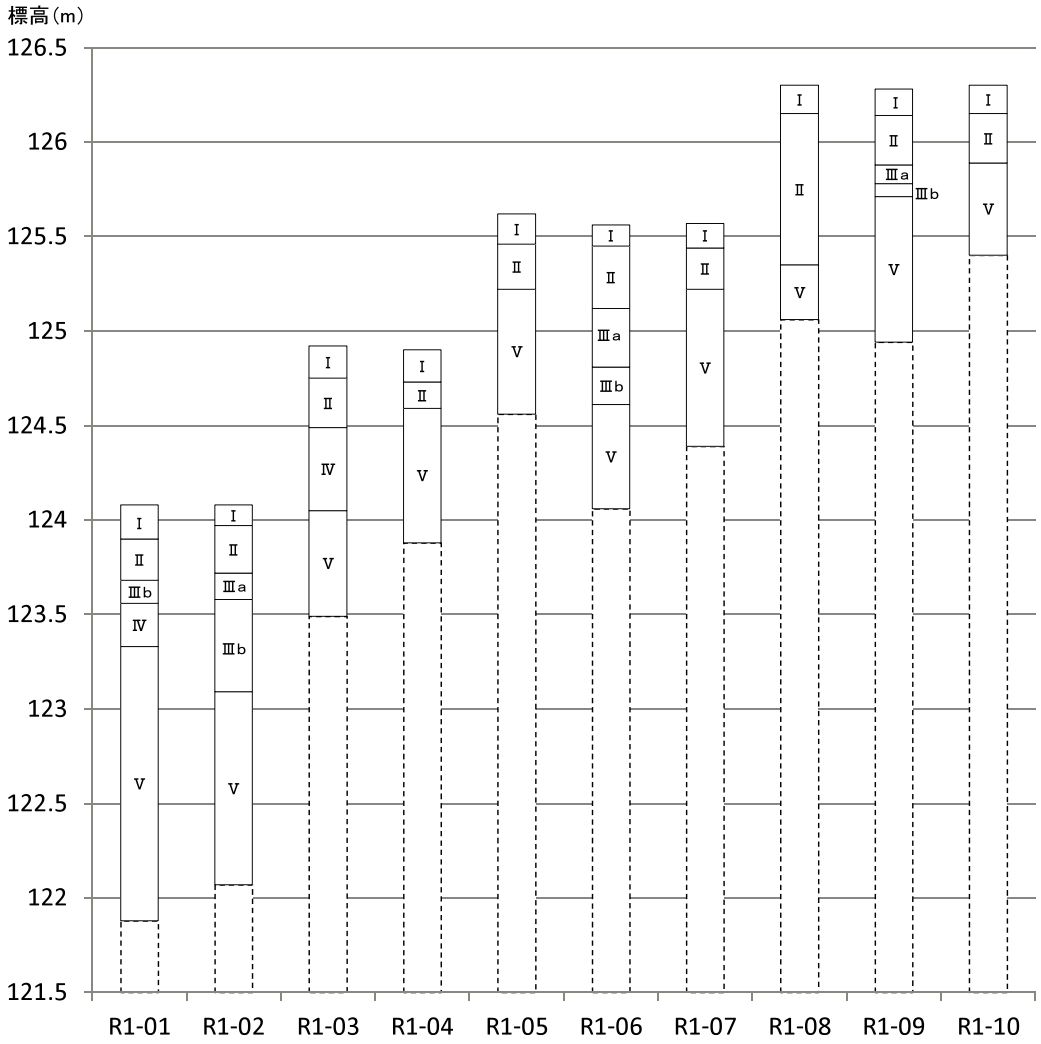
遺構・遺物は、検出されなかった。

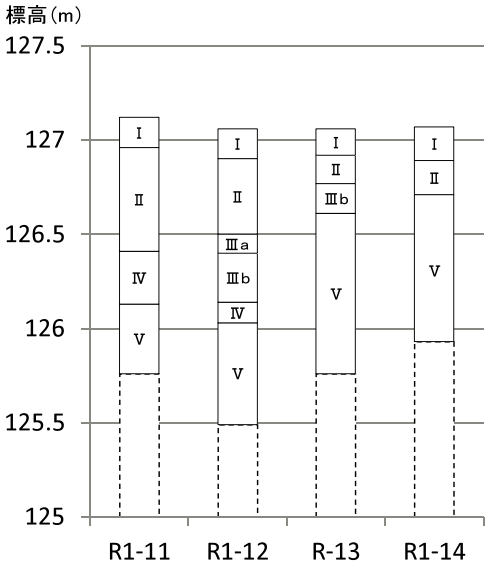
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお未買収地で試掘調査ができなかった範囲については、地形やその周辺のトレンチから同様の土層堆積状況を示すものと思われる。したがって、試掘調査は不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）





第３図　土層柱状図（１：40）

第４図　Ｒ１−６Ｔトレンチ断面（西から）

７　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地７（センター杭 No.673＋85～675＋90）」

（村上市大須戸（おおすど）地区）試掘調査

（１）立　地

岩船山地の東側、大須戸川に注ぐ小河川右岸の扇状地に立地する。標高は 114～121mほどで、現況は養鶏場跡地、水田、荒地である。

（２）調査の概要

９か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地は養鶏場造成時の整地、水田の圃場整備に伴う整地の盛土が厚く堆積し、盛土下は土石流堆積物が厚く堆積する。

（３）層　序

０　層：暗褐色～黒褐色砂礫土（盛土）

Ⅰ　層：黒褐色シルト（旧表土・現耕作土）

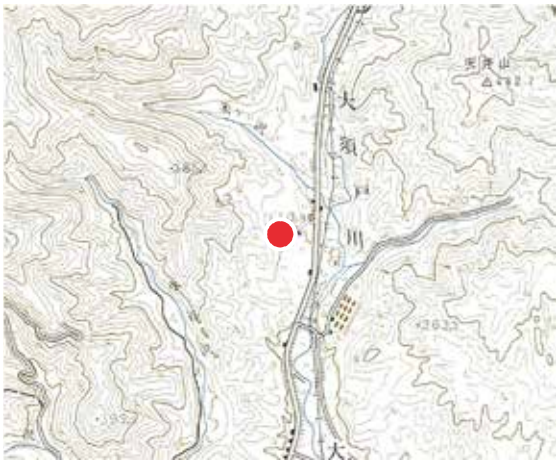
Ⅱ　層：暗褐色～褐色～褐灰色砂礫土（土石流堆積土）

（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

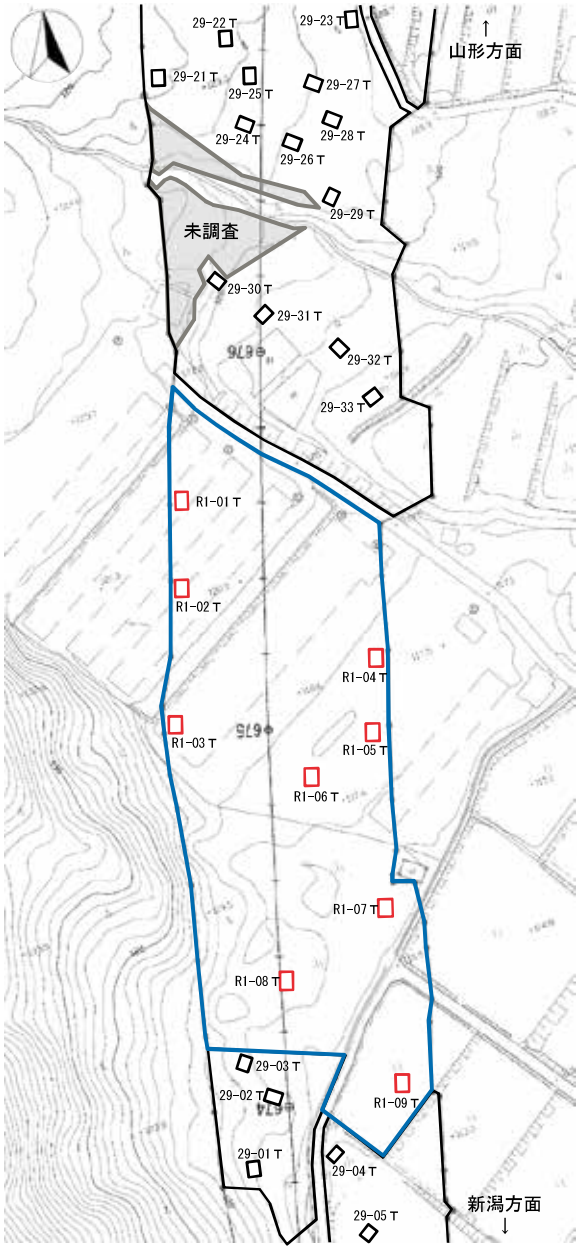


第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 16 年「勝木」　１：50,000 原図）

第４図　調査対象地近景（Ｒ１－１～９Ｔ付近　北西から）

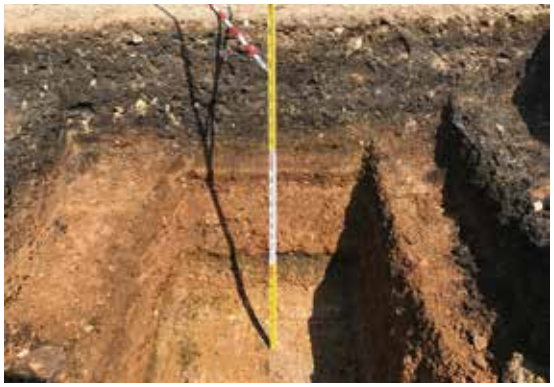
第５図　Ｒ１－１Ｔトレンチ断面（東から）

第６図　Ｒ１－３Ｔトレンチ断面（東から）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

第７図　Ｒ１−４Ｔトレンチ断面（西から）

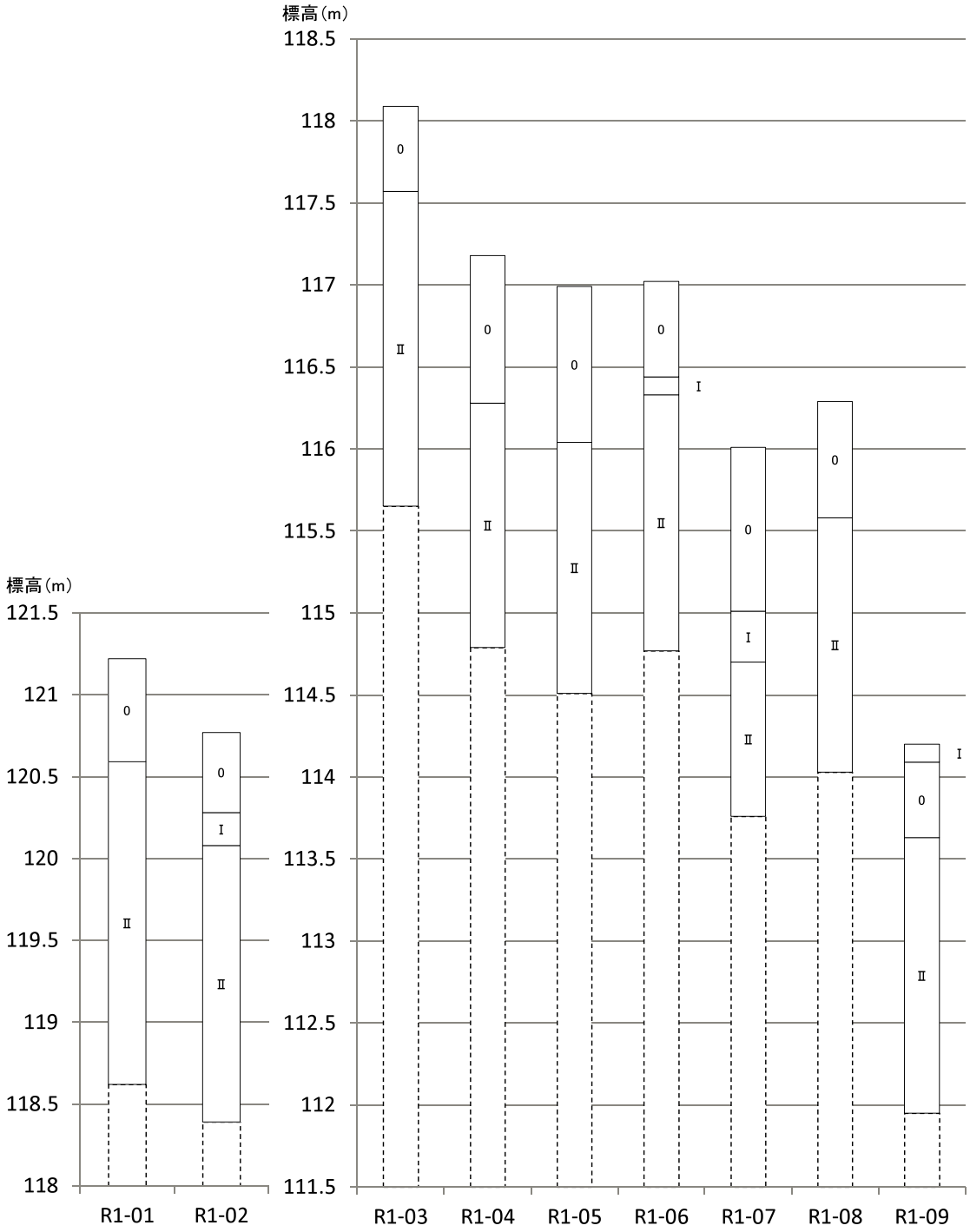


第８図　Ｒ１−５Ｔトレンチ断面（西から）

第９図　Ｒ１−７Ｔトレンチ断面（西から）

第 10 図　Ｒ１−８Ｔトレンチ断面（東から）

第 11 図　Ｒ１−９Ｔトレンチ断面（西から）



第３図　土層柱状図（１:40）

８　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地７（センター杭 No. 671＋60～673＋00）」

（村上市大須戸（おおすど）地区）試掘調査

（１）立　地

調査対象地は岩船山地の東側、大須戸川右岸側に位置する。岩船山地が大須戸川とその支流・米ヶ沢により形成された扇状地に接する丘陵緩斜面に立地する。標高は 108～118ｍほどで、現況は山林である。

（２）調査の概要

８か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地は丘陵緩斜面であり、大須戸川及び米ヶ沢の影響を受けていない。基盤層は泥岩を含む砂礫土である。

（３）層　序

Ⅰ　層：黒褐色シルト（表土）

Ⅱ　層：暗褐色シルト

Ⅲ　層：黄褐色～にぶい褐色シルト～砂礫土

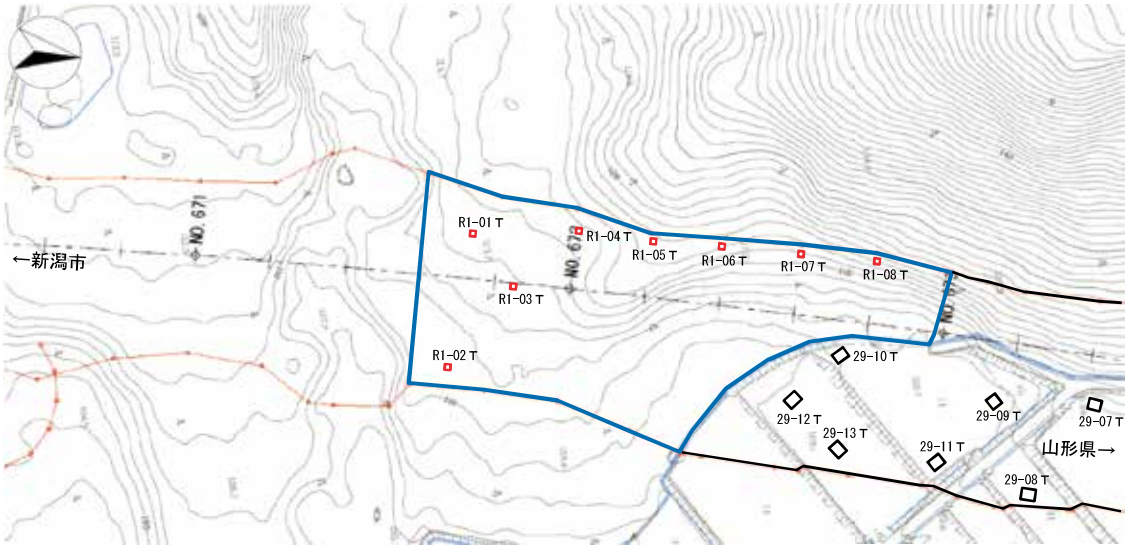
（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

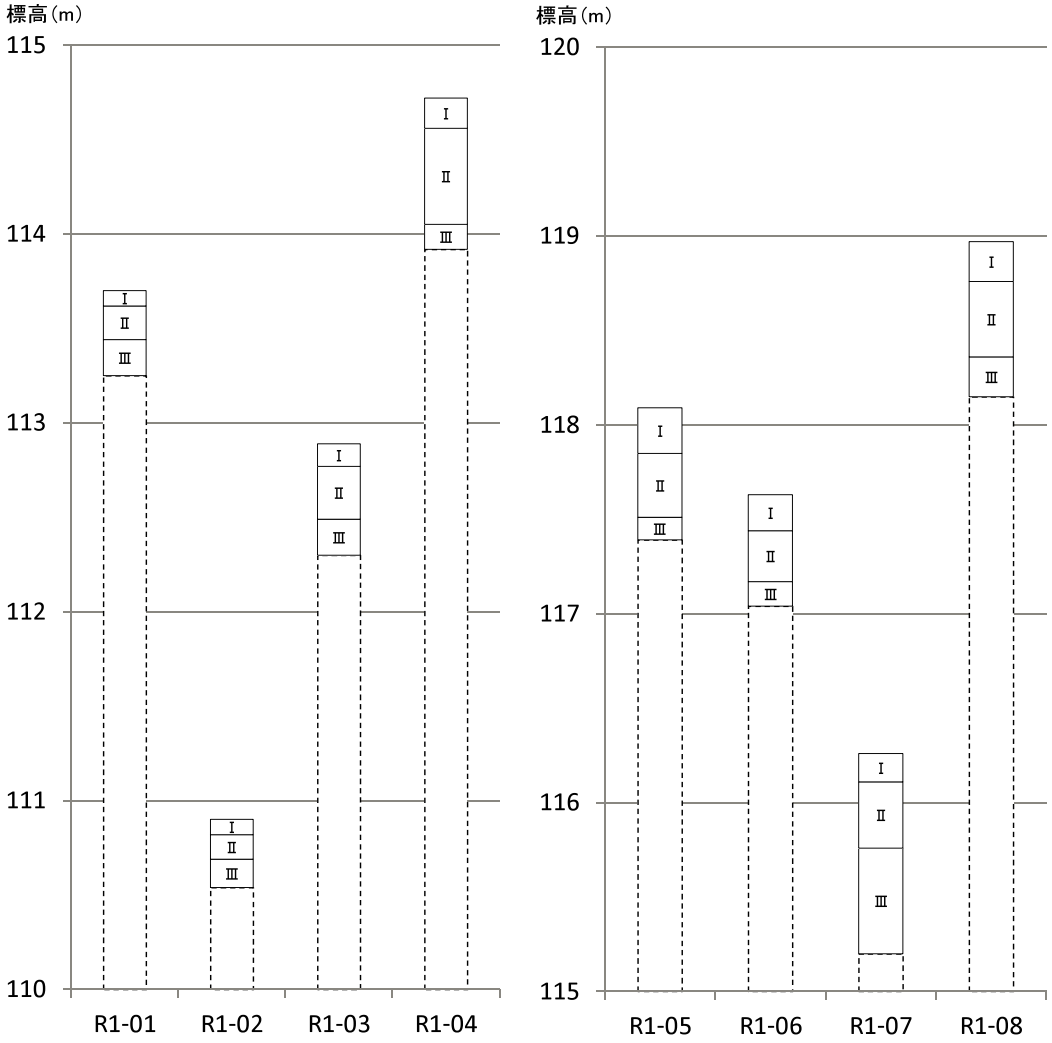
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお伐採木の貯木場で試掘調査ができなかった範囲については、地形やその周辺のトレンチから同様の土層堆積状況を示すものと思われる。したがって、試掘調査は不要と判断する。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 16 年「勝木」　１：50,000 原図）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　Ｒ１−２Ｔトレンチ断面（東から）

第５図　Ｒ１−４Ｔトレンチ断面（東から）

９　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地６（センター杭 No.667＋11～667＋38）」

（村上市大須戸（おおすど）地区）試掘調査

（１）立　地

調査対象地は、大須戸川右岸に位置し、岩船山地から東に延びる丘陵間を流れる小支流によって形成された小段丘に立地する。標高は 103～104mほどである。かつては水田と推定されるが、現況は杉林・荒地である。

（２）調査の概要

３か所のトレンチで試掘調査を行った。かつては水田と推定されることから表土層下には、水田造成時の整地土が見られる。基盤層は段丘堆積の砂礫土に覆われている。

（３）層　序

Ⅰ　層：暗褐色シルト（表土）

０　層：にぶい黄橙色～明褐色シルト（水田造成時の整地土）

Ⅰｂ層：褐色シルト（旧表土）

Ⅱ　層：黄褐色シルト～砂礫土

Ⅲ　層：褐灰色～オリーブ色砂礫土

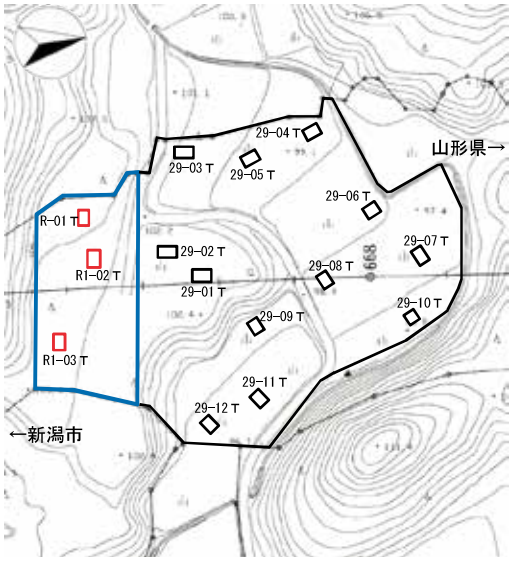
（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

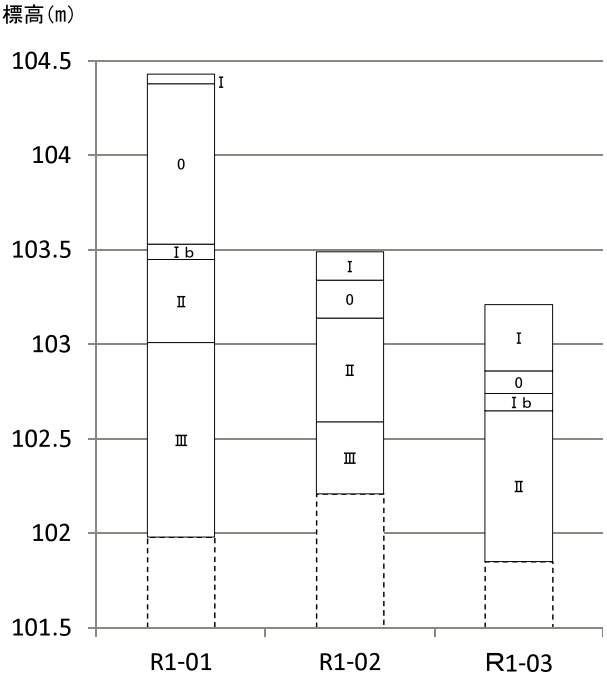
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 16 年「勝木」　１：50,000 原図）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

第４図　調査対象地近景（Ｒ１－１～３Ｔ）



第３図　土層柱状図（１:40）

第５図　Ｒ１−１Ｔトレンチ断面（北から）

第６図　Ｒ１−２Ｔトレンチ断面（北から）

第７図　Ｒ１−３Ｔトレンチ断面（東から）

10　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地６（センター杭 No.656＋40～665＋60）」

（村上市大須戸（おおすど）地区）試掘調査

（１）立　地

大須戸川西側の岩船山地に位置する。岩船山地の北から南に延びる支尾根の東向きの丘陵上あるいは緩斜面に立地する。標高は 88～162mほどで、調査地点により高低差が見られる。現況は杉林・雑木林・竹林である。

（２）調査の概要

18 か所のトレンチを設定して調査を行った。調査対象地の丘陵上の尾根頂部では基盤層までは黒色土壌が薄く、比較的標高の低い緩斜面では黒色土壌が厚く堆積する。基盤層近くは明褐色シルトが堆積し、下面は風化した泥岩や緑色凝灰岩となる。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 16 年「勝木」　１：50,000 原図）

（３）層　序

Ⅰ　層：暗褐色シルト（腐植土）

Ⅰｂ層：黒褐色シルト　標高に低い緩斜面に見られる。

Ⅱ　層：褐色シルト　（Ⅲ層への漸移層）

Ⅲ　層：明褐色シルト　（基盤層）しまりあり。下面には風化した泥岩や緑色凝灰岩が見られる。

（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

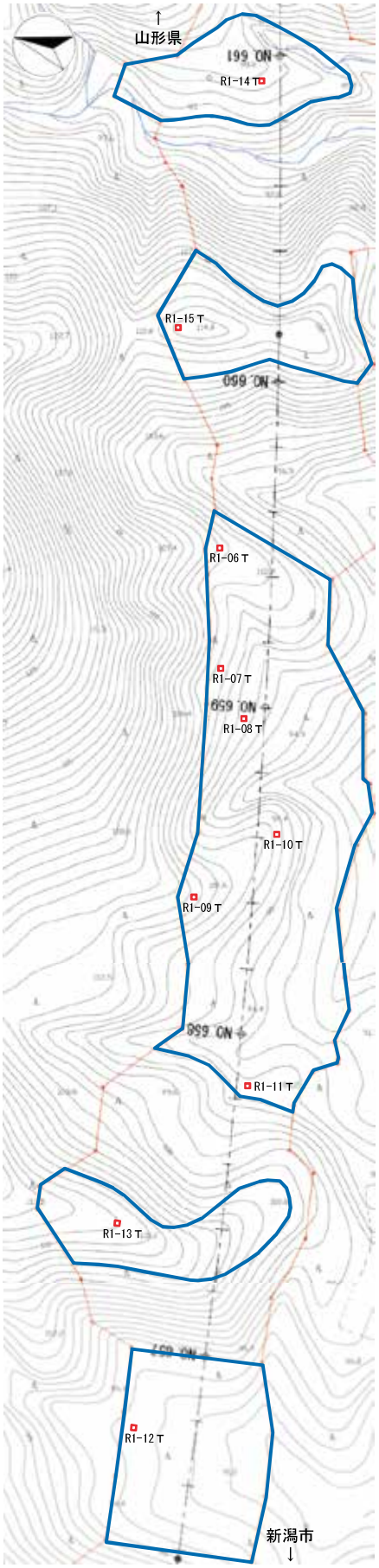
（５）調査の結果と取扱い

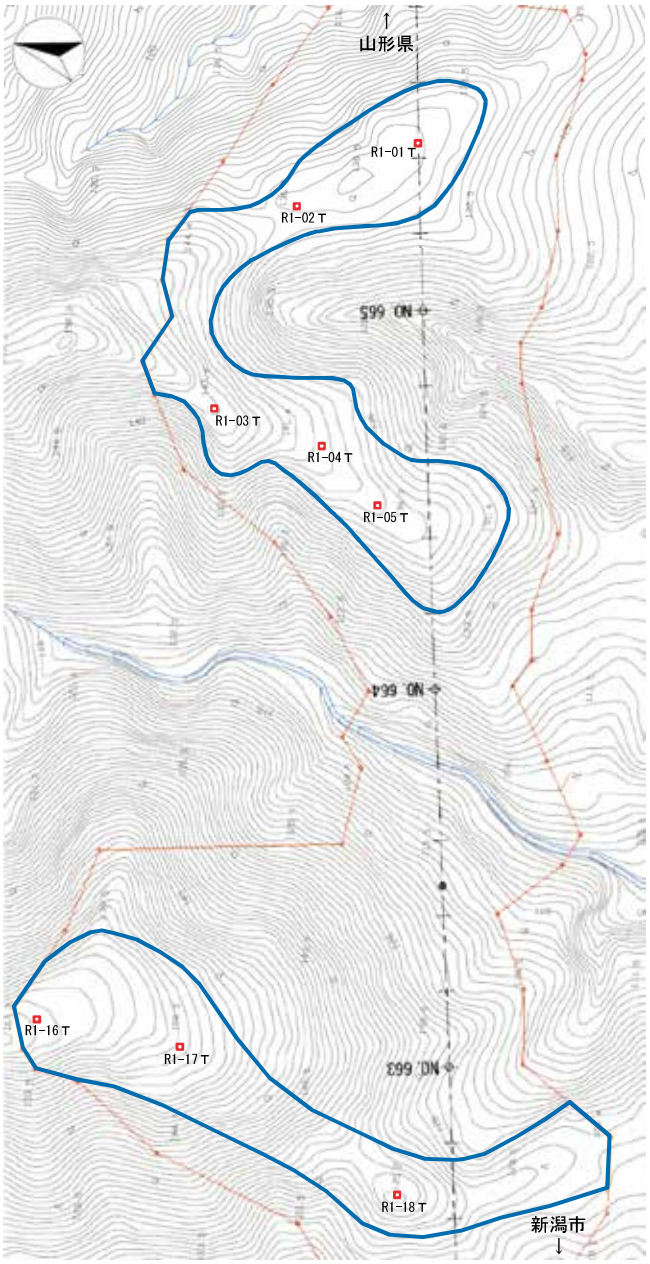
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲については、本発掘調査は不要と判断する。

第４図　調査対象地近景（Ｒ１-６～11Ｔ　西から）

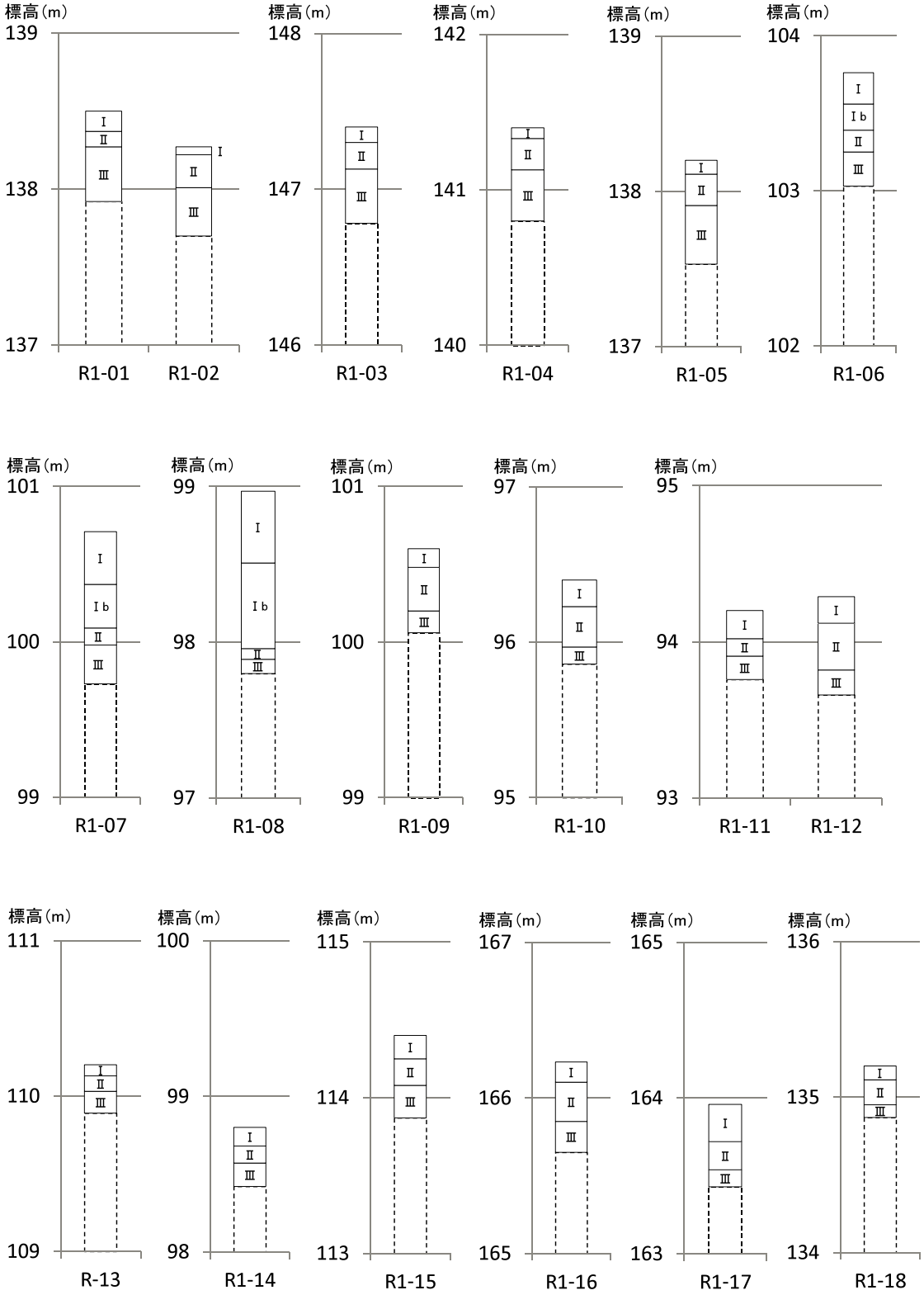
第５図　Ｒ１-６Ｔトレンチ断面（南から）

第６図　Ｒ１-17Ｔトレンチ断面（南東から）





第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

11　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地５」（村上市塩野町（しおのまち）地区）試掘調査

（１）立　地

岩船山地東側の丘陵裾部の低地に立地する。標高は 88.8ｍほどである。現況は杉林・荒地である。

（２）調査の概要

２か所のトレンチで試掘調査を行なった。対象地は岩船山地から東に延びる丘陵裾部の低地で、周囲からの湧水のため湿地である。シルト質の土壌に覆われ、下部には未分解植物が堆積する。

（３）層　序

Ⅰ　層：黒褐色シルト（表土）

Ⅱ　層：灰白色～鈍い黄橙色シルト

Ⅲ　層：暗褐色シルト（未分解植物を多く含む。いわゆるガツボ層である。）

（４）遺構・遺物

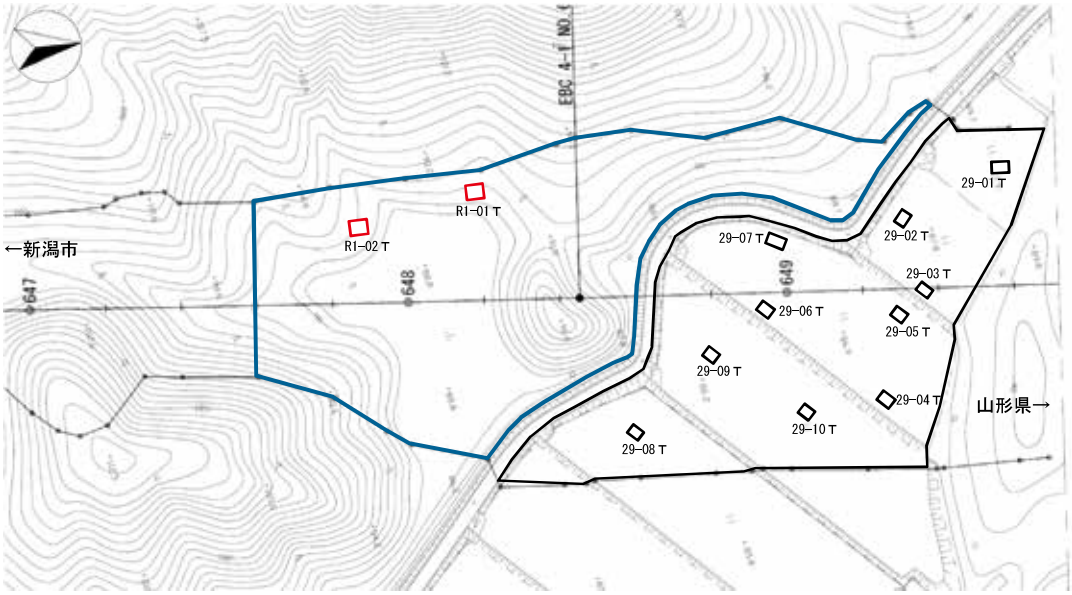
遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

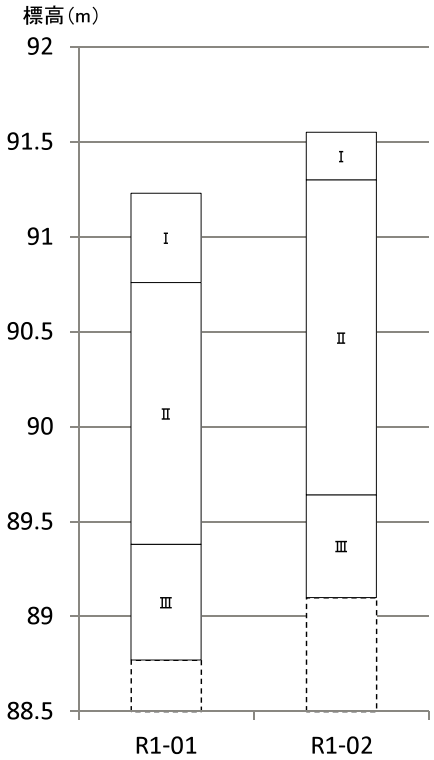
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

第１図　位置図（１:50,000）

（国土地理院発行　平成元年「勝木」・平成 15 年「塩野町」１：50,000 原図）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　調査対象地近景（Ｒ１−１・２Ｔ付近　東から）

第５図　Ｒ１−１Ｔトレンチ断面（東から）

第６図　Ｒ１−２Ｔトレンチ断面（東から）

12　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地２」（村上市檜原（ひばら）地区）試掘調査

（１）立　地

調査対象地は岩船山地と高根川の間に位置する。岩船山地東側の扇状地上の緩斜面に立地する。標高は43～50ｍで、現況は宅地及び工場用地、荒地である。

（２）調査の概要

13 か所のトレンチで試掘調査を行なった。調査対象地の堆積物は、扇状地を形成した土石流堆積物を基本とする。西側に広がる岩船山地から供給された花崗岩類の砂礫が厚く堆積する。ただし、東の高根川に近づくほど岩船山地から遠ざかるため砂礫の粒度は細かくなる。

なお、南側の工場用地跡は、用地造成のための盛土が多く見られた。

（３）層　序

０　層：暗褐色～橙色砂礫土　（盛土）

Ⅰａ層：暗褐色砂礫土

Ⅰｂ層：黒褐色砂礫土

Ⅱａ層：にぶい黄褐色砂礫土

Ⅱｂ層：褐色砂礫土

Ⅱｃ層：灰黄褐色砂礫土

Ⅱｄ層：にぶい黄褐色砂礫土　礫がやや大きい。

Ⅲ　層：褐色砂

Ⅳ　層：暗褐色砂礫土

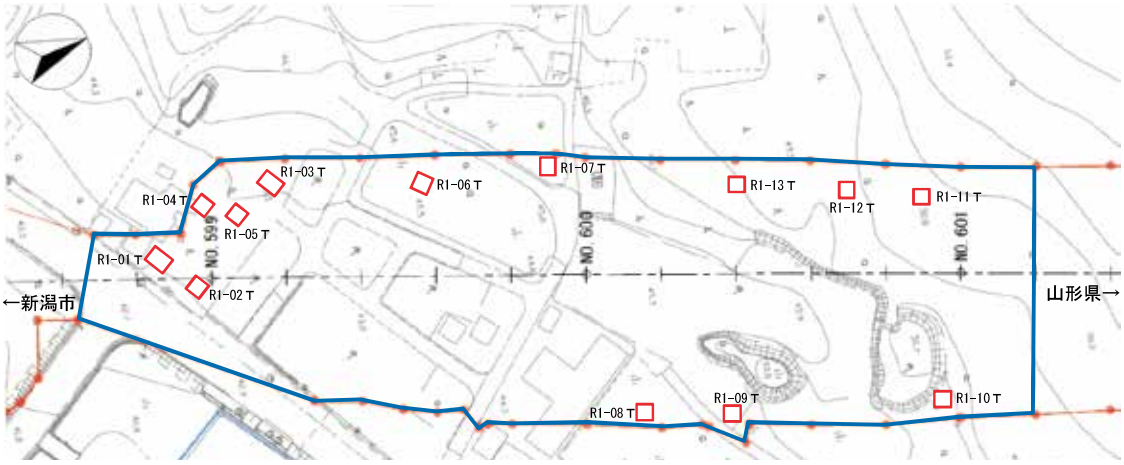
第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 15 年「塩野町」　１：50,000 原図）

（４）遺構・遺物

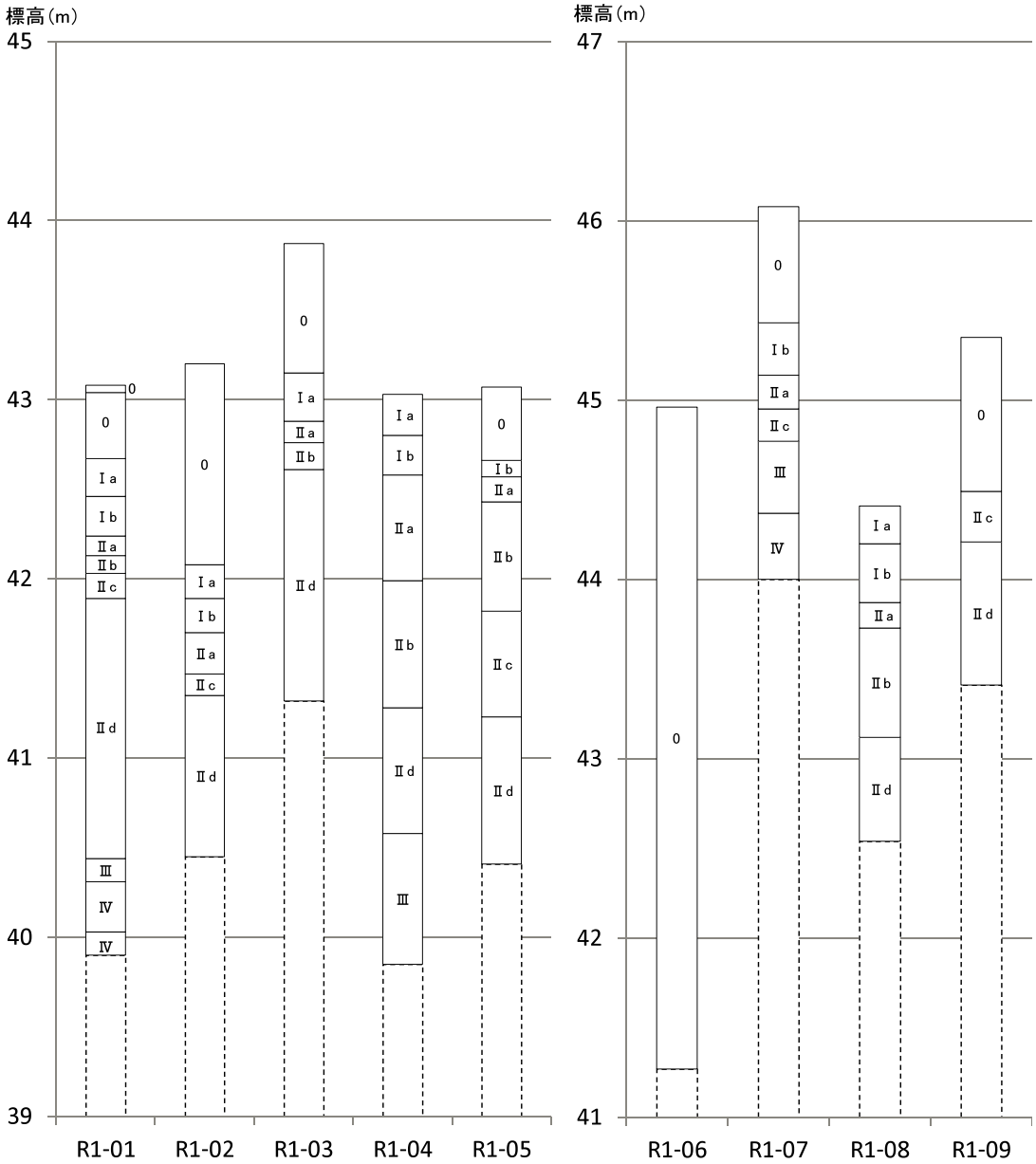
遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお未移転の工場事務所及び工場の試掘調査はできなかったが、地形やその周辺のトレンチから同様の土層堆積状況を示すものと思われる。したがって、試掘調査は不要と判断する。



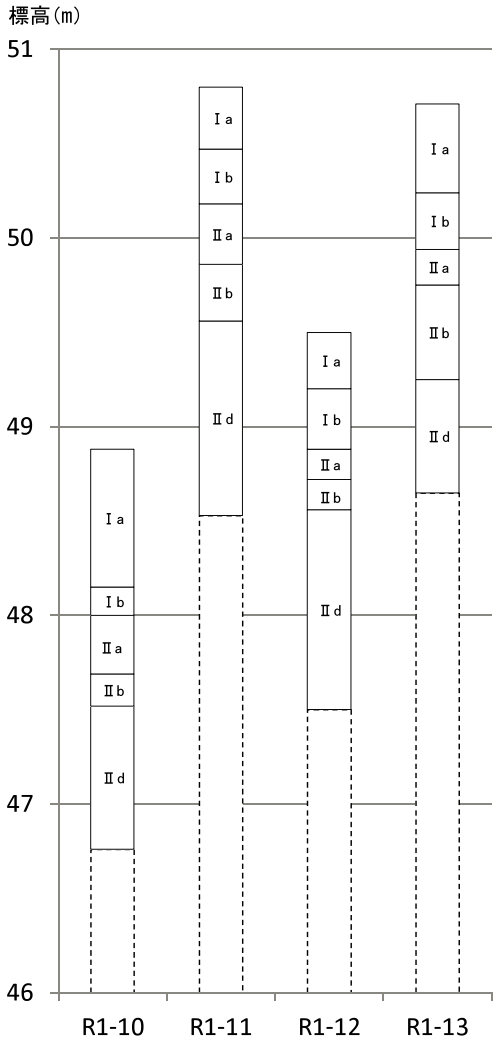
第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３－１図　土層柱状図（１:40）

第４図　調査対象地近景（Ｒ１－１～７Ｔ付近　南から）

第５図　Ｒ１－１Ｔトレンチ断面（北西から）



第３－２図　土層柱状図（１:40）

第６図　Ｒ１－４Ｔトレンチ断面（南西から）

第７図　Ｒ１－７Ｔトレンチ断面（東から）

第８図　調査対象地近景（Ｒ１－８～13Ｔ　南から）

第９図　Ｒ１－９Ｔトレンチ断面（北西から）

第 10 図　Ｒ１-11Ｔトレンチ断面（南東から）

13　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「上野（かみの）遺跡」（村上市檜原（ひばら）地区）確認調査

（１）立　地

調査対象地は、高根川右岸の丘陵裾部で、岩船山地東側の扇状地の緩斜面に立地する。しかし、調査対象地の北東側は１～２ｍほど低くなり、浅い沢地状を呈する。このことは隣接する現国道７号が２ｍほどかさ上げされていること、檜原地区試掘調査報告書のセンター杭№598 付近の層序からも明らかである。標高は 38～42ｍほどで、現況は畑・杉林・荒地である。

（２）調査の概要

R1-05T～R1-10T までの６か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地が丘陵裾部の扇状地に立地するため、表土層以下は扇状地堆積物でほぼ占められる。西側に広がる岩船山地から供給された花崗岩類の砂礫が堆積する。ただし、岩船山地から離れるため、砂礫の粒度は比較的細かい。

（３）層　序

各層の具体的な内容は、次のとおりである。調査対象地の隣接地は平成 27・28・30 年度に試掘調査が行われており、層序はこれに準拠した。

Ⅰ　層：暗褐色～黒褐色土（現表土）

Ⅰｂ層：暗褐色～暗灰色土（旧表土）

Ⅱ　層：丘陵由来の層をⅡ層として一括したが、土質・色調・遺物の有無などから細分した。

Ⅱａ層：黄褐色シルト

Ⅱｂ層：灰白色砂礫土（小礫が多い。土石流による二次堆積と考えられる。）

Ⅱｃ層：黄褐色～褐色シルト（Ⅱａ層に近似するが、小砂礫が混じる。）

Ⅱｄ層：暗褐色～黒褐色シルト（安定した時期に堆積した土層の可能性がある。縄文時代の遺物包含層。）

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 11 年「塩野町」　１：50,000 原図）

Ⅱｅ層：暗褐色シルト（縄文時代の遺物包含層でⅡｆ層より色調は薄い。）

Ⅱｆ層：黒褐色シルト（縄文時代の遺物包含層の主体。）

Ⅱｇ層：褐色砂礫土（８Ｔのみで認められる。）

Ⅱｈ層：褐色シルト（８Ｔのみで認められる。縄文時代の所産と思われる剝片１点が出土した）

Ⅲ　層：灰白色粘質シルト

Ⅳ　層：褐色または灰白～黄灰色を呈する。丘陵裾部で褐色系、水田部で灰白色系になる。土質により細分した。

Ⅳａ層：褐色シルト

Ⅳｂ層：褐色砂質シルト

Ⅳｃ層：褐色砂～砂礫

Ⅳｄ層：褐～暗褐色砂礫土

Ⅳｅ層：褐色砂

Ⅳｆ層：明白色砂礫土

Ⅴ　層：暗褐色砂

※今回の調査対象地では土石流堆積物（Ⅱｂ層）、遺物包含層と推定されるⅡｅ・Ⅱｆ層で遺物が認められた。

（４）遺構

10Ｔで焼土範囲を検出したが、これ以外のトレンチでは遺構の検出がなかった。焼土範囲は径約 30 ㎝の円形に認められ、周辺部に向かい薄くなることから焼土の廃棄でなく、地面の焼けた痕跡と判断した。

（５）遺物

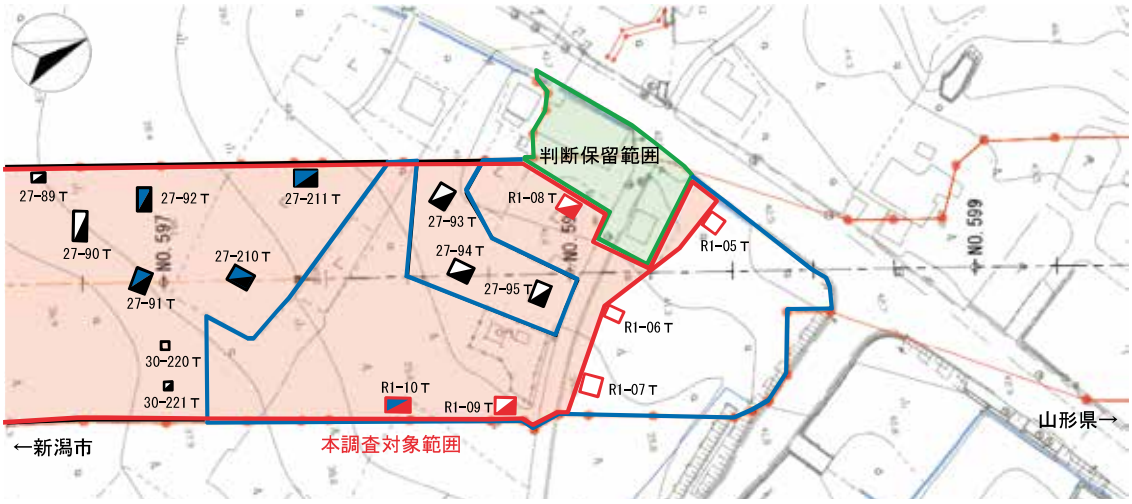
８Ｔ～10Ｔで縄文時代後期前葉を主体とする遺物が出土した。８Ｔは土石流堆積物のⅡｂ層からは遺物が出土せず、縄文時代後期前葉の遺物包含層のⅡｅ・Ⅱｆ層から比較的多くの遺物が出土した。９Ｔは、Ⅱｂ層から少量の遺物が出土したが、Ⅱｅ・Ⅱｆ層からは出土していない。10Ｔは、Ⅱｂ・Ⅱｅ・Ⅱｆ層の各層から多くの遺物が出土している。調査区の北東側に位置する５Ｔ～７Ｔでは、Ⅱｂ・Ⅱｅ・Ⅱｆ層に相当する層は確認できたが、遺物は見られなかった。

（６）調査の結果と取扱い

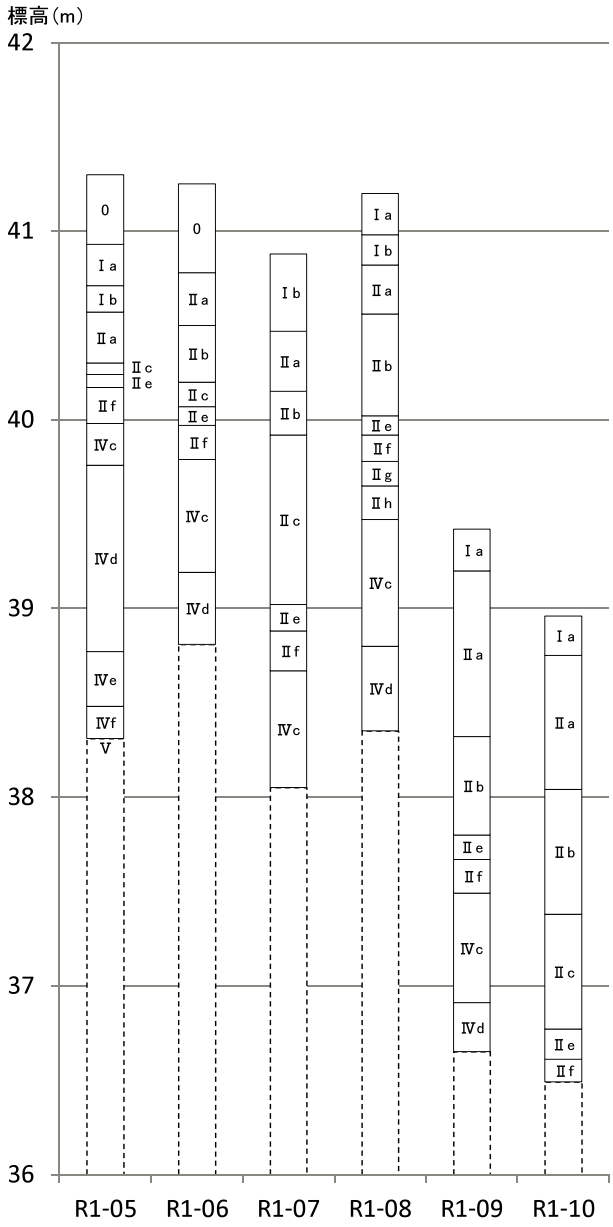
調査の結果、遺物・遺構の出土状況、地形の観察から上野遺跡の北範囲を５Ｔ～７Ｔを結んだ手前までとした。センター杭№597+10～５Ｔ・６Ｔ・７Ｔの手前を結んだ線までの範囲 4,918 ㎡を本調査必要範囲として追加する。ただし、Ⅱｂ層の遺物は土石流で流入した二次堆積の遺物である。遺物の包含密度を考慮し、重機と人力を併用した効率的な調査が望まれる。

調査対象地の西側で、家屋があり調査のできなかった範囲については、判断保留とする。今後の確認調査で遺跡の範囲を明らかにする必要がある。

５Ｔ～７Ｔの手前を結んだ線の北側は、遺構・遺物を検出できなかったこと、地形観察から、本発掘調査は不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第５図　Ｒ１−８Ｔ遺構（焼土）検出状況（南西から）

第６図　Ｒ１−９Ｔトレンチ断面（西から）

第７図　Ｒ１−８Ｔ出土遺物（Ⅱe 層出土）

第４図　８Ｔ検出遺構（焼土）平面図　Ｓ=１：100

第８図　Ｒ１−10Ｔ出土遺物（Ⅱe・ｆ層出土）

14　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「上野（かみの）遺跡」（村上市猿沢（さるさわ）地区）確認調査

（１）立　地

調査対象地は、高根川右岸の丘陵裾部で、岩船山地東側の扇状地の緩斜面に立地する。標高は 32.5ｍほどで、現況は雑木林・荒地である。

（２）調査の概要

４か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地が丘陵裾部の扇状地に立地するため、表土層以下は扇状地堆積物でほぼ占められる。西側に広がる岩船山地から供給された花崗岩類の砂礫が堆積する。ただし、岩船山地から離れるため、砂礫の粒度は細かい。また、現表土から２ｍ前後の深度で河川期限の砂礫土が堆積する。東側を流れる高根川に起因するものと推定される。

（３）層　序

各層の具体的な内容は、次のとおりであり、調査対象地の隣接地は平成 27・28 年度に試掘調査が行われており、層序はこれに準拠した。

Ⅰ　層：暗褐色～黒褐色土（現表土）

Ⅰｂ層：暗褐色～暗灰色土（旧表土）

Ⅱ　層：丘陵由来の層をⅡ層として一括したが、土質・色調・遺物の有無などから細分した。

Ⅱａ層：黄褐色シルト

Ⅱｂ層：灰白色砂礫土（小礫が多い。土石流による二次堆積と考えられる。）

Ⅱｃ層：黄褐色～褐色シルト（Ⅱａ層に近似するが、小砂礫が混じる。）

Ⅱｄ層：暗褐色～黒褐色シルト（安定した時期に堆積した土層の可能性がある。縄文時代の遺物包含層。）

Ⅱｅ層：暗褐色シルト（縄文時代の遺物包含層でⅡｆ層より色調は薄い。）

Ⅱｆ層：黒褐色シルト（縄文時代の遺物包含層の主体。）

Ⅲ　層：灰白色粘質シルト

Ⅳ　層：褐色または灰白～黄灰色を呈する層。丘陵裾部で褐色系、水田部で灰白色系になる。土質により細分した。

Ⅳａ層：褐色シルト

Ⅳｂ層：褐色砂質シルト

Ⅳｃ層：褐色砂～砂礫層

Ⅴ　層：明青灰色～青灰色粘質シルト

Ⅵ　層：青灰色～灰色粘質シルト

Ⅶ　層：灰色砂質シルト

Ⅷ　層：暗灰色・灰色・暗青灰色～暗緑灰色粘質シルト

Ⅸ　層：河川堆積由来の砂礫層　色調により細分される。

Ⅸａ層：褐色～褐灰色砂礫層

Ⅸｂ層：灰色砂礫層

Ⅴ層～Ⅷ層は認められなかった。

※今回の調査対象地は土石流堆積物（Ⅱｂ層）に遺物が包含されており、Ⅱｄ～Ⅱｆ層の遺物包含層は認められなかった。

（４）遺構

遺構は、検出されなかった。

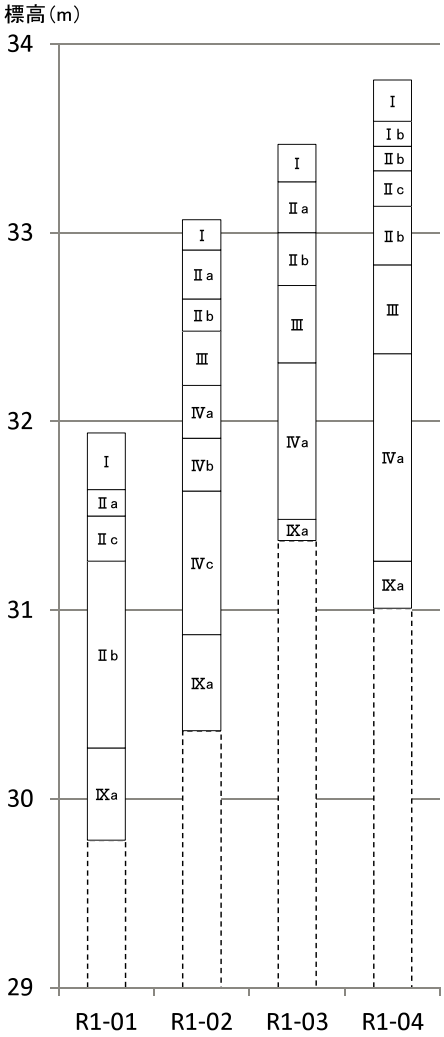
（５）遺物

１Ｔから２点、２Ｔから３点、３Ｔから６点、４Ｔから 53 点出土している。いずれも縄文土器で、Ⅱｂ層からの出土である。Ⅱｂ層は土石流堆積物と推定され、西から北にかけて存在した推定される縄文集落から流入したものである。

（６）調査の結果と取扱い

調査の結果、すべてのトレンチから縄文時代の遺物が出土した。平成 29 年度の本発掘調査や平成 27・28 年度の試掘調査の結果から 28-140T の北へ約７ｍ地点からセンター杭№595＋70ｍの東端を結んだ範囲の 1,261 ㎡を本調査範囲として追加する。

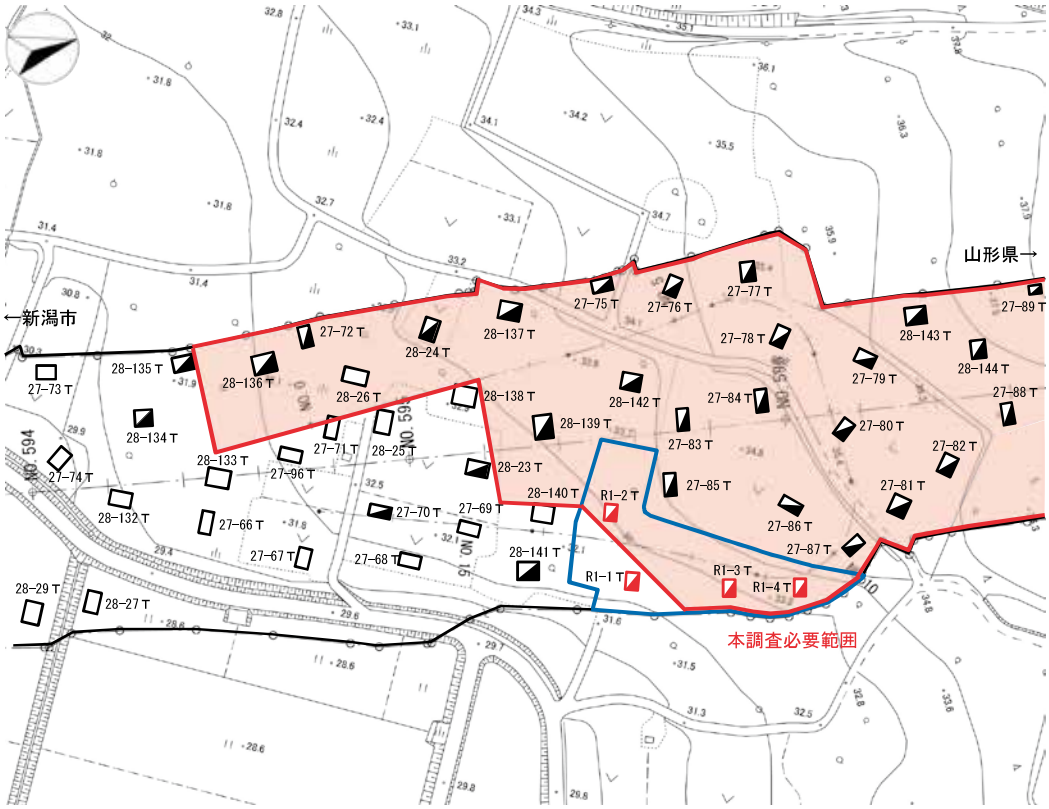
なお、今回出土した遺物は土石流で流入した二次堆積の遺物である。遺物の包含密度を考慮し、重機と人力を併用した効率的な調査が望まれる。また平成 30 年度の本調査で確認された下層（縄文時代前期）は、認められないことから下層の確認調査は不要である。



第３図　土層柱状図（１:40）

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 11 年「塩野町」　１:50,000 原図）

第４図　調査対象地近景（南から）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

第５図　Ｒ１−１Ｔトレンチ断面（北から）

第６図　Ｒ１−２Ｔトレンチ断面（北から）

第７図　Ｒ１−２Ｔ出土遺物（Ⅱb 層出土）

第８図　Ｒ１−４Ｔ出土遺物（Ⅱb 層出土）

15　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地１」（村上市猿沢（さるさわ）地区）試掘調査

（１）立　地

調査対象地は岩船山地と高根川の間に位置する。岩船山地東側の扇状地上の緩斜面に立地する。標高は 29～30m前後で、現況は荒地である。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 15 年「塩野町」　１：50,000 原図）

（２）調査の概要

６か所のトレンチで試掘調査を行なった。調査対象地は岩船山地東側の扇状地上の緩斜面であり、東側は高根川に形成された沖積地に隣接する。したがって、岩船山地に起因する粒度の細かい土石流堆積物の下には、高根川に起因する河川堆積物で占められる。

（３）層　序

各層の具体的な内容は､次のとおりであるが、調査対象地周辺は平成 27・28・30・令和元年度に試掘調査が行われており、層序はこれに準拠した。

Ⅰａ層：暗褐色～黒褐色土（現表土）

Ⅰｂ層：暗褐色～暗灰色土（旧表土）

Ⅱ　層：丘陵由来の層をⅡ層として一括したが土質・色調・遺物の有無などから細分した。

Ⅱａ層：褐色砂礫土（小礫が多い。土石流による二次堆積である。）

Ⅱｂ層：黄白色砂礫土（小礫が多い。土石流による二次堆積である。）

Ⅱｃ層：褐色砂

以下、Ⅷ層まで認められなかったため、省略。

Ⅸ　層：灰色砂礫層　岩船山地に起因する砂礫層と異なり、礫の角は丸い。高根川による河川堆積層である。

（４）遺構

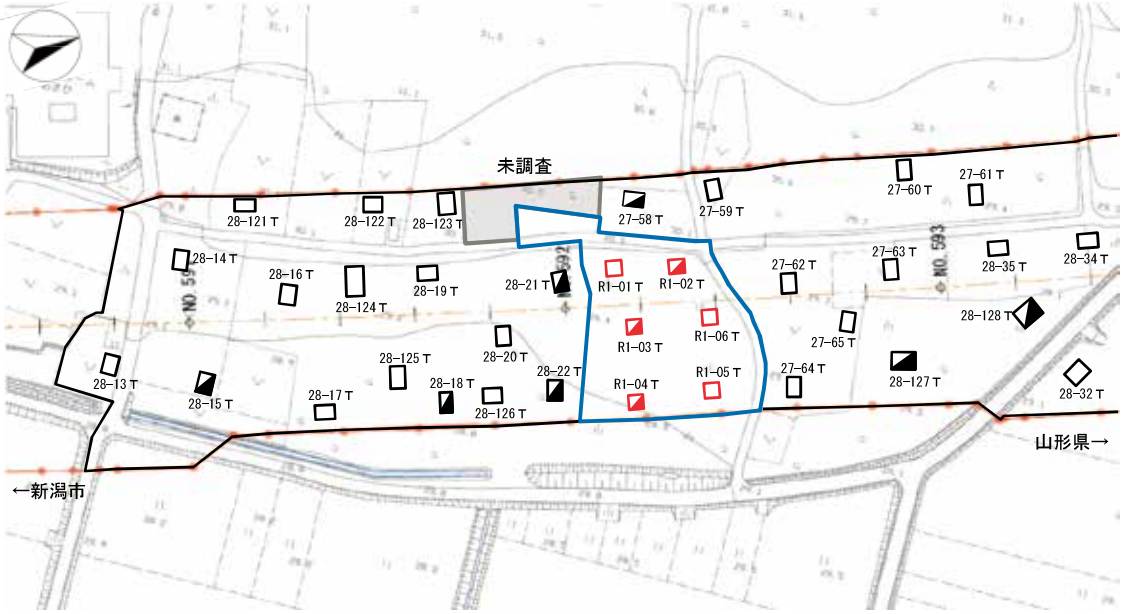
遺構は、検出されなかった。

（５）遺物

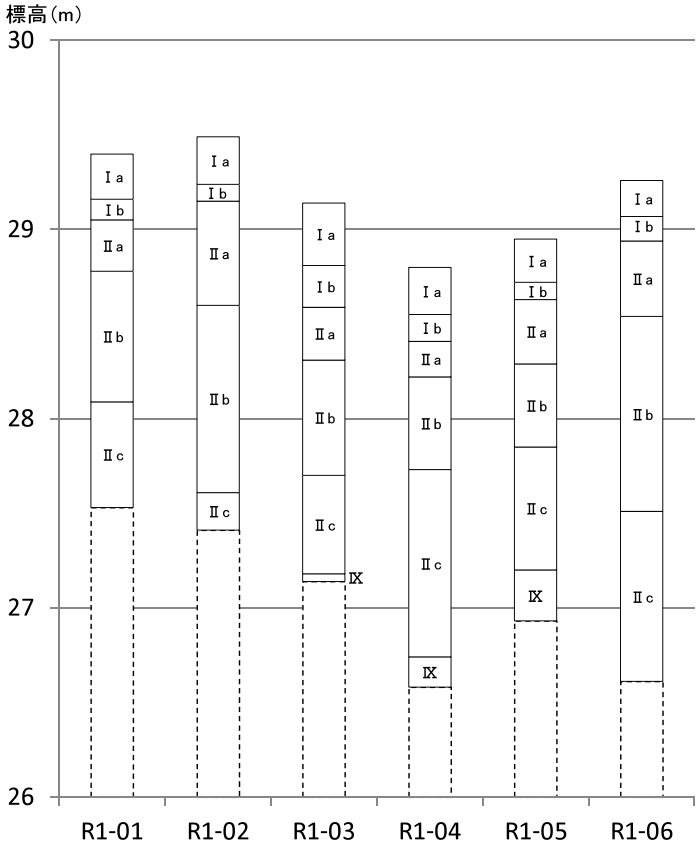
２T～４TのⅡａ層で縄文土器が各１点出土した。時期は縄文時代後期前葉～中葉と推定される。土石流堆積物からの出土である。

（６）調査の結果と取扱い

調査の結果、土石流堆積物から遺物が少数出土したが極めて希薄であり、遺構は検出されなかった。したがって、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　Ｒ１−３Ｔトレンチ断面（北から）

第５図　Ｒ１−２～４Ｔ出土遺物

16　一般国道７号新発田拡幅事業関係

新発田市小舟町（こふねちょう）～城北町（じょうほくちょう）地区試掘調査

（１）立　地

越後平野の北東部、加治川下流の沖積地に位置する。かつては低湿地や水田が広がっていたが、国道７号線沿いの商業地となり、現在は新発田市街地の北縁となっている。1.5m前後の盛土が見られるが、旧地表面の標高は5.7～6.7mほどである。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成15年「新発田」　１：50,000原図）

（２）調査の概要

10か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。加治川下流の沖積地に位置し、かつては低湿地や水田が広がっていたことから、湿地性の堆積物が確認された。

（３）層　序

０　層：砂・瓦礫・コンクリート片など（盛土）

Ⅰ　層：暗褐色～暗灰色～黒色シルト（耕作土・旧耕作土）

Ⅱａ層：灰色～暗灰色シルト

Ⅱｂ層：灰色砂

Ⅲａ層：暗青灰色シルト～粘土

Ⅲｂ層：灰色砂　未分解植物を含む。

Ⅳ　層：暗褐色～灰色シルト～砂　未分解植物を多く含む。一部に湧水が見られる。

Ⅱ層以下は洪水層で水平堆積である。低湿地で緩やかに堆積したものと判断される。

第４図　調査対象地近景（Ｒ１－１～10Ｔ付近　東から）

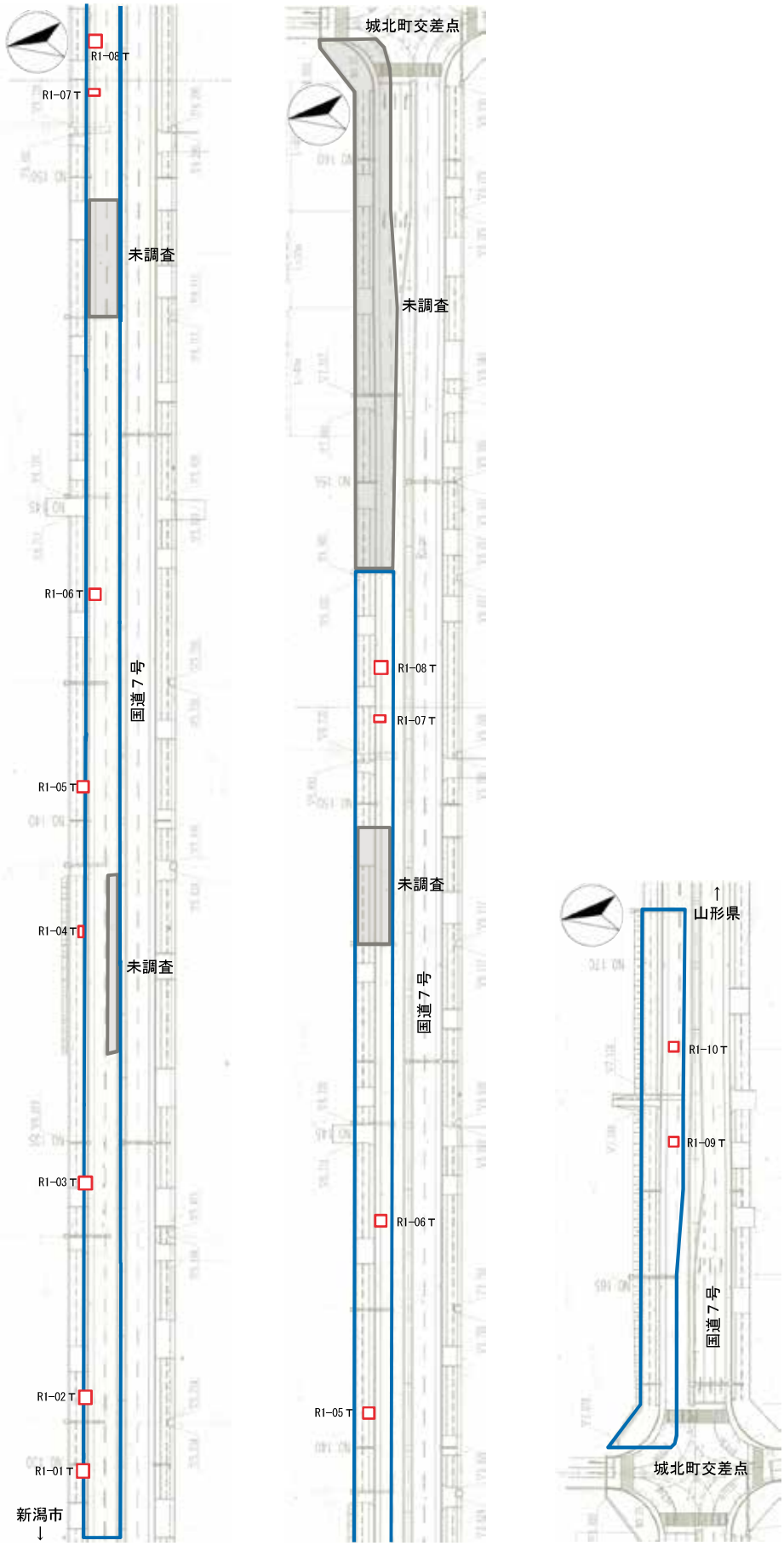
（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

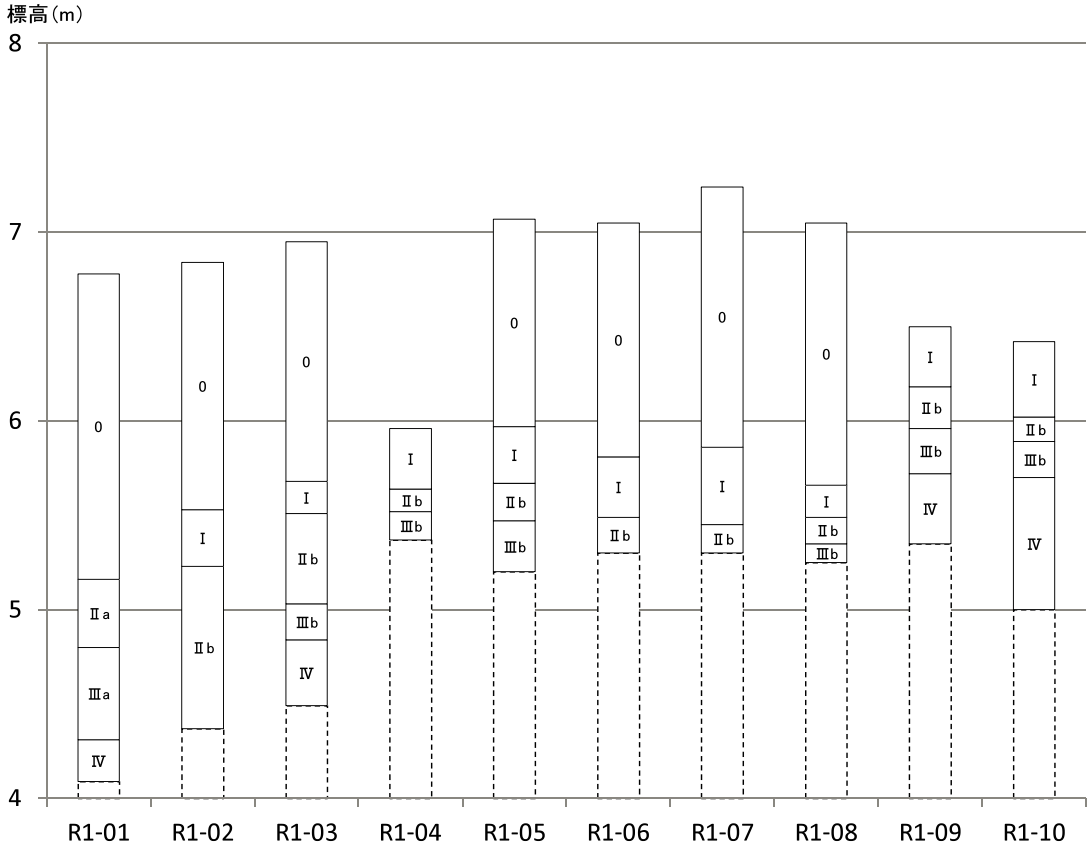
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲については本発掘調査不要と判断する。また、今回調査できなかった未買収地は、隣接地の調査結果と地形観察から、試掘調査不要と判断する。

第５図　Ｒ１－１Ｔトレンチ断面（北から）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第６図　Ｒ１−３Ｔトレンチ断面（西から）

第７図　Ｒ１−５Ｔトレンチ断面（東から）

第８図　Ｒ１−６Ｔトレンチ断面（西から）

第９図　Ｒ１−９Ｔトレンチ断面（東から）

17　一般国道７号栗ノ木道路事業関係

新潟市中央区長嶺（ながみね）地区～JR 地区試掘調査

（１）立　地

新潟砂丘新砂丘第２列４または栗ノ木川沿いの低地と思われる。標高は３ｍ前後である。現況は更地であるが、以前は宅地や商用地であった。

（２）調査の概要

３か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。Ⅰ層～Ⅲ層上部では 18 世紀後半以降の陶磁器が出土したが、Ⅲ層下部では遺物が出土しなかった。また、新砂丘の痕跡は見られなかったことから低湿地であったものと考えられた。

（３）層　序

０　層：明黄褐色砂　（盛土）

０ｂ層：暗褐色砂・黄橙色焼土の互層　火災由来の盛土。

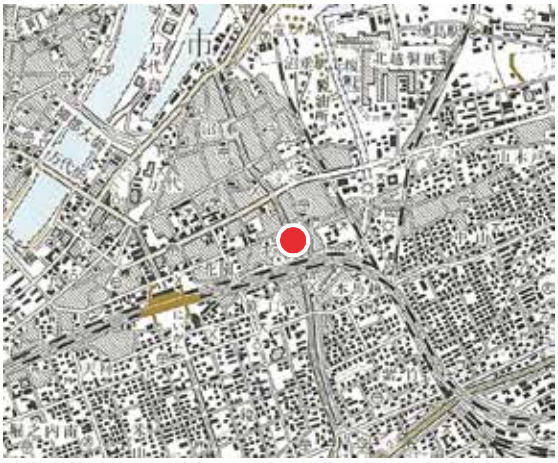
Ⅰ　層：褐色砂

Ⅱａ層：黄褐色～褐色砂・未分解腐植物の互層

Ⅱｂ層：オリーブ灰色砂　底縁は旧栗ノ木川への傾斜を示す。

Ⅱｃ層：未分解植物層　いわゆるガツボ層。

Ⅲ　層：暗灰色砂～砂質シルト　上部から 18 世紀後半以降の陶磁器がやや多く出土した。



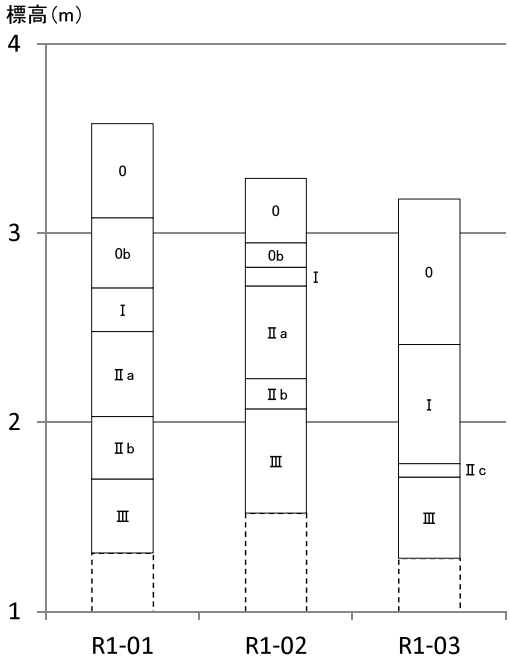
第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 17 年「新潟」　１：50,000 原図）

（４）遺構・遺物

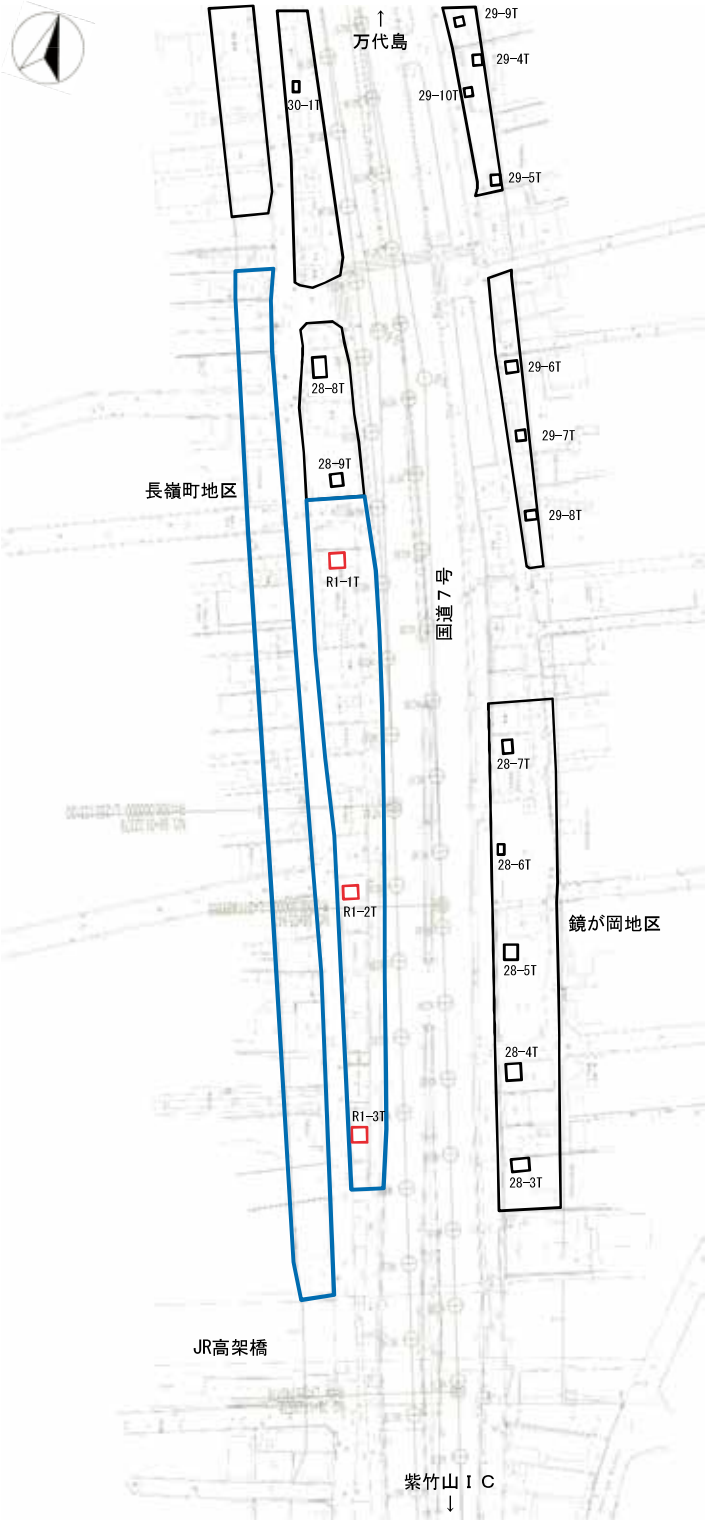
遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。今回の調査で明石通からＪＲ高架橋（センター杭№103～№80）までの試掘調査は終了となる。



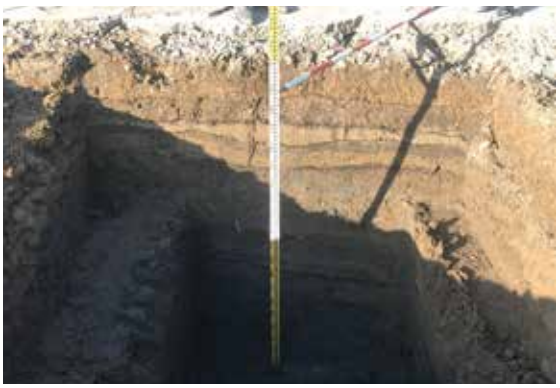
第３図　土層柱状図（１:40）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

第４図　調査区対象地近景（Ｒ１−３Ｔ付近　北から）

第５図　Ｒ１−１Ｔトレンチ断面（南から）



第６図　Ｒ１−２Ｔトレンチ断面（南から）

第７図　Ｒ１−３Ｔトレンチ断面（南から）

18　一般国道７号紫竹山道路事業関係

新潟市中央区紫竹山地区～東区紫竹地区試掘調査

（１）立　地

新潟砂丘新砂丘第２列３の内陸側に位置し、標高は１ｍ前後である。現況は更地であるが、以前は道路内敷地、宅地や商用地であった。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 17 年「新潟」　１：50,000 原図）

（２）調査の概要

４か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。盛土直下に砂丘砂（Ｖ層）が検出されており、調査対象地は過去に削平されたと判断した。

（３）層　序

０層：灰黄褐色砂（盛土）

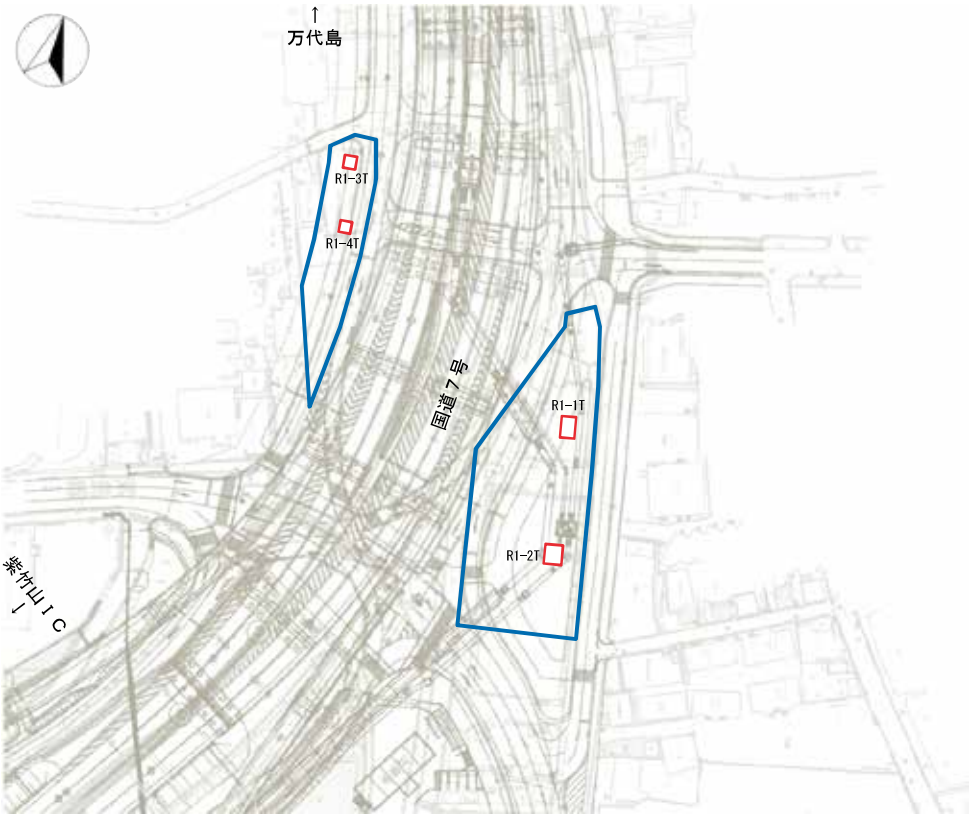
Ｖ層：褐灰色砂（砂丘砂）

（４）遺構・遺物

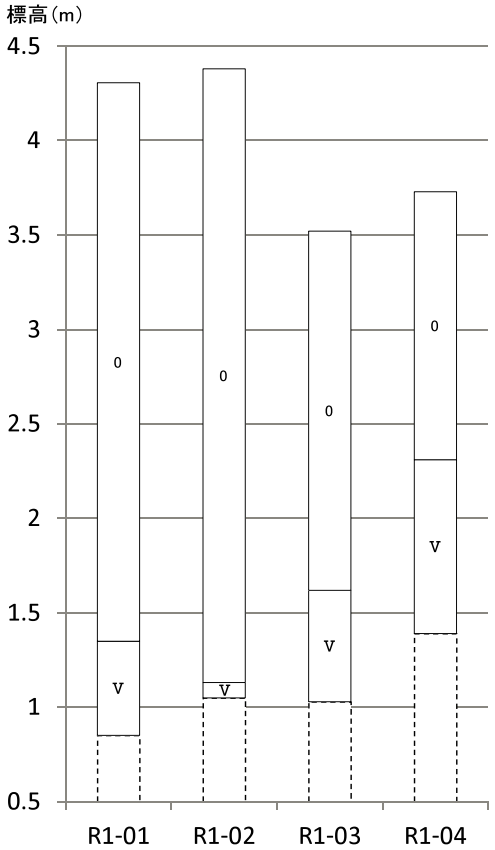
遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲については本発掘調査不要と判断する。



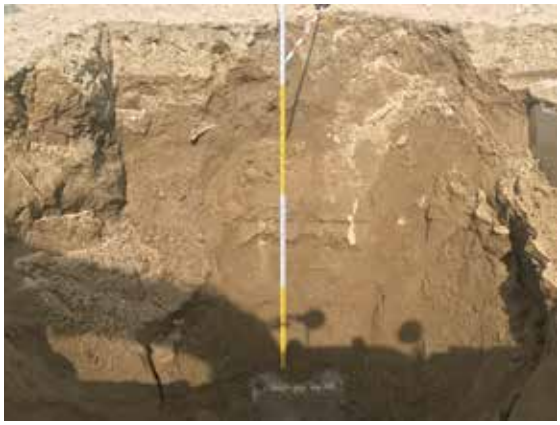
第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　調査対象地近景（Ｒ１−１・２Ｔ付近　北から）

第５図　Ｒ１−１Ｔトレンチ断面（西から）


第６図　Ｒ１−２Ｔトレンチ断面（西から）

第７図　調査対象地近景（Ｒ１−３・４Ｔ付近　南から）

第８図　Ｒ１−３Ｔトレンチ断面（南から）

第９図　Ｒ１−４Ｔトレンチ断面（東から）

19　一般国道８号福島新田交差点事故対策事業関係

三条市一ツ屋敷新田地区試掘調査

（１）立　地

越後平野の中央部東寄り、信濃川とその支流刈谷田川の合流点から約３km南東の沖積地に位置する。この付近は魚沼丘陵の北西縁から流れ出る道田川、貝喰川などの小河川が多く流れるところでもある。現況は水田・商用地で、標高 8.5m である。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成８年「三条」　１：50,000 原図）

（２）調査の概要

１か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。かつては、周辺の小河川や信濃川、刈谷田川の湛水地や氾濫原であったと推定され、湿地性の堆積物が確認された。

（３）層　序

Ⅰ　層：褐色シルト（水田耕作土）

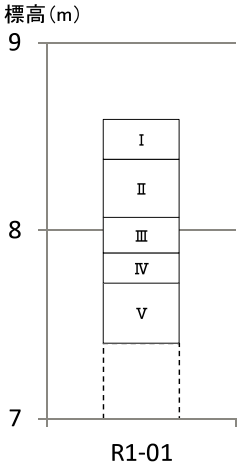
Ⅱ　層：褐灰色シルト～粘土　（整地土）

Ⅲ　層：青灰色粘土

Ⅳ　層：青灰色シルト質砂

Ⅴ　層：暗褐灰色粘土

Ⅲ層以下は水平堆積であり、低湿地で緩やかに堆積したものと判断した。



第３図　土層柱状図（１:40）

（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。なお、国道８号を挟んだ西側の調査区は、１Ｔの土層堆積状況や地形観察から今回の調査区と同様な土層堆積と考えられ、試掘調査は不要と判断した。

第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

20　一般国道 17 号和南津改良事業関係

長岡市和南津（わなづ）地区試掘調査

（１）立　地

魚野川左岸の段丘及び段丘崖に立地する。現況は水田・荒地・山林で、標高は 83～120ｍである。

（２）調査の概要

５か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。基盤層となる段丘堆積物の上に黒色系の堆積物（Ⅳ層）を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。

（３）層　序

０　層：オリーブ灰～暗灰色シルト（盛土）

Ⅰ　層：褐灰色～暗褐色シルト（表土・耕作土）

Ⅰｂ層：明オリーブ灰シルト～砂（水田床土）

Ⅰｃ層：黒褐色砂質シルト（整地土）

Ⅱ　層:灰黄褐色～黒褐色シルト～砂(旧表土)

Ⅲ　層：緑灰色～褐色シルト質砂～砂

Ⅳ　層：暗灰色～暗褐色シルト質砂～砂

Ⅴ　層：黄褐色シルト質砂

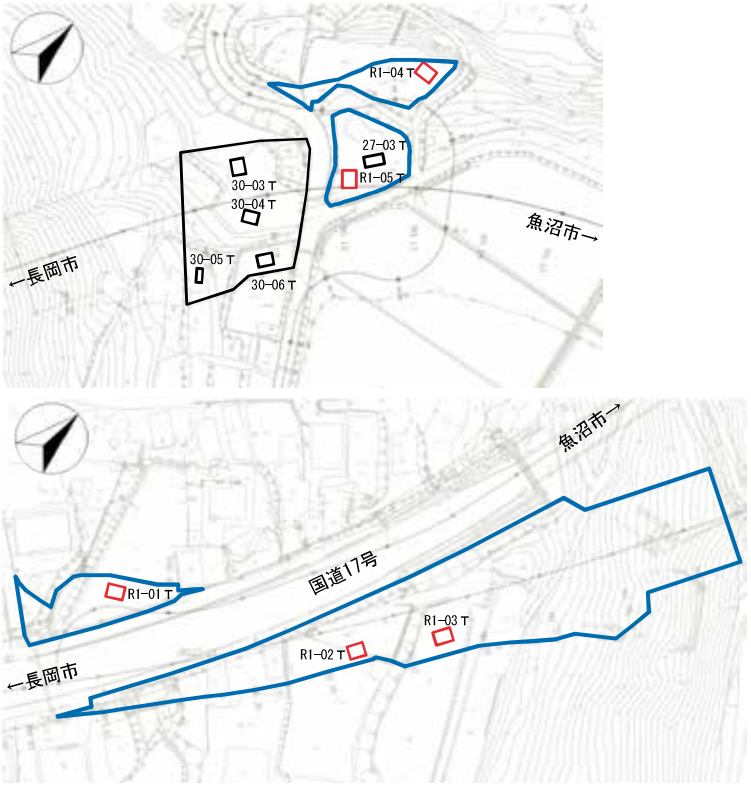
第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成６年「小千谷」　１：50,000 原図）

（４）遺構・遺物

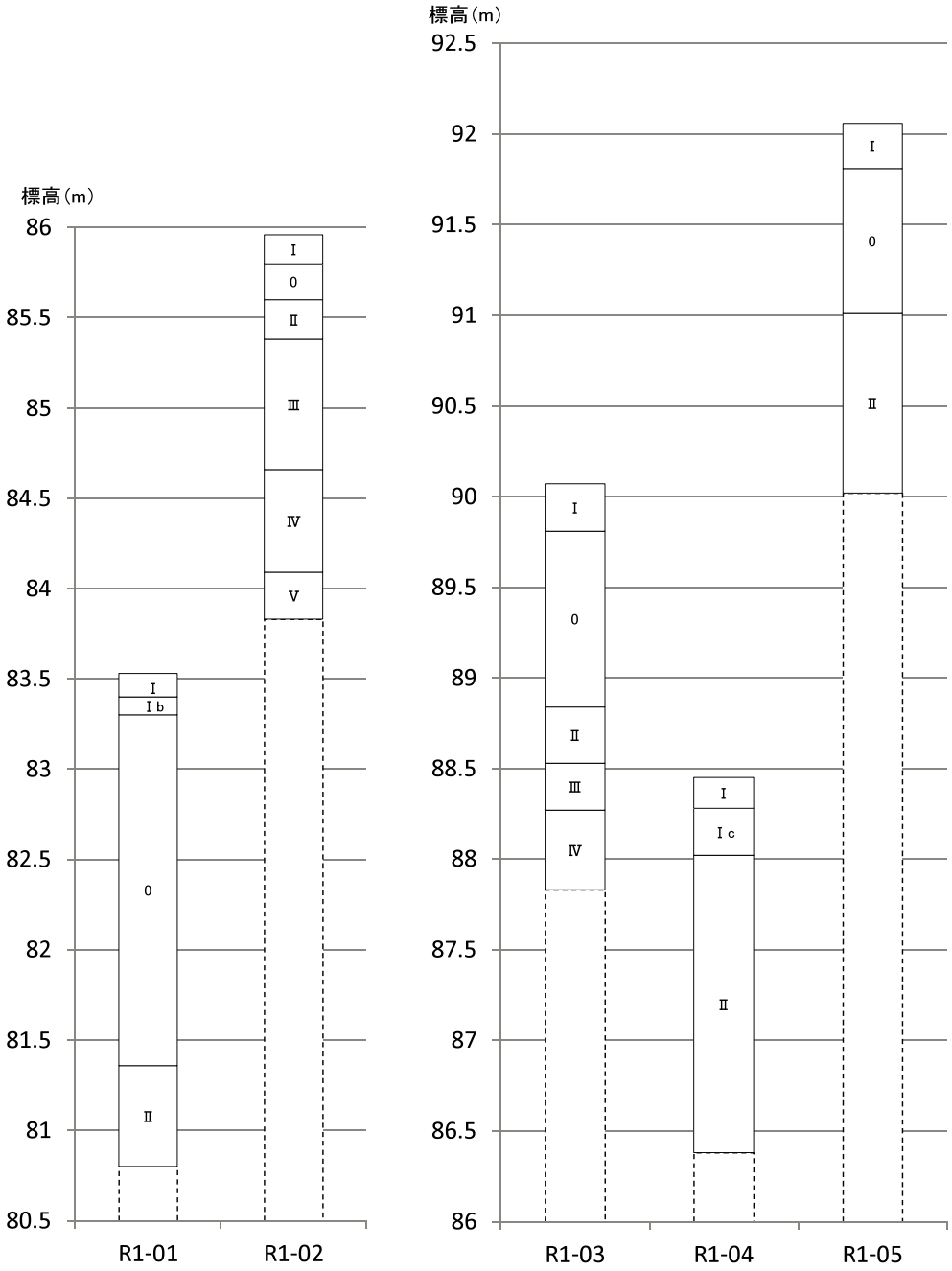
遺構・遺物は、検出されなかった。また、段丘崖の地形観察でも遺構は確認されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲については本発掘調査不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　Ｒ１−２Ｔトレンチ断面（西から）

第５図　Ｒ１−４Ｔトレンチ断面（南から）

21　一般国道 17 号浦佐バイパス事業関係

南魚沼市浦佐（うらさ）地区試掘調査

（１）立　地

魚野川左岸の沖積地に立地する。現況は水田・荒地で、標高は 116.5～118.5m である。

（２）調査の概要

４か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。表土の下から検出された砂礫層は、魚野川の氾濫原と推定できる。

（３）層　序

０　層：褐色砂礫土（盛土）

Ⅰ　層：褐色シルト（表土・耕作土）

Ⅰｂ層：褐灰色シルト（旧表土）

Ⅱ　層：褐灰色シルト

Ⅲ　層：褐色砂礫　湧水が著しい。

（４）遺構・遺物

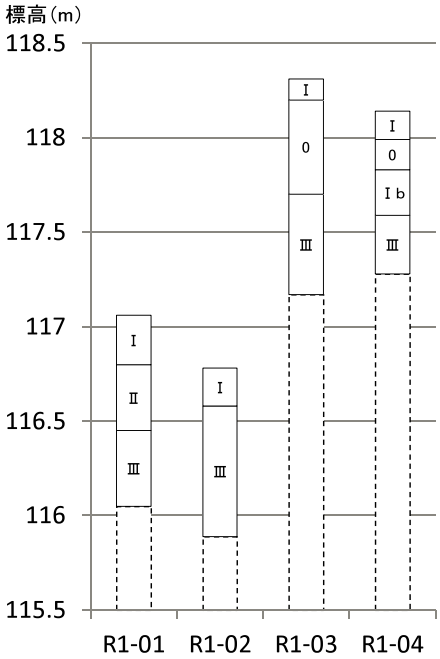
遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲については本発掘調査不要と判断する。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 10 年「十日町」　１：50,000 原図）

第２図　トレンチ位置図（１:2000）



第３図　土層柱状図（１:40）

22　一般国道 253 号八箇峠道路事業関係

南魚沼市余川（よかわ）地区試掘調査

（１）立　地

魚沼丘陵に源を発する庄之又川によって形成された扇状地の扇央部の縁辺に立地する。現況は水田で、標高は約 194ｍである。西側に金屋遺跡・蟻子山古墳群、南側に飯綱山古墳群・余川中道遺跡など、古墳時代から古代の遺跡が多く存在する。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 10 年「十日町」　１：50,000 原図）

（２）調査の概要

４か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。扇状地の扇央部の縁辺部に立地することから複雑な堆積が確認され、庄ノ又川の氾濫に起因すると思われる土石流堆積物が至るところで認められた。

（３）層　序

Ⅰ　層：灰オリーブ色シルト（水田耕作土）

Ⅱ　層：灰色シルト質砂

Ⅲ　層：オリーブ黒色シルト質砂　砂礫やや多く混入する。

Ⅳ　層：暗灰色～褐色砂礫土

Ⅴ　層：褐色砂～砂礫土

Ⅵａ層：暗褐色シルト　古代の遺物包含層である。

Ⅵｂ層：にぶい褐色シルト　古代の遺物包含層である。

Ⅶ　層：にぶい黄褐色～褐色シルト　一部に未分解腐植物が含まれる。

Ⅷ　層：にぶい黄褐色～褐色砂礫土

Ⅲ～Ⅴ・Ⅶ・Ⅷ層は土石流堆積物である。Ⅵａ・Ⅵｂ層は安定した時期の堆積物である。

（４）遺構・遺物

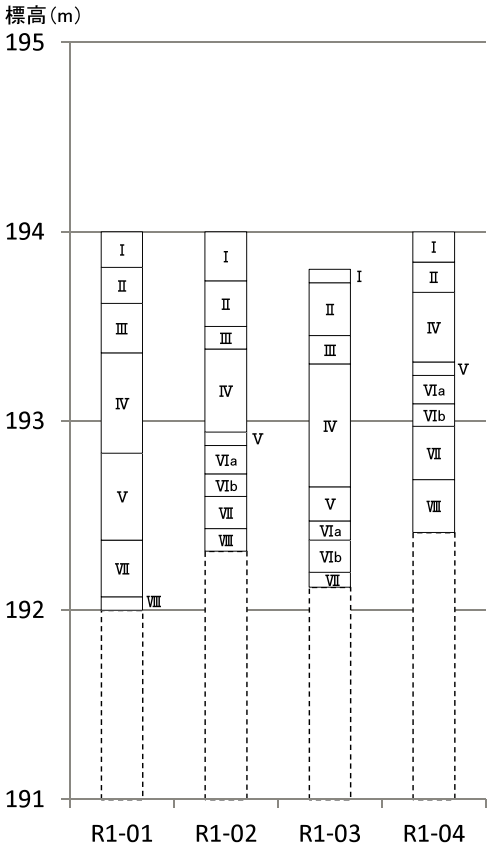
遺構は、３Ｔで溝１条（ＳＤ１）を検出した。Ⅶ層上面で確認し、東から西方向に延びる。検出値は、長さ 1.5ｍ・幅 30 ㎝・深さ 10 ㎝を測る。覆土は鈍い褐色シルト（Ⅵｂ層近似）で、炭化粒が少量混入する。遺物は出土していない。このほか遺構ではないが、３Ｔ掘削中に北西壁面で検出した河道の痕跡は、隣接する金屋遺跡でも確認されている。

遺物は、２～４Ｔで土師器を主体にやや多く出土した。土師器は杯・椀類が主体である。黒色処理された土師器も各トレンチで少量出土している。２ＴのⅥｂ層から土師器杯の底部に「女」と刻書された土器が出土している。遺物の時期は、昭和 57 年に本発掘調査した隣接の金屋遺跡と同様に、平安時代（９世紀後半以降）と推定される。

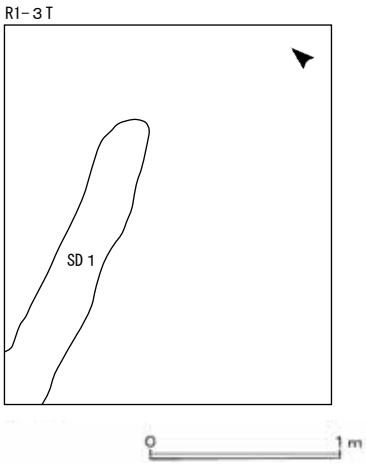
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物の検出状況から隣接する金屋遺跡の範囲拡大と推定できる。今回試掘調査の可能であった範囲（1,600 ㎡）については本発掘調査が必要である。なお、今回調査できなかった宅地部分（1,400 ㎡）については、今後、試掘調査が必要である。

第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）



第４図　遺構平面図（１:40）

第５図　調査区対象地近景（Ｒ１−１～４Ｔ付近　西から）

第６図　Ｒ１−１Ｔトレンチ断面（北西から）

第７図　Ｒ１−２Ｔトレンチ断面（北西から）

第８図　Ｒ１−３Ｔトレンチ断面（北西から）

第９図　Ｒ１−３Ｔ遺構出土状況（北東から）

第 10 図　Ｒ１−４Ｔトレンチ断面（南東から）

第 11 図　Ｒ１−２Ｔ出土遺物（Ⅵa 層出土）

第 12 図　Ｒ１−２Ｔ出土遺物（Ⅵb 層出土）

第 13 図　Ｒ１−４Ｔ出土遺物（Ⅵa 層出土）

23　一般国道 17 号六日町バイパス事業関係

南魚沼市竹俣（たけまた）地区試掘調査

（１）立　地

魚野川左岸の鎌倉沢川が形成した扇状地に立地する。現況は商用地・宅地跡地、水田・荒撫地で、標高は 171m前後である。

（２）調査の概要

９か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。鎌倉沢川の堆積物と考えられるシルト～砂礫層が確認された。

（３）層　序

０　層：褐色砂礫土（盛土）

Ⅰ　層：暗灰色～暗褐色シルト～砂（表土・耕作土）

Ⅰｂ層：褐灰色シルト（旧表土）

Ⅱ　層：オリーブ灰色シルト～砂礫

Ⅲ　層：オリーブ灰色～暗オリーブ灰色～暗褐色泥炭質シルト

Ⅳ　層：暗オリーブ灰色砂礫　湧水が著しい。

（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

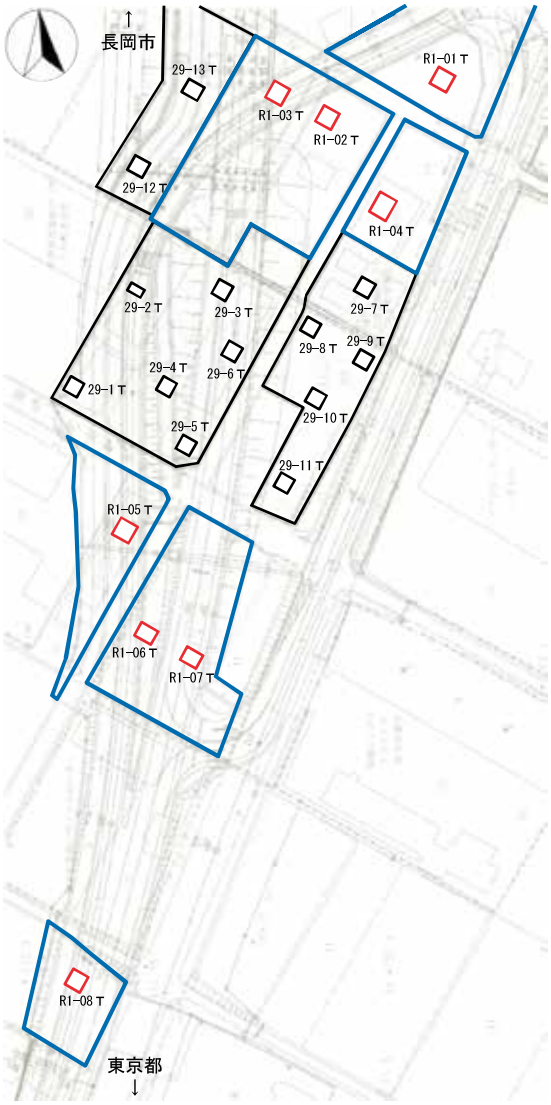
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲については本発掘調査不要と判断する。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 10 年「十日町」　１：50,000 原図）

第４図　調査対象地近景（Ｒ１−１～４Ｔ付近　北東から）

第５図　Ｒ１−１Ｔトレンチ断面（東から）

第６図　Ｒ１−２Ｔトレンチ断面（東から）



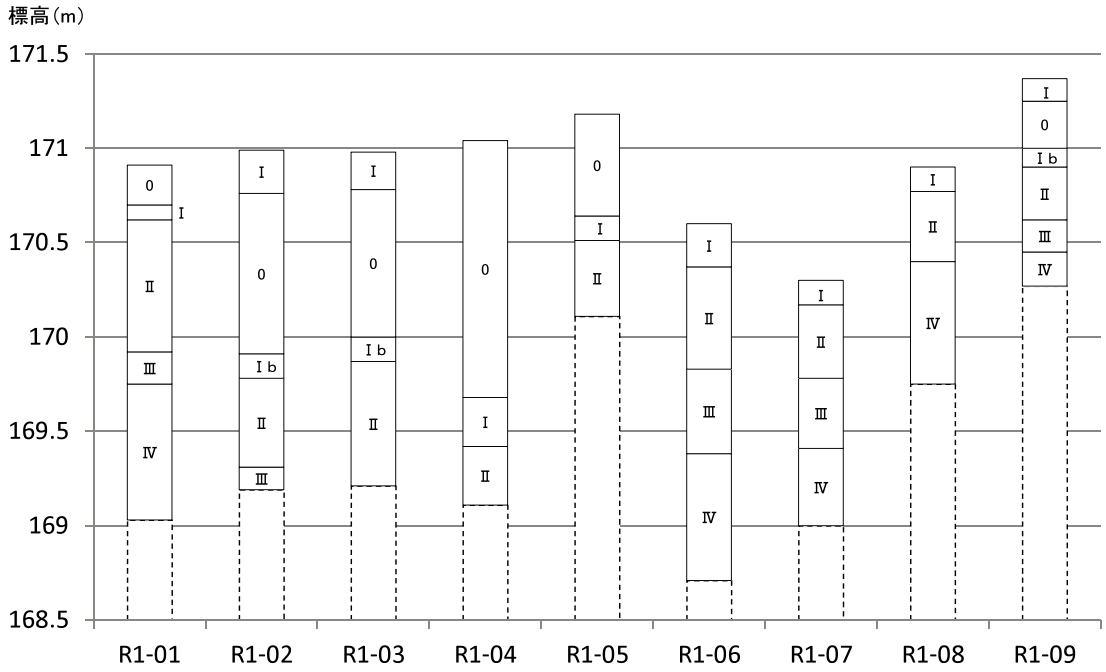
第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

第７図　Ｒ１−３Ｔトレンチ断面（西から）

第８図　Ｒ１−４Ｔトレンチ断面（東から）

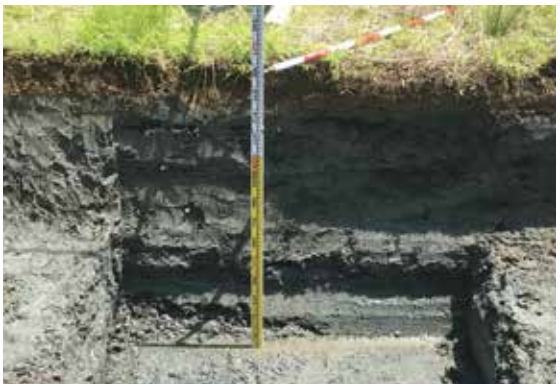
第９図　調査対象地近景（Ｒ１−５〜８Ｔ付近　北東から）

第 10 図　Ｒ１−５Ｔトレンチ断面（南から）



第３図　土層柱状図（１:40）

第 11 図　Ｒ１−６Ｔトレンチ断面（南から）



第 12 図　Ｒ１−７Ｔトレンチ断面（南から）

第 13 図　Ｒ１−８Ｔトレンチ断面（西から）

第 14 図　Ｒ１−９Ｔトレンチ断面（西から）

24　一般国道 253 号上越三和道路事業関係

「舘遺跡」（上越市駒林地区）確認調査

（１）立　地

高田平野の東部、飯田川右岸の沖積地に立地する。かつては畑地及び林であったが、現況は道路用地となっており、標高は 15～16mほどである。調査対象区の北東側には周知の弥五郎遺跡が隣接する。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 11 年「高田東部」　１：50,000 原図）

（２）調査の概要

１か所のトレンチを細長く設定して試掘調査を行った。畑地の耕作等により削平されており、旧表土の直下で地山を検出した。

（３）層　序

Ⅰ　層：褐色シルト（表土）

Ⅱ　層：暗褐色シルト（旧表土）

Ⅲ　層：黄褐色シルト（遺構確認面）自然堆積層。

（４）遺構・遺物

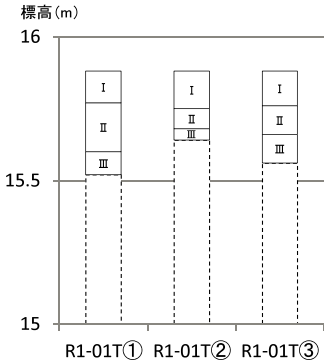
遺構は、土坑（ＳＫ）１基、溝（ＳＤ）７条、ピット（Ｐ）18 基を検出した。ピットのうち４基は矩形になり、掘立柱建物（ＳＢ）の可能性がある。北西－南東に延びる溝は暗褐色シルトでⅡ層に近似する。畑の耕作溝と考えられる。

遺物は、土師器 17 点、須恵器１点が出土したが、いずれも細片である。すべてⅡ層（旧表土）からの出土で、トレンチ内では舘遺跡側でやや多く出土する傾向である。出土遺物の時期は、隣接する舘遺跡の本発掘調査の所見から平安時代に帰属するものと考えられる。

（５）調査の結果と取扱い

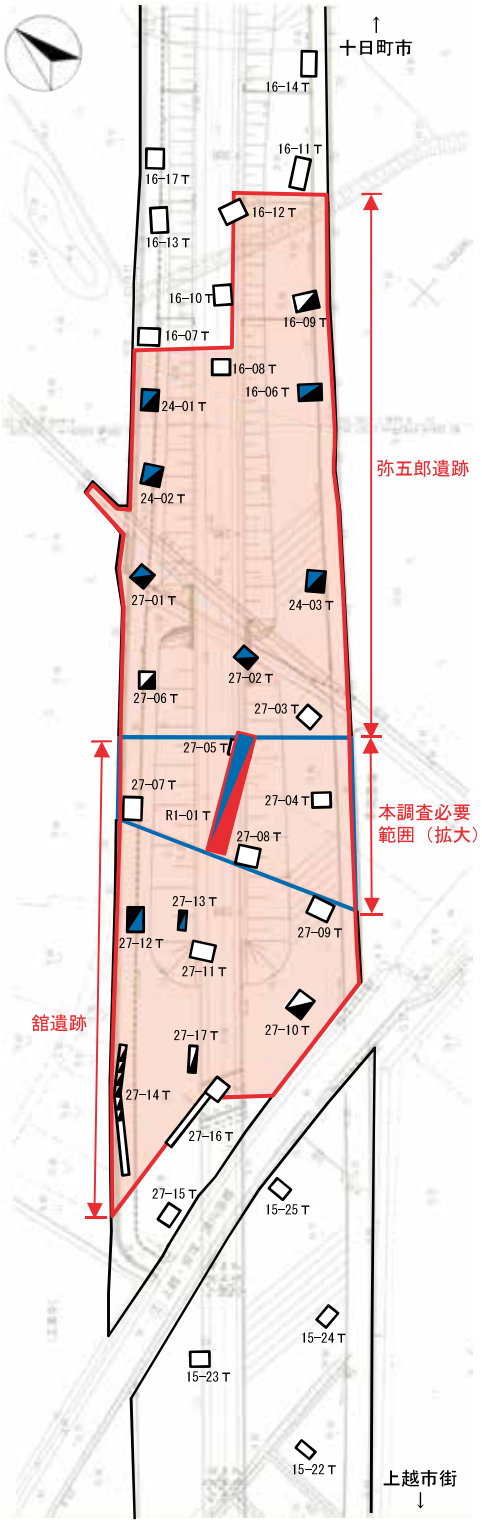
調査の結果、遺物包含層は認められなかったが、遺構・遺物を検出した。南側に隣接する舘遺跡の範囲拡大である。したがって、今回の確認調査対象範囲 2,077 ㎡の本発掘調査が必要と判断する。

なお、今回調査ができなかったが、北東側に隣接する弥五郎遺跡の古墳時代前期の遺構・遺物が下層に存在することが予想される。上層の本発掘調査が終了した時点で下層の確認調査が必要である。

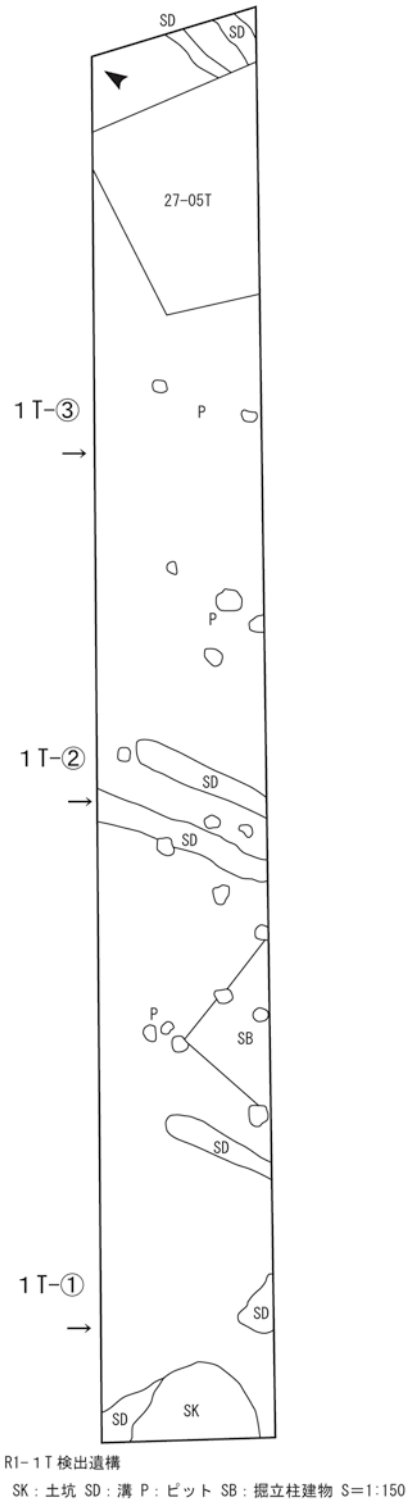


第３図　土層柱状図（１:40）

第５図　Ｒ１－１Ｔ全景（東から）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第４図　遺構平面図（１:150）

第６図　Ｒ１－１Ｔ①トレンチ断面（南から）

第７図　Ｒ１－１Ｔ②トレンチ断面（南から）

第８図　Ｒ１－１Ｔ③トレンチ断面（南から）

第９図　Ｒ１－１Ｔ遺構（SK）検出状況（南から）

第 10 図　Ｒ１－１Ｔ遺構（SD）検出状況（南から）

第 11 図　Ｒ１－１Ｔ遺構（SB）検出状況（南から）

第 12 図　Ｒ１－１Ｔ遺構（SD・P）検出状況（南から）

第 13 図　Ｒ１－１Ｔ出土遺物（Ⅱ層出土）

第Ⅲ章　令和２年度調査

１　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「法妙（ほうみょう）遺跡」（村上市中浜（なかはま）地区）確認調査

（１）立　地

日本海から約 400m 内陸、法妙川左岸の河岸段丘上と右岸の山地端部に立地する。標高は約 17～29ｍで、現況は荒蕪地である。

（２）調査の概要

14 か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。分布調査で石器が採集されていたため、採集地点付近及び遺物の包含が想定されたⅢ層の分布範囲を重点的に調査した。

（３）層　序

Ⅰａ層：表土

Ⅰｂ層：造成土

Ⅰｃ層：旧表土

Ⅱ　層：明黄褐色シルト

Ⅲ　層：褐灰色礫混じりシルト
（炭化物をわずかに含む。）

Ⅳ　層：明黄褐色礫混じりシルト

Ⅴ　層：明黄褐色シルト

Ⅵ　層：明黄褐色礫

Ⅶ　層：にぶい黄橙色シルト岩（基盤層）

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

（４）遺構・遺物

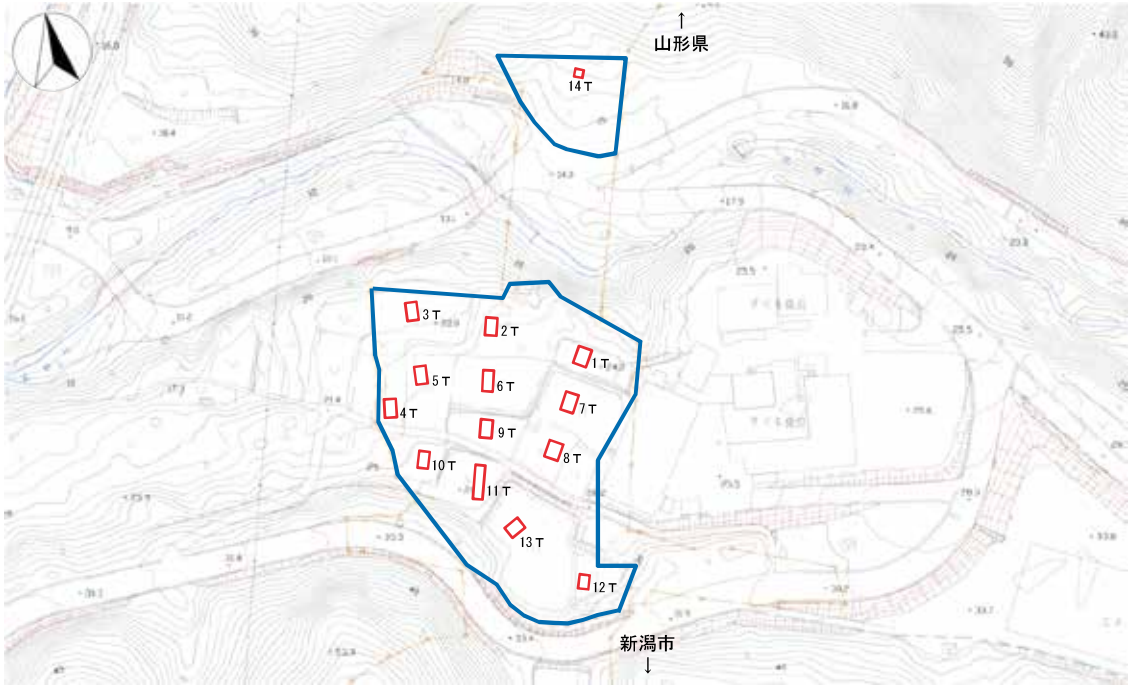
遺構・遺物は、検出されなかった。分布調査で採集した石器は、法線外の隣接地から採集された可能性がある。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

第４図　調査対象地近景（南東から）

第５図　調査対象地近景 14Ｔ付近（南から）



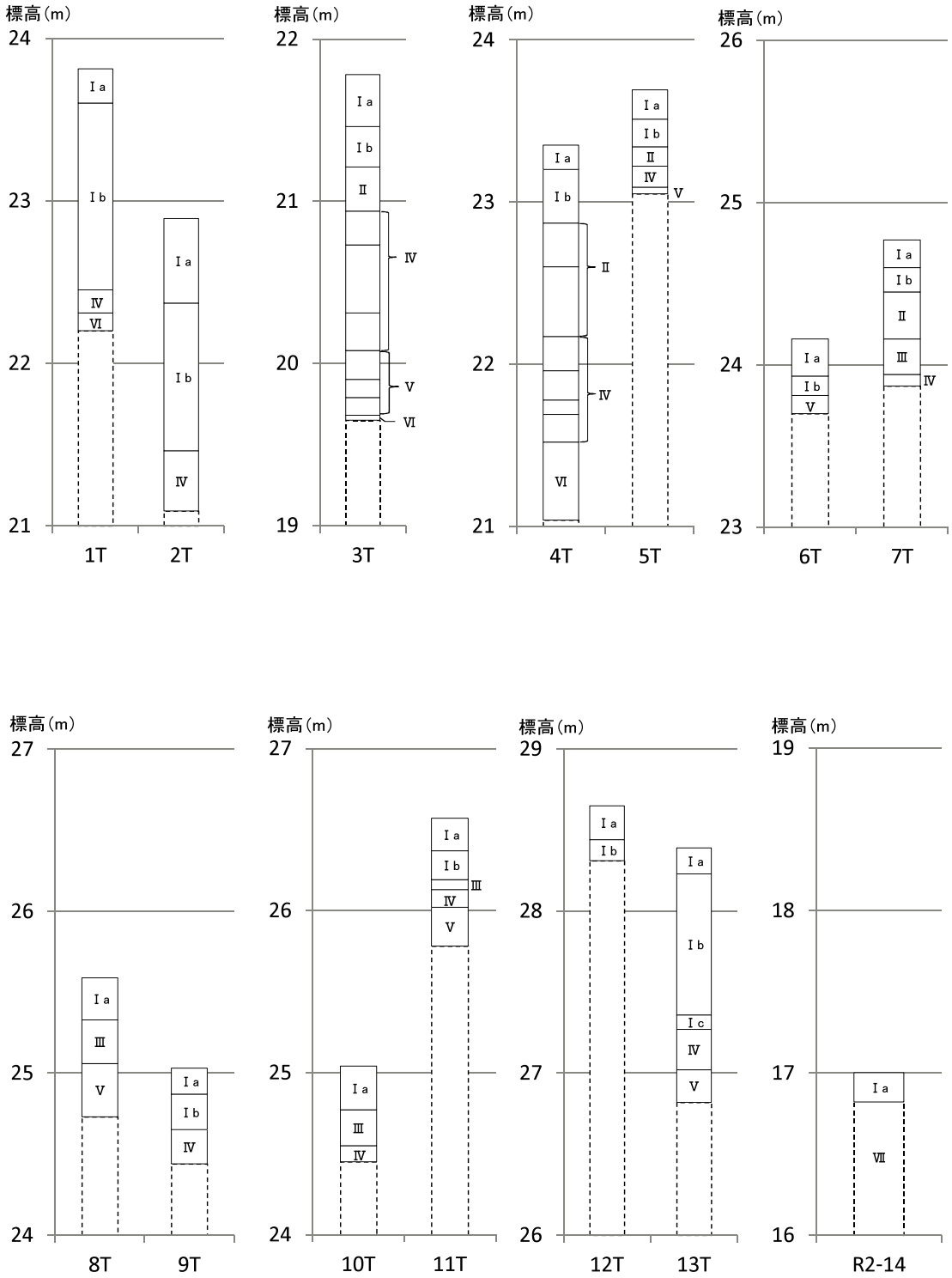
第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

第６図　３Ｔトレンチ断面（北東から）

第７図　７Ｔトレンチ断面（南西から）

第８図　10Ｔトレンチ全景（北東から）

第９図　10Ｔトレンチ断面（東から）



第３図　土層柱状図（１:40）

２　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 25」（村上市中浜（なかはま）地区）試掘調査

（１）立　地

宮ノ沢右岸の山地に立地する。標高は約 23～27ｍで、現況は山林である。周辺には北 200ｍに縄文時代の法妙遺跡が存在する。

（２）調査の概要

６か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

（３）層　序

調査対象地の土層は、宮ノ沢により運搬された河川堆積物・土石流堆積物が中心である。

Ⅰａ層：表土（腐植土）

Ⅰｂ層：造成土

Ⅱ　層：灰黄褐色砂質シルト（旧表土）

Ⅲ　層：にぶい褐色礫混じり砂質シルト

Ⅳ　層：にぶい褐色砂礫

Ⅴ　層：にぶい黄橙色細砂

Ⅵ　層：灰白色砂質シルト

Ⅶ　層：黄褐色砂礫

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

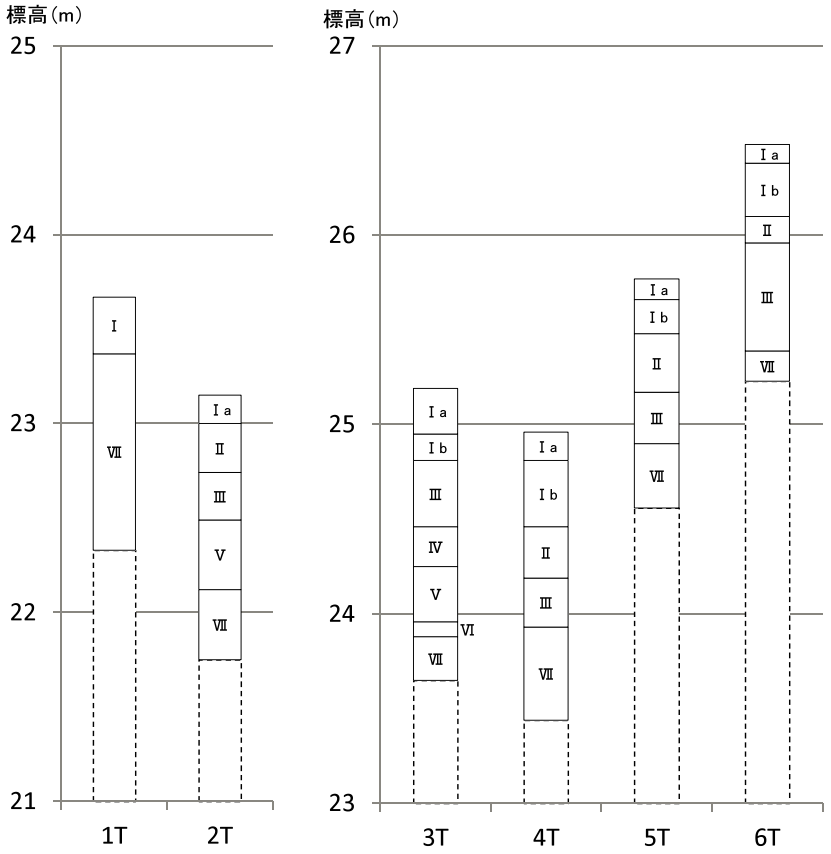
（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　調査対象地近景（北西から）

第５図　２Ｔトレンチ断面（東から）

第６図　３Ｔトレンチ断面（北から）

第７図　５Ｔトレンチ断面（北東から）

３　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 24」（村上市堀ノ内（ほりのうち）地区・寺沢（てらさわ）地区）確認調査

（１）立　地

日本海から約１㎞内陸の、大川右岸の段丘上及び河川低地に立地する。標高は約 12～14ｍで、現況は水田及び荒蕪地である。令和元年度の試掘調査において新規登録された竹ノ内遺跡とその隣接地に当たる。

（２）調査の概要

11 か所のトレンチを設定して、３回にわたって試掘調査を行った。第１回は段丘上の周知範囲東側、第２回は段丘上の周知範囲北側、第３回は段丘下の周知範囲南側である。このうち、第２回・第３回の調査で竹ノ下遺跡の広がりが確認された。なお、堆積状況は各回で著しく異なるため、層序の対応関係は明らかにできなかった。

（３）層　序

【第１回・段丘上東側】

令和元年度の調査とほぼ同様の層序である。

Ⅰ　層：褐色～暗褐色シルト（耕作土）

Ⅱ　層：褐灰色砂礫土（ほ場整備時の造成土）

Ⅱｂ層：褐灰色砂質シルト　炭化粒を多く含み Ⅲ層に類似するが、近世以降の陶磁器等を含む。

Ⅲ　層：褐灰色～暗褐色シルト（遺物包含層及び相当層）　炭化粒をやや多く混入する。

Ⅳ　層：褐色～青灰色シルト（遺構検出面）　泥岩主体の砂礫が多く混入する。

Ⅴ　層：褐色～暗青灰色砂礫　泥岩主体の砂礫層。寺沢川により形成された沢地形を埋積した土石流堆積物と考えられる。

Ⅵ　層：にぶい橙色粘質シルト　山地側から延びる基盤層。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成２年「温海」　１：50,000 原図）

【第２回・段丘上北側】

調査対象地の土層は、基本的に土石流や洪水による堆積物からなるが、炭化物を含む遺物包含層（Ⅵ層）が介在した。隣接地で行われている本発掘調査の所見を踏まえて層名を付した。

Ⅰａ層：表土　　Ⅰｂ層：造成土　　Ⅰｃ層：旧表土

Ⅱａ層：にぶい褐色砂礫　　Ⅱｂ層：にぶい黄褐色礫混じりシルト

Ⅲａ層：灰色粗砂　　Ⅲｂ層：灰色細砂

Ⅳ　層：灰白色シルト

Ⅴ　層：明黄褐色細砂（炭化物をわずかに含む。）

Ⅵ　層：灰黄褐色細砂　中世の遺物包含層（炭化物をわずかに含む。）

Ⅶ　層：暗灰黄色粗砂

Ⅷ　層：オリーブ灰色礫混じりシルト

Ⅸ　層：オリーブ灰色砂礫

【第３回・段丘下南側】

大川流域の河川低地に当たることから洪水堆積物からなり、遺物包含層が介在した。隣接地で行われている本発掘調査の所見を踏まえて層序の把握に努めた。

Ⅰａ層：表土　　Ⅰｂ層：造成土　　Ⅰｃ層：旧表土

Ⅰｄ層：灰黄褐色シルト（旧表土　現代の陶磁器含む。）

Ⅱ　層：黒色シルト　中世の遺物包含層

Ⅲ　層：褐灰色シルト　古代の遺物包含層

Ⅳ　層：灰白色砂質シルト

Ⅴ　層：灰オリーブ細砂～砂礫

（４）遺構・遺物

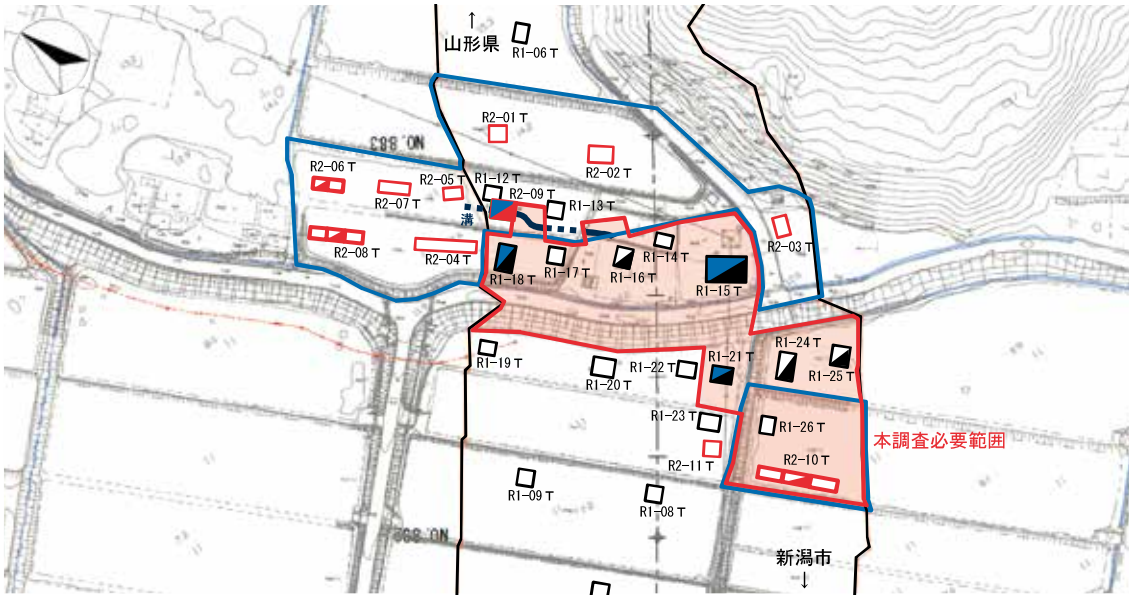
第１回調査（段丘上東側）では、令和元年度の調査と同様の堆積状況を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。

第２回調査（段丘上北側）では、６Ｔで青磁、８Ｔで珠洲焼が出土した。青磁は 13 世紀前半の蓮弁紋椀、珠洲焼は 13 世紀末～14 世紀後半ころの壺である。いずれも現地表下約１ｍのⅥ層上部から出土した。６Ｔと８Ｔを結んだラインより北西側に遺物包含層が広がると見られる。なお、Ⅵ層下位で遺構は検出されなかった。８ＴのⅣ層上面では、水田の畦畔を検出したが、隣接する竹ノ下遺跡の本発掘調査の所見から、近世以降に築かれたものと判断した。９Ｔでは、本発掘調査対象範囲から延びる中世の溝の広がりを確認するために追加調査し、南東から北西に向かう溝を確認した。

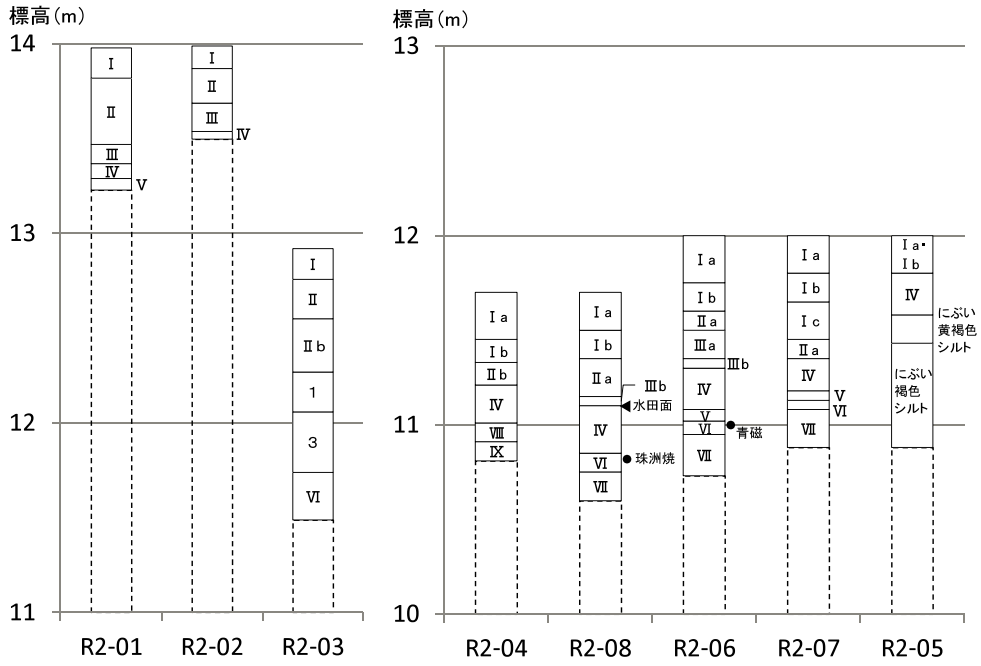
第３回調査（段丘下南側）では、10ＴのⅢ層から古代の土師器４点が出土したが、遺構は検出されなかった。古代の遺物包含層の広がりを把握したものの遺構は検出されず、遺跡の縁辺部に相当すると判断した。中世の遺構・遺物は検出されなかった。また、西側への遺跡の広がりを把握するために 11Ｔを設定したが、遺構・遺物は検出されなかった。

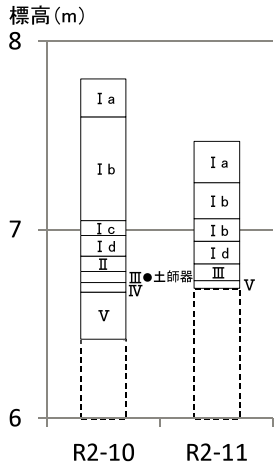
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、段丘上北側で中世の溝及び遺物包含層、段丘下南側で古代の遺物包含層の広がりを確認した。竹ノ下遺跡を拡張し、保護に関する協議を行うこととする。



第２図　トレンチ位置図（１:2000）





第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　調査対象地近景（西から）

第５図　Ｒ２−２Ｔトレンチ断面（東から）

第６図　Ｒ２−１Ｔトレンチ断面（東から）

第７図　Ｒ２−４Ｔトレンチ全景（西から）

第８図　Ｒ２−６Ｔトレンチ断面（南東から）

第９図　Ｒ２−６Ｔ青磁出土状況Ⅵ層上部（南東から）

第 10 図　Ｒ２−８Ｔトレンチ断面（南東から）

第 11 図　Ｒ２−８Ｔ近世以降の畦畔の断面（北東から）

第 12 図　Ｒ２−９Ｔトレンチ断面（南東から）

第 13 図　Ｒ２-10Ｔトレンチ断面（西から）

第 14 図　Ｒ２−６・８Ｔ出土遺物（Ⅵ層上部出土）

４　一般国道８号朝日温海道路事業関係

「大川城跡（おおかわじょうせき）」（村上市府屋（ふや）地区）確認調査

（１）立　地

大川左岸の丘陵先端部の斜面地に当たり、現況は荒蕪地及び山林である。調査対象地は、イトマ沢とよばれる谷地とそこに面した東斜面である。標高は、谷地で８～14m、斜面部で23～24mほどである。

（２）調査の概要

谷地で５か所、斜面部で２か所のトレンチを設定して調査した。当初、斜面部は調査対象となっていなかったが、谷地の調査時に遺構の可能性があるテラスを確認したことから、土地改変の内容や時期を特定するために追加調査した。

（３）層　序

【谷地部】

Ⅰａ層：表土

Ⅰｂ層：造成土

Ⅰｃ層：旧表土

Ⅱ　層：灰色砂質シルト

Ⅲ　層：オリーブ灰色砂礫

Ⅳ　層：黄灰シルト

Ⅴ　層：灰色粗砂

Ⅵ　層：オリーブ褐色泥炭質シルト

Ⅶ　層：オリーブ灰色砂礫

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000原図）

【斜面部】

１	層：腐植土	現表土
２	層：極暗褐色土	腐植土　溝の埋土
３	層：にぶい赤褐色礫混じりシルト	切岸の排土による造成土
４	層：褐色礫混じりシルト	切岸の排土による造成土
５	層：明褐色シルト岩	基盤層

（４）遺構・遺物

谷地では、遺構・遺物は検出されなかった。

斜面部では、山側を切土し、その排土を谷側に盛土することで、テラスが形成されていることが明らかになったが、年代を特定できる遺物は出土しなかった。山城では、遺物がほとんど出土しないことが一般的であり、この結果は特異な状況とはいえない。

テラスの山側には溝が掘られていたが、地域住民の話では、イトマ沢に設けられた溜池から、大川館跡（現在の古舘城址公園）に存在した水田に用水を引く施設であったとされる。現在も赤道となっていることを踏まえれば、水路として使用されていたと判断できる。調査対象地の木竹の伐採後に現地踏査したところ、テラスは緩やかに勾配しており、水路として機能したことを確認することができた。

現地調査とあわせて、館跡に築かれた水田が、いつまで遡れるか検討した。慶長２（1597）年に作成された「瀬波郡絵図」では、大川城跡は「古城」となっていることから廃城したものと考えられるが、この

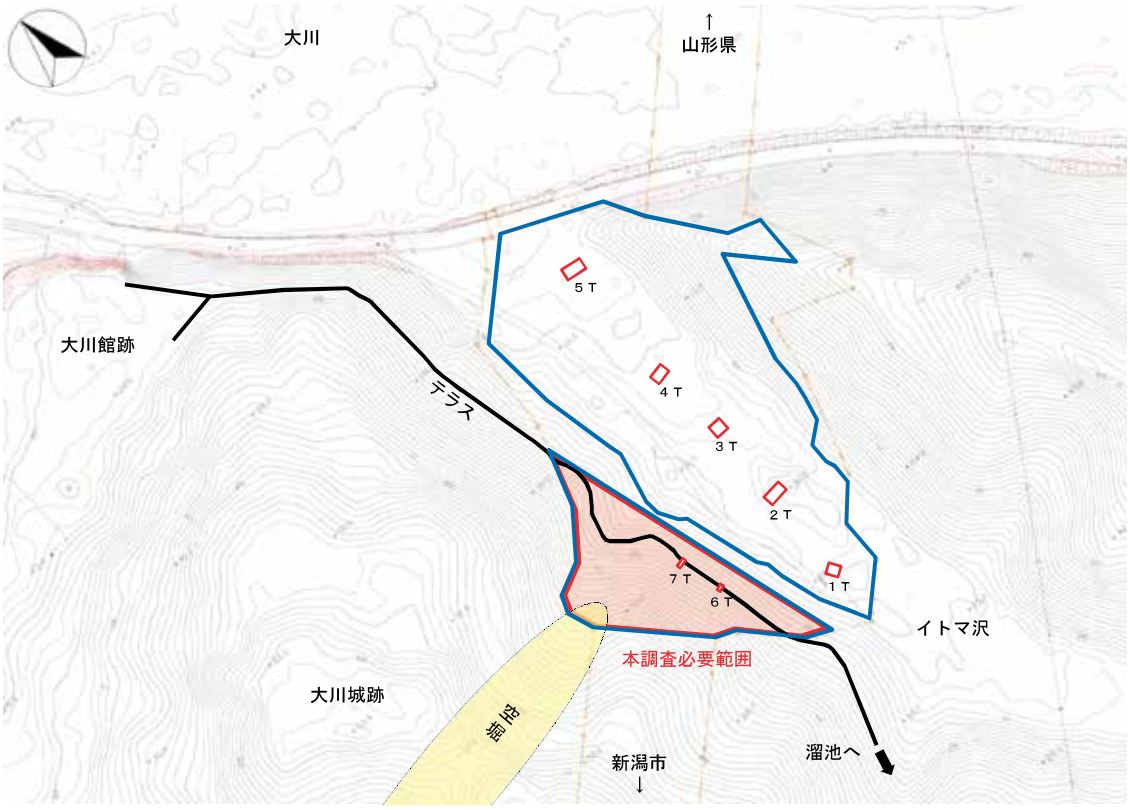
段階では「藤懸り館」（大川館跡）が描かれている。すなわち、慶長２年の段階では水田となっていない。また、江戸時代の検地帳などを調査したが、この水田に関する記述は見られず、水路がいつまで遡るか明らかにできなかった。

評価の難しい遺構であったことから、有識者から現地において指導いただいた。大川城跡に詳しい横山勝栄氏は、水路は中世の山城または戊辰戦争時の施設（城道または胸壁）を改変して作られたものと評価し、テラスの造成が中世に遡る可能性を指摘した。坂井秀弥氏は、テラスを水路設置のために造成したものと考えたが、農業遺産としての価値が高いとした。また、坂井氏は、頂部付近に存在する空堀の一部が、調査対象地に広がる可能性を指摘した。これらの所見を踏まえ、両名からは、本発掘調査を実施して、遺構の性格と年代を明らかにすることが必要であると指導いただいた。

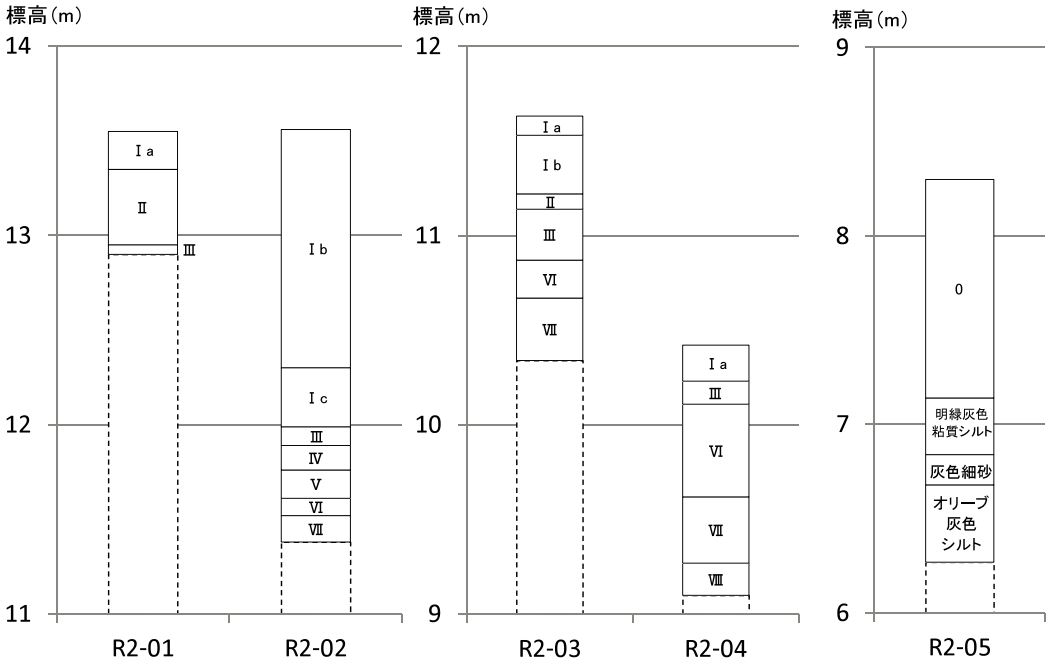
以上のように、遺構の年代・性格を確定できなかったが、事業用地内に大川城跡に関連する施設が存在する可能性が考えられた。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、斜面部については中世に遡る可能性のある遺構を検出したことから、トンネル坑口の 1,500 ㎡について本発掘調査が必要と判断した。谷地については、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



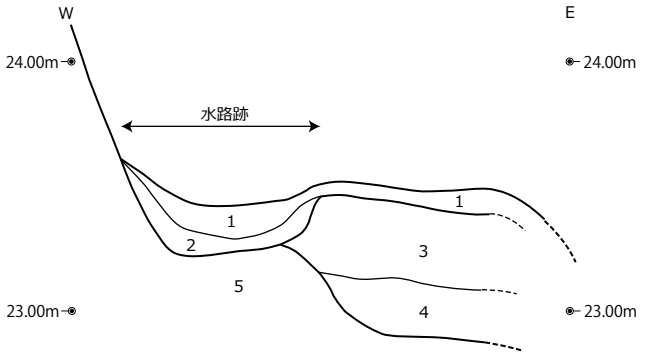
第３図　土層柱状図（１:40）

第５図　調査対象地近景（北から）

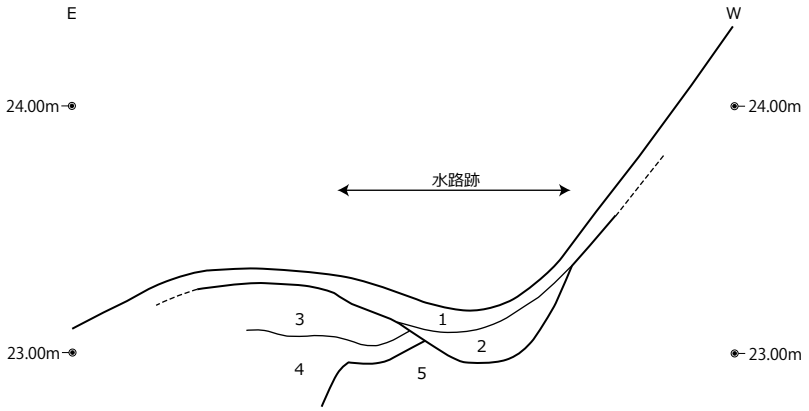
第６図　４Ｔトレンチ全景（南から）

第７図　６Ｔ付近調査前近景（南から）

第８図　６Ｔトレンチ断面（南から）



６Ｔセクション（南から）



７Ｔセクション（北から）

【７T･８T土層注記】
１層　腐植土　現表土
２層　極暗褐色土　腐植土、溝埋土
３層　にぶい赤褐色礫まじりシルト
４層　褐色礫まじりシルト
} 再堆積土（切岸の排土による造成）
５層　暗褐色シルト岩　基盤層

第４図　検出遺構断面図（１：30）

第９図　７Ｔ付近調査前近景（北から）

第 10 図　７Ｔトレンチ断面（北から）

５　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 23」（村上市府屋（ふや）地区）試掘調査

（１）立　地

日本海から約 750m 内陸の谷底平野に立地する。標高は約 16～25ｍで、現況は荒蕪地である。周辺には北西 500ｍに縄文時代の府屋遺跡、西 500ｍには弥生時代の間ノ内遺跡が存在する。

（２）調査の概要

８か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地は狭い谷地に当たり、湿地性の堆積物と洪水性の堆積物の互層が確認された。

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

（３）層　序

Ⅰａ層：表土

Ⅰｂ層：造成土

Ⅰｃ層：旧表土

Ⅱ　層：灰色礫混じりシルト

Ⅲ　層：緑灰色礫混じり粗砂

Ⅳ　層：灰白色粘質シルト

Ⅴ　層：黒褐色泥炭

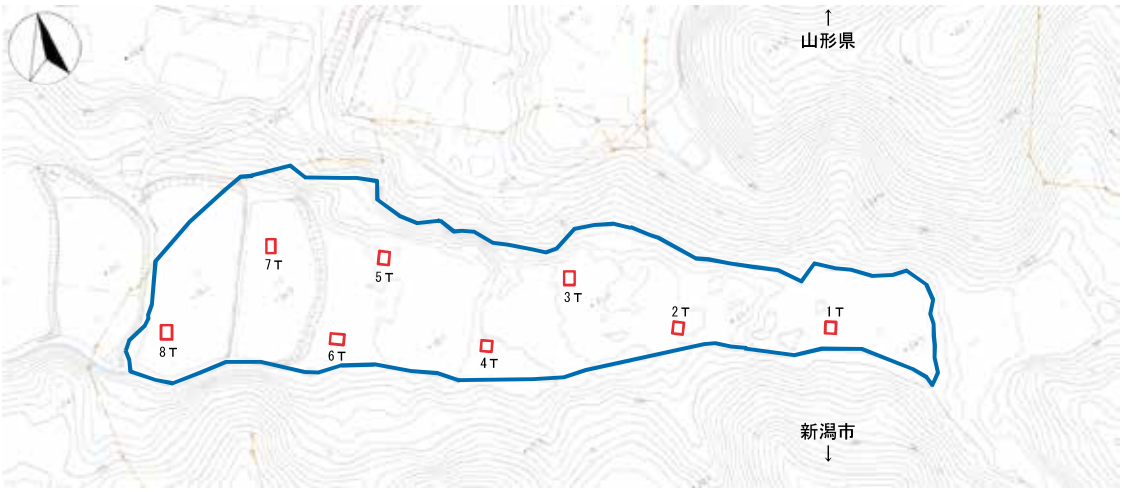
Ⅵ　層：灰色礫混じり粗砂

（４）遺構・遺物

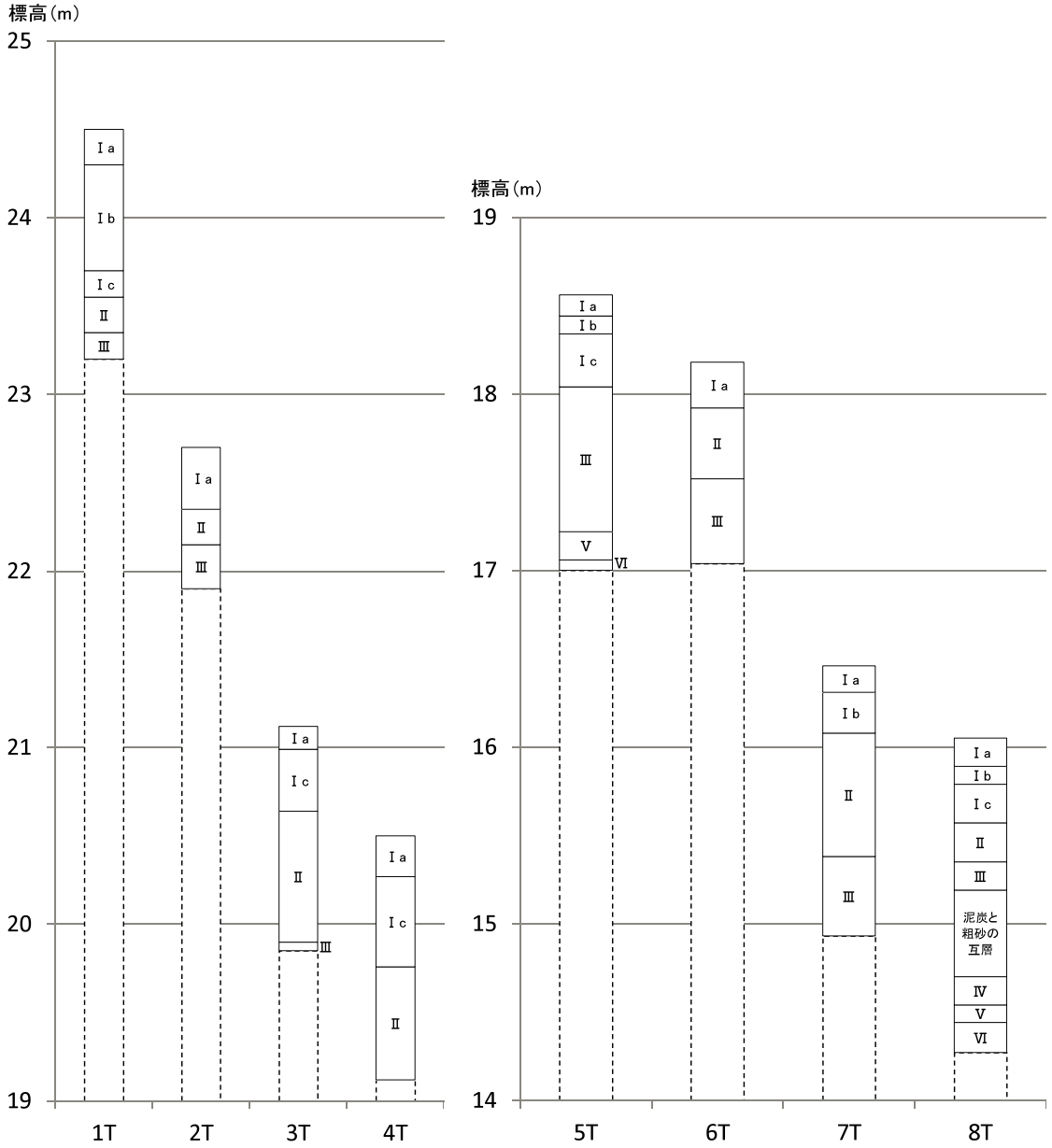
遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　５Ｔトレンチ断面（西から）

第５図　８Ｔトレンチ断面（東から）

６　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 21」（村上市碁石（ごいし）地区）試掘調査

（１）立　地

碁石川右岸の山地に位置する。標高は約 68～89ｍで、現況は山林である。周辺には南西 750ｍに中世の碁石石仏が存在する。

（２）調査の概要

４か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

（３）層　序

調査対象地は山地の頂部の平坦面に当たり、土層の堆積は薄い。

Ⅰ　層：暗褐色土（表土）

Ⅱ　層：にぶい黄褐色シルト（漸移層）

Ⅲ　層：にぶい黄褐色礫混じりシルト

Ⅳ　層：明黄褐色礫混じりシルト

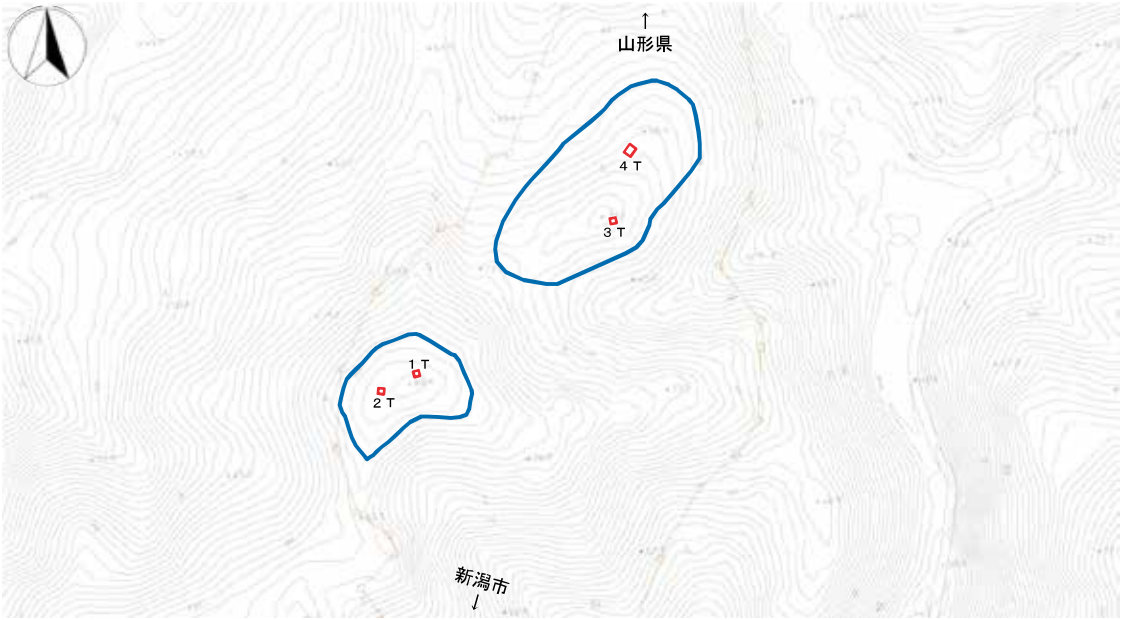
（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

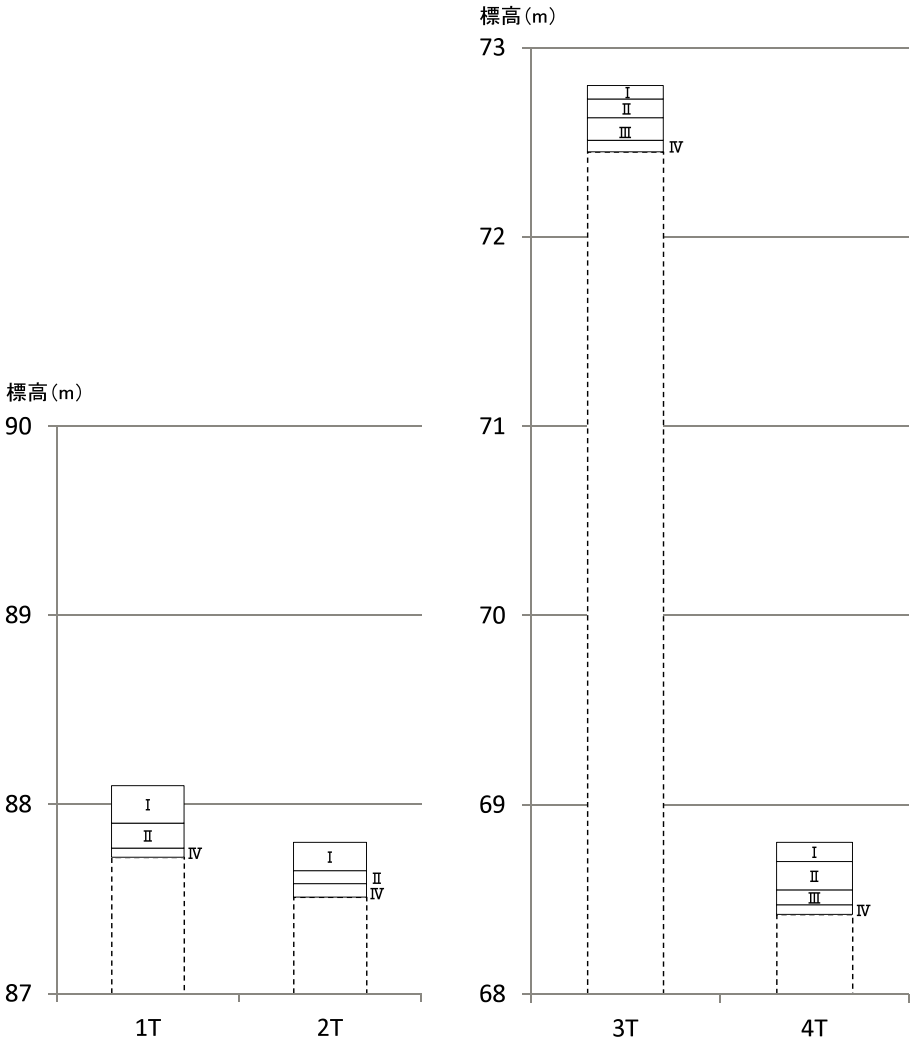
第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１:2000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　１Ｔトレンチ断面（北から）

第５図　４Ｔトレンチ断面（北西から）

７　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 19」（村上市勝木（がつぎ）地区）試掘調査

（１）立　地

日本海から約 750m 内陸の勝木川右岸の谷底平野に立地する。標高は約８ｍで、現況は荒蕪地である。周辺には東 1.2km に中世の大伝寺跡、西 600ｍには中世の碁石石仏が存在する。

（２）調査の概要

１か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。造成による土地改変が著しく、厚く盛土されていた。

（３）層　序

０　層：造成土

Ⅰ　層：暗褐色シルト（旧表土）

Ⅱ　層：オリーブ灰色細砂

（４）遺構・遺物

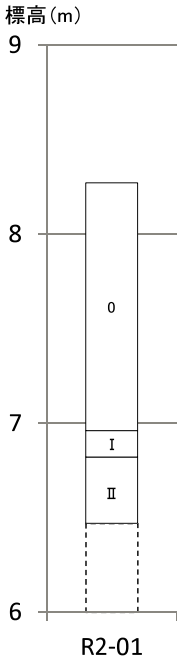
遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　１Ｔトレンチ断面（南東から）

８　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 15」（村上市中津原（なかつはら）地区）試掘調査

（１）立　地

大毎川左岸の段丘上に立地する。標高は約 86～88ｍで、現況は山林である。周辺には南東 500ｍに縄文時代の蕨平遺跡、北西 500ｍに縄文時代の中津原遺跡が存在する。

（２）調査の概要

10 か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

（３）層　序

各トレンチとも、同様の堆積状況が確認された。土壌化したＶ層の上下には風化花崗岩（真砂土）の再堆積物が確認され、数回、土石流に覆われたことがわかる。

Ⅰ　層：表土（腐植土）

Ⅱ　層：暗褐色シルト（腐植土）

Ⅲ　層：にぶい黄褐色礫混じり粗砂（真砂土）

Ⅳ　層：暗赤褐色粗砂（真砂土）

Ⅴ　層：黒褐色シルト

Ⅵ　層：黄褐色砂礫（真砂土）

Ⅶ　層：黄褐色シルト

Ⅷ　層：明黄褐色砂礫（段丘礫層）

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

（４）遺構・遺物

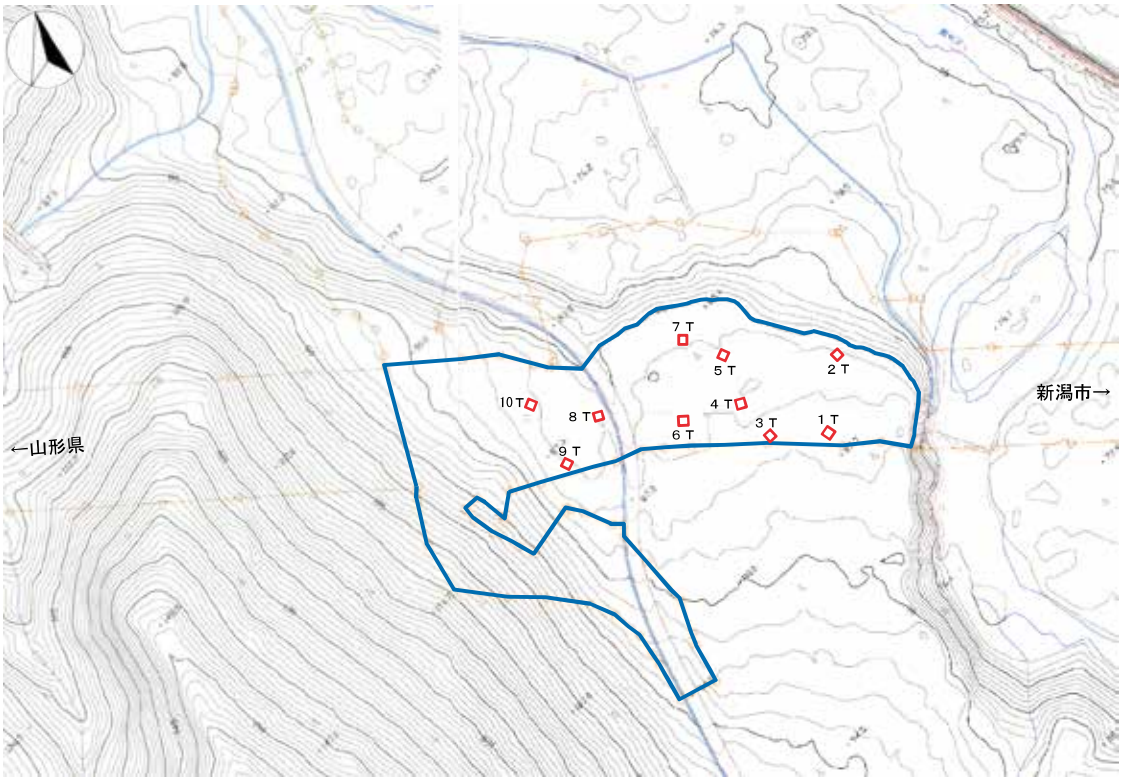
遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

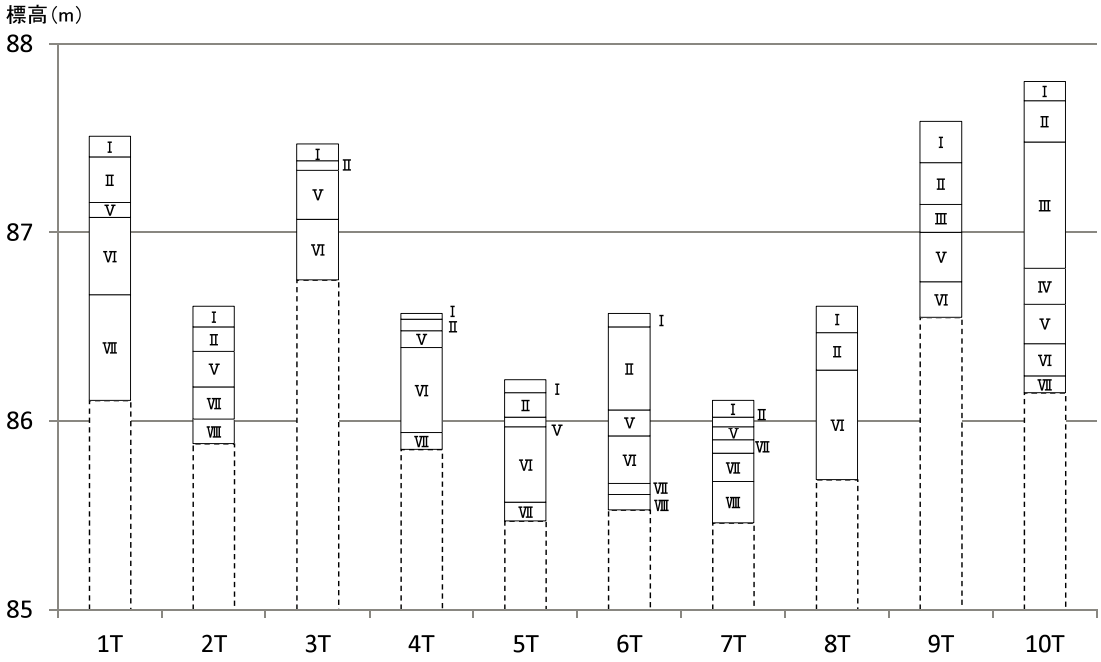
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

第４図　１Ｔトレンチ全景（北東から）

第５図　10Ｔトレンチ断面（南東から）



第２図　トレンチ位置図（１:2000）



第３図　土層柱状図（１:40）

９　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 13」（村上市北黒川（きたくろかわ）地区）試掘調査

（１）立　地

勝木川右岸の段丘上と河川低地に立地する。標高は約 80～92ｍで、現況は荒蕪地である。周辺には北西 1.5ｋｍに縄文時代の中津原遺跡、東 800ｍに縄文時代の蕨平遺跡が存在する。

（２）調査の概要

９か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地は、段丘上と南側と北側に広がる河川低地である。段丘上と河川低地では 12ｍほどの比高差があり、堆積環境が異なる。段丘上では土壌化したシルト、低地では河川堆積物が認められた。

（３）層　序

【段丘上】１～７Ｔ

Ⅰａ層：表土

Ⅰｂ層：造成土

Ⅰｃ層：旧表土

Ⅱ　層：暗褐色シルト（土壌化）

Ⅲａ層：黒褐色シルト（土壌化）

Ⅲｂ層：黒色シルト（土壌化）

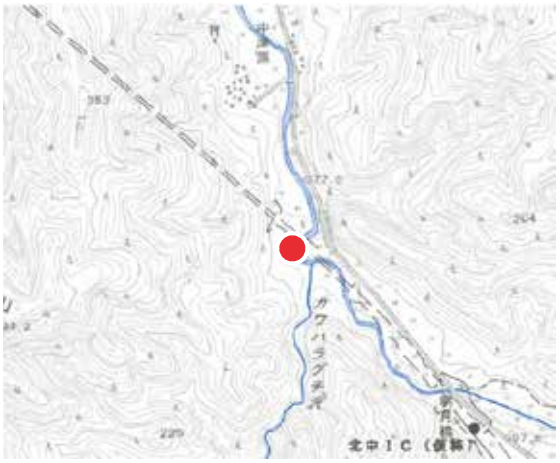
Ⅲｃ層：黒褐色シルト（土壌化）

Ⅳ　層：暗褐色砂質シルト

Ⅴ　層：明黄褐色シルト（段丘堆積物）

Ⅵ　層：にぶい黄褐色砂礫（段丘堆積物）

Ⅶ　層：黄褐色砂礫（段丘堆積物）



第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

【河川低地】８・９Ｔ

Ⅰ　層：表土

Ⅱ　層：灰黄褐色細砂

Ⅲ　層：浅黄色粗砂

Ⅳ　層：灰黄色褐色細砂

Ⅴ　層：浅黄色砂礫

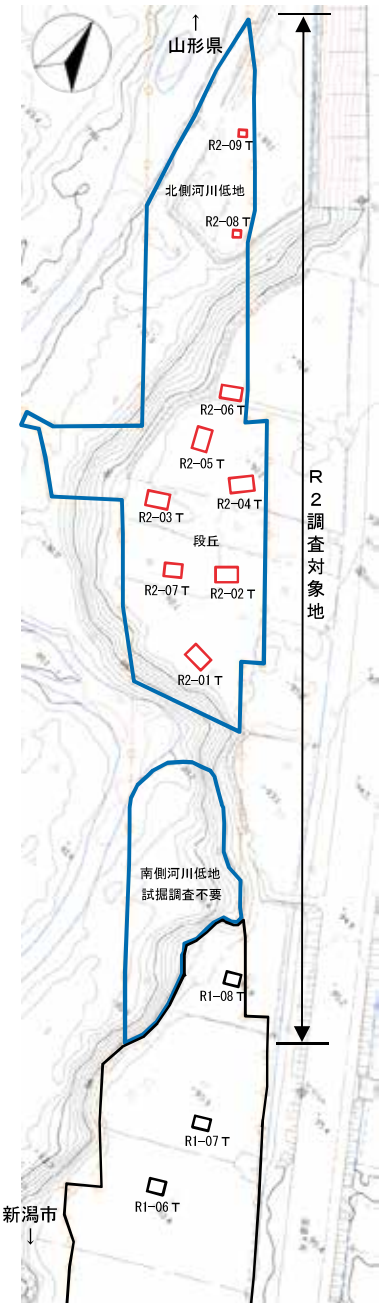
※河川低地のⅡ～Ⅴ層は、河川堆積物である。調査対象地と現河床との比高差は 1.5ｍであることから、離水年代が大きく遡らないと考えられ、遺跡が存在する可能性は極めて低い。南側の河川低地については、進入路を確保できず調査できなかったが、北側の河川低地と一連の地形にあることから、同様に判断できる。

（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

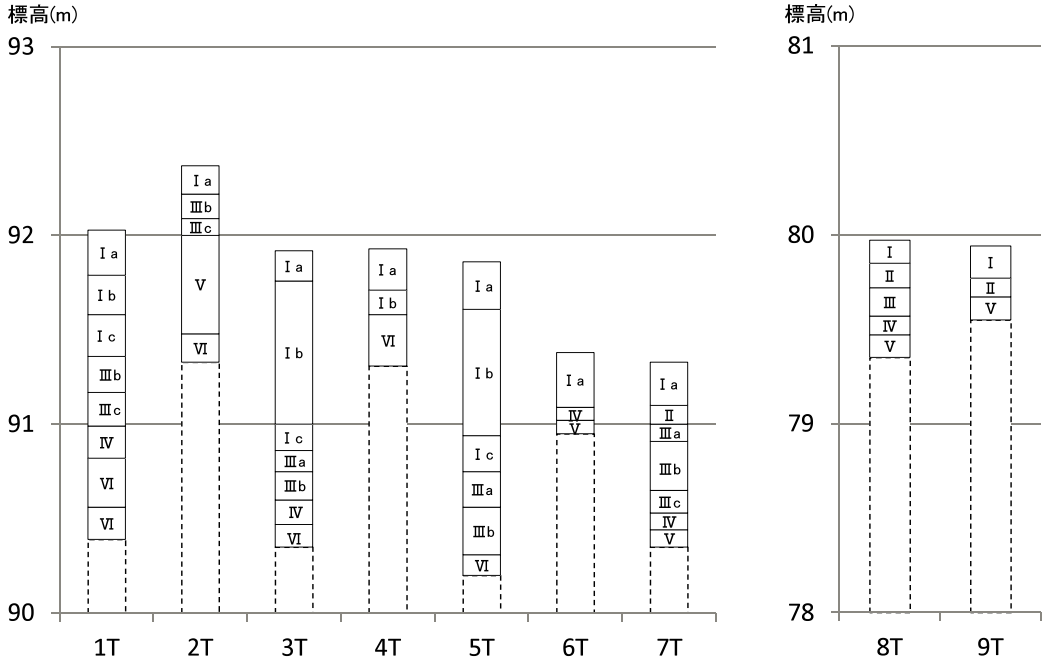
第４図　調査対象地(段丘上)近景（北西から）

第５図　１Ｔトレンチ全景（北から）

第６図　２Ｔトレンチ全景（南から）

第７図　３Ｔトレンチ断面（北から）

第８図　５Ｔトレンチ断面（東から）



第３図　土層柱状図（１:40）

第９図　６Ｔトレンチ全景（南から）

第 10 図　７Ｔトレンチ断面（南から）

第 11 図　調査対象地(河川低地)近景（東から）

第 12 図　８Ｔトレンチ全景（南西から）

10　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地 10」（村上市大毎（おおごと）地区）試掘調査

（１）立　地

大毎川左岸の段丘上に立地する。標高は約 138～149ｍで、現況は荒蕪地である。周辺には南東 400ｍに中世の大毎西遺跡、満願寺五輪塔群が存在する。

（２）調査の概要

15 か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地は、段丘上（１・２・８～15Ｔ）と丘陵裾（３～７Ｔ）からなる。段丘上は、大半が谷地と重複しており、谷地を埋積する土石流堆積物と湿地性堆積物を確認した。丘陵裾では、ローム質のシルトの上に土壌化したシルトを確認した。

（３）層　序

【段丘上】１・２・８～15Ｔ

Ⅰａ層：表土

Ⅰｂ層：造成土

Ⅰｃ層：旧表土

Ⅱ　層：褐灰色粘質シルト

Ⅲ　層：黒褐色泥炭

Ⅳ　層：灰白色粘質シルト

Ⅴ　層：緑灰色砂礫

Ⅵ　層：褐灰色砂礫

Ⅶ　層：灰色シルト岩（基盤層）

【丘陵裾】３～７Ｔ

Ⅰ　層：表土

Ⅱ　層：暗褐色シルト

Ⅲ　層：黒色シルト

Ⅳ　層：褐色粘質シルト

Ⅴ　層：明黄褐色粘質シルト（ローム質）

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

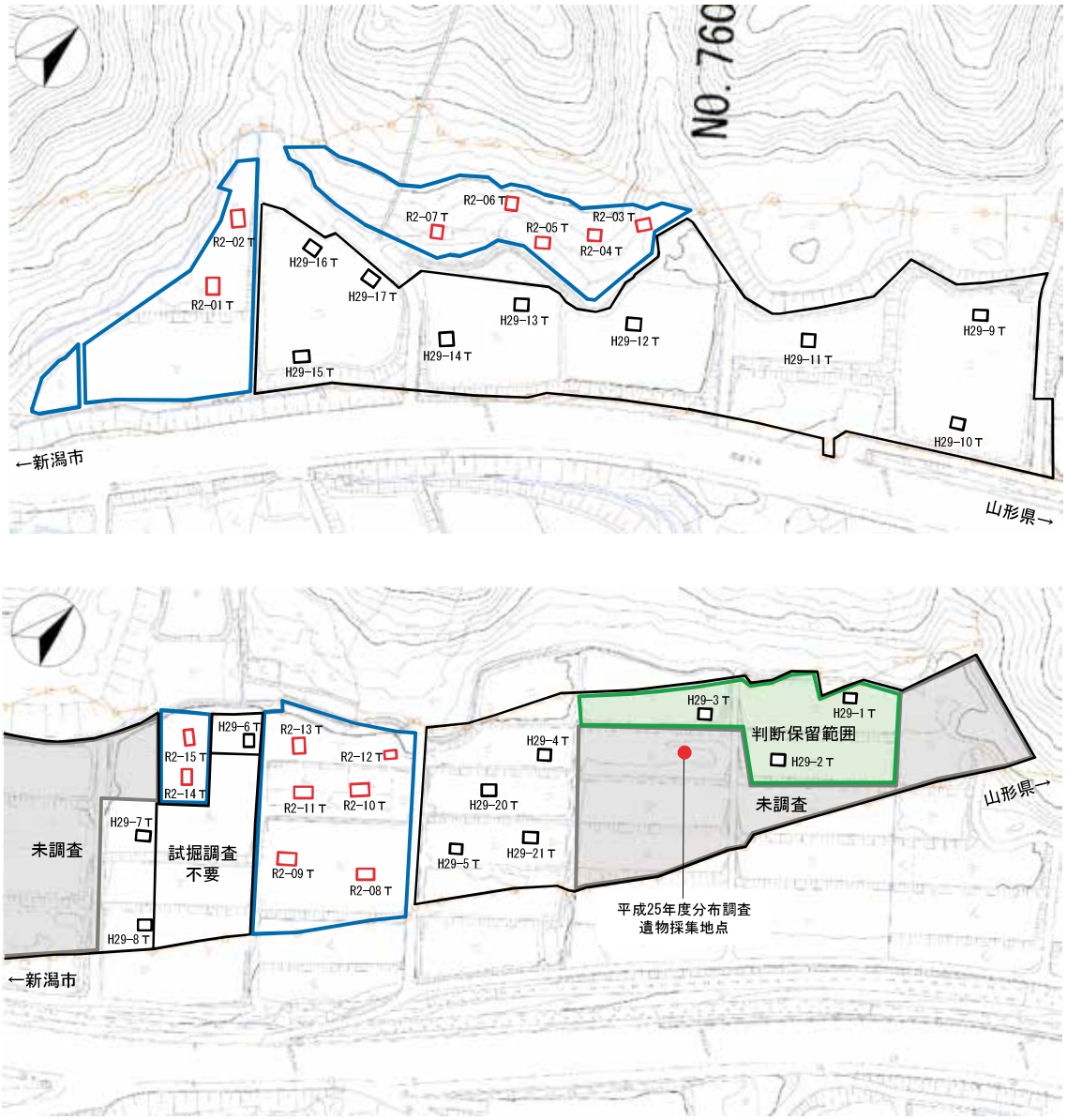
第４図　Ｒ２−２Ｔトレンチ断面（南西から）

（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

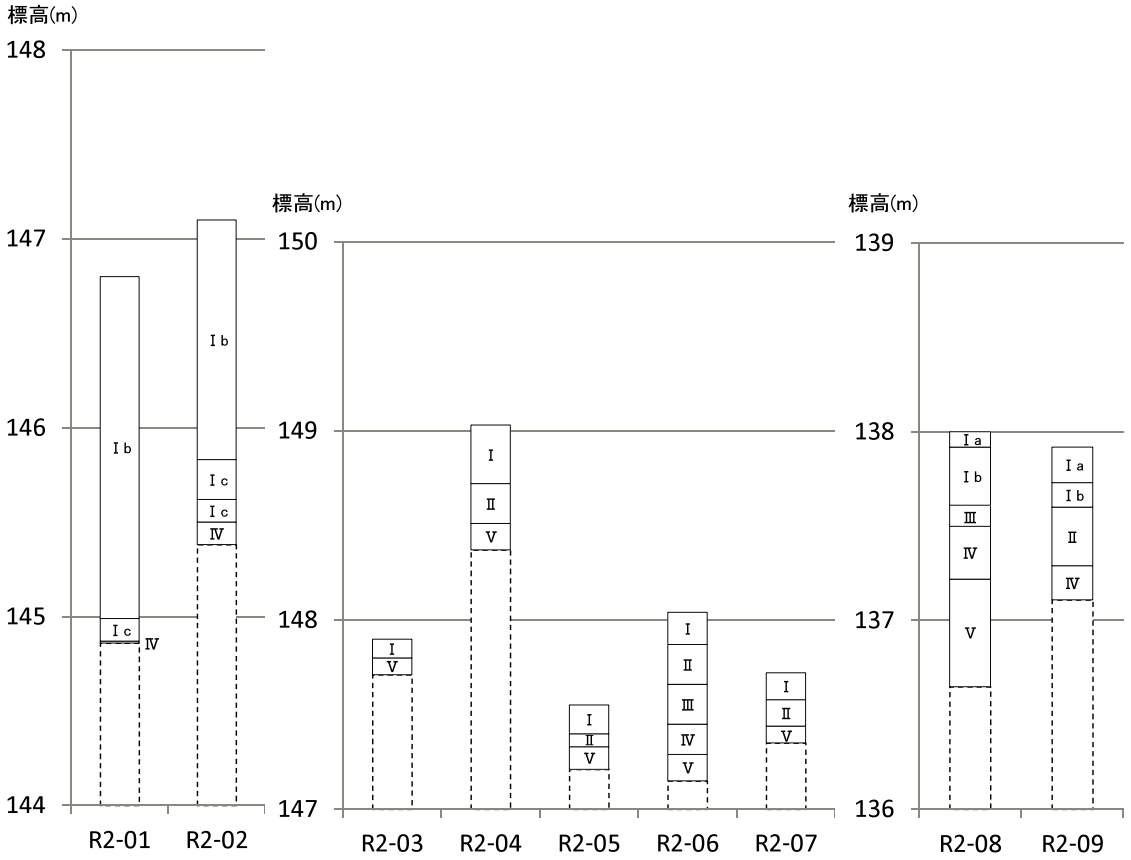
調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

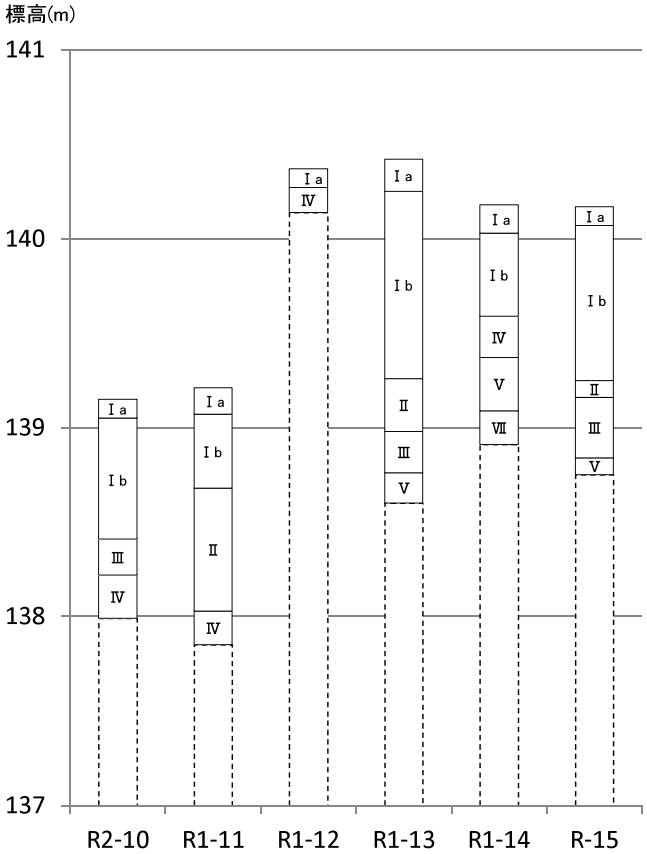


第２図　トレンチ位置図（１:2000）

第５図　Ｒ２−５Ｔトレンチ全景（南西から）

第６図　Ｒ２−13Ｔトレンチ全景（南西から）





第３図　土層柱状図（１:40）

11　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地９_①」（村上市大毎（おおごと）地区）試掘調査

（１）立　地

大毎川左岸の山地に立地する。標高は約 200～220ｍで、現況は山林である。周辺には北 600ｍに中世の大毎西遺跡、満願寺五輪塔群、東 600ｍに縄文時代の上ノ代遺跡が存在する。

（２）調査の概要

24 か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。伐採前に調査を行ったため、立木の合間を縫うようにトレンチを設定することとなった。

（３）層　序

Ⅰａ層：表土（腐植土）

Ⅰｂ層：造成土

Ⅰｃ層：旧表土

Ⅱ　層：灰黄褐色シルト

（近世以降の陶磁器を含む。）

Ⅲ　層：褐色灰色シルト

Ⅳ　層：にぶい黄褐色シルト

Ⅴ　層：黒褐色シルト

Ⅵａ層：黄橙色粘質シルト

Ⅵｂ層：灰白色粘質シルト

Ⅶ　層：灰白色シルト岩（基盤層）

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

（４）遺構・遺物

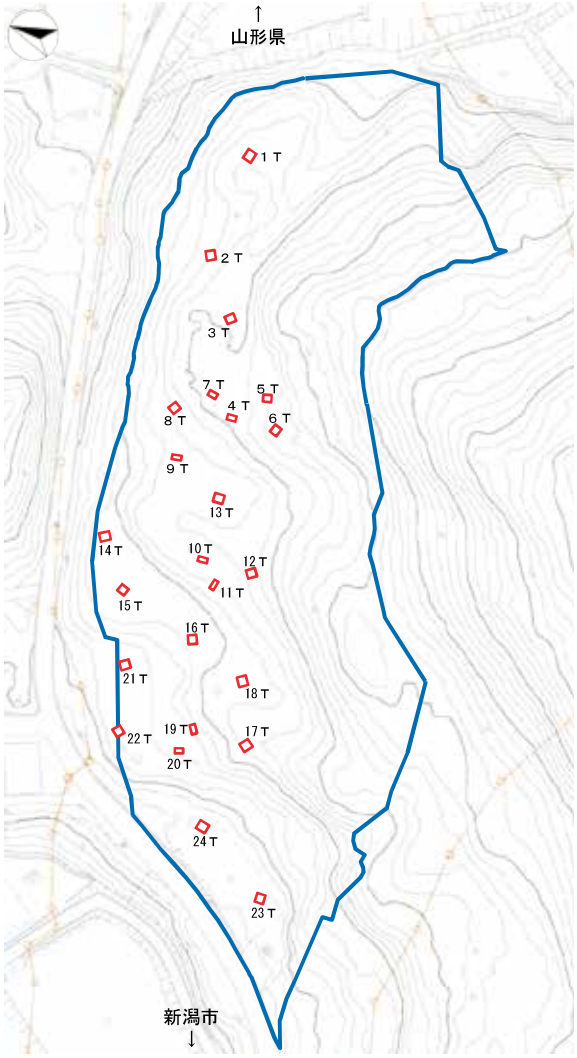
遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

第４図　調査対象地（３Ｔ付近）近景（東から）

第５図　２Ｔトレンチ断面（北西から）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

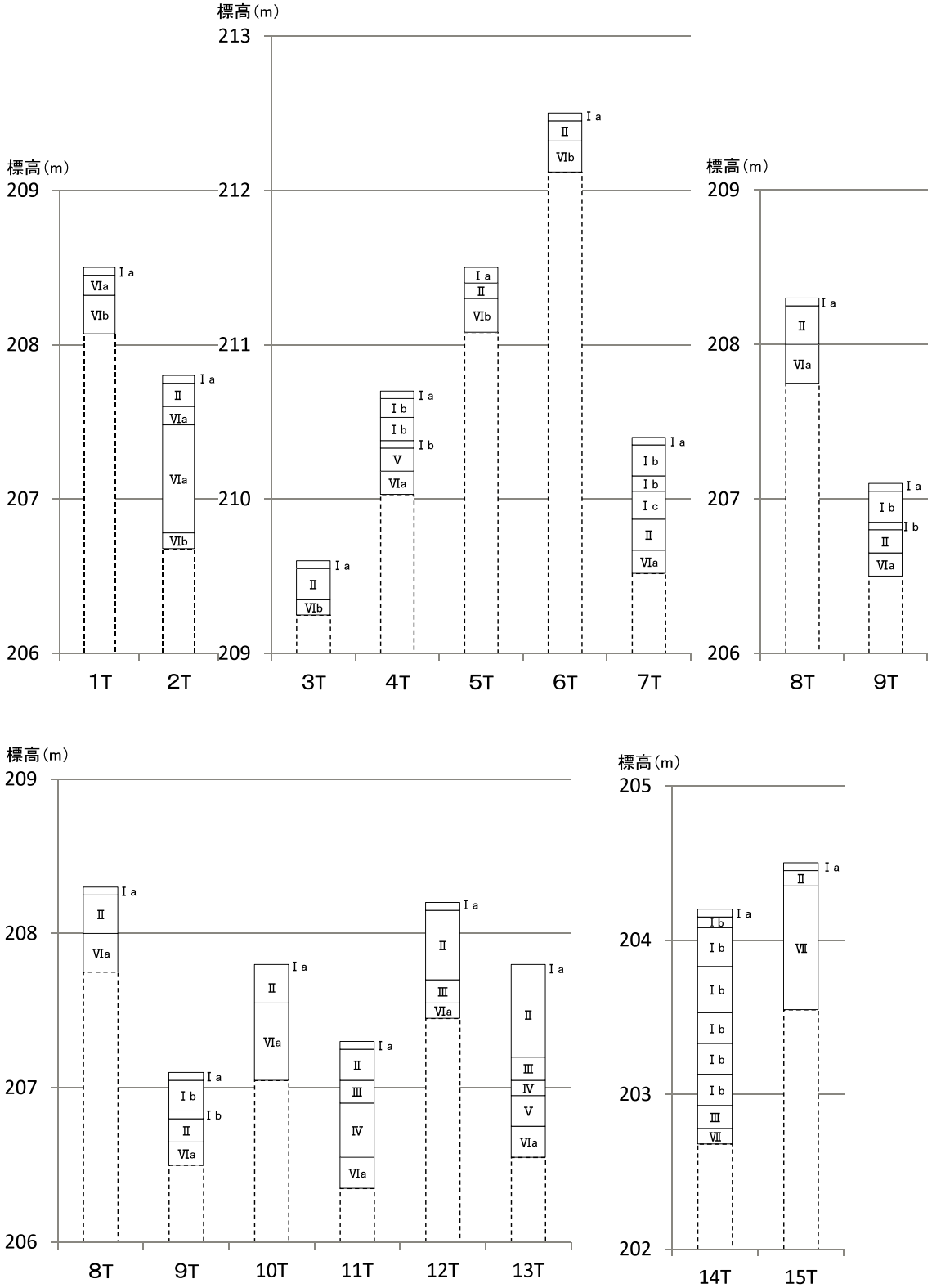
第６図　４Ｔトレンチ全景（東から）

第７図　10Ｔトレンチ全景（南から）

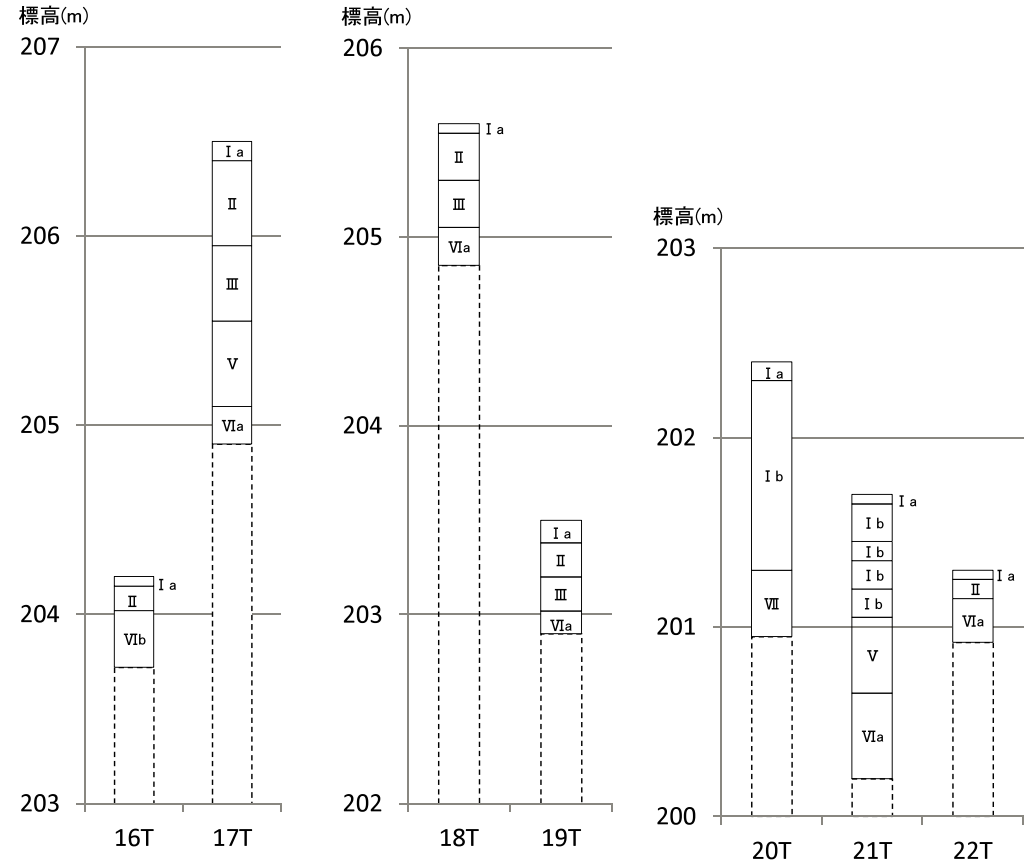
第８図　11Ｔトレンチ断面（東から）

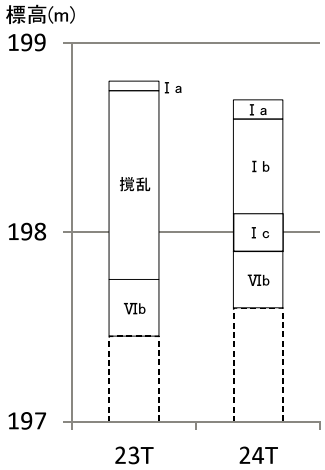
第９図　13Ｔトレンチ断面（西から）

第 10 図　18Ｔトレンチ断面（北西から）



第３－１図　土層柱状図（１:40）





第３－２図　土層柱状図（１:40）

第 11 図　21Ｔトレンチ断面（南東から）

第 12 図　24Ｔトレンチ断面（北から）

12　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地９_②」（村上市大毎（おおごと）地区）試掘調査

（１）立　地

大毎川左岸の山地に立地する。標高は約 165～166ｍで、現況は山林である。周辺には北東 400ｍに中世の大毎西遺跡、満願寺五輪塔群、南東 700ｍに縄文時代の上ノ代遺跡が存在する。

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

（２）調査の概要

２か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。伐採前に調査を行ったため、立木の合間を縫うようにトレンチを設定することとなった。

（３）層　序

Ⅰ　層：表土（腐植土）

Ⅱ　層：にぶい黄褐色シルト

Ⅲ　層：明黄褐色シルト

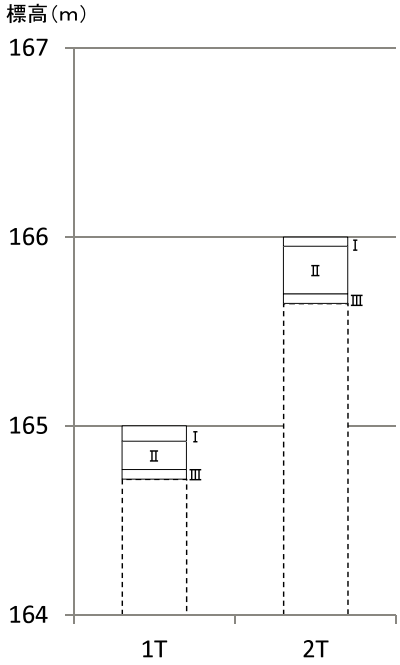
（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

第２図　トレンチ位置図（１:2000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　調査対象地近景（南西から）

第５図　１Ｔトレンチ全景（北西から）

第６図　２Ｔトレンチ全景（南西から）

13　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地３」（村上市早稲田（わせだ）地区）試掘調査

（１）立　地

高根川右岸の丘陵頂部（標高約 111～127m）に立地し、現況は山林である。一連の丘陵上には中世の山城（南西 600mに板屋越城跡、南西 1.6ｋｍに猿沢城跡）が存在する。

（２）調査の概要

21 か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。丘陵頂部の調査であるため、平坦部を中心に浅く長いトレンチを設定した。北側頂部の６Ｔ付近で縄文土器１点を採集したことから、その周辺は重点的に調査した。

（３）層　序

Ⅰ　層：表土

Ⅱ　層：にぶい褐色シルト

Ⅲ　層：橙色粘質シルト

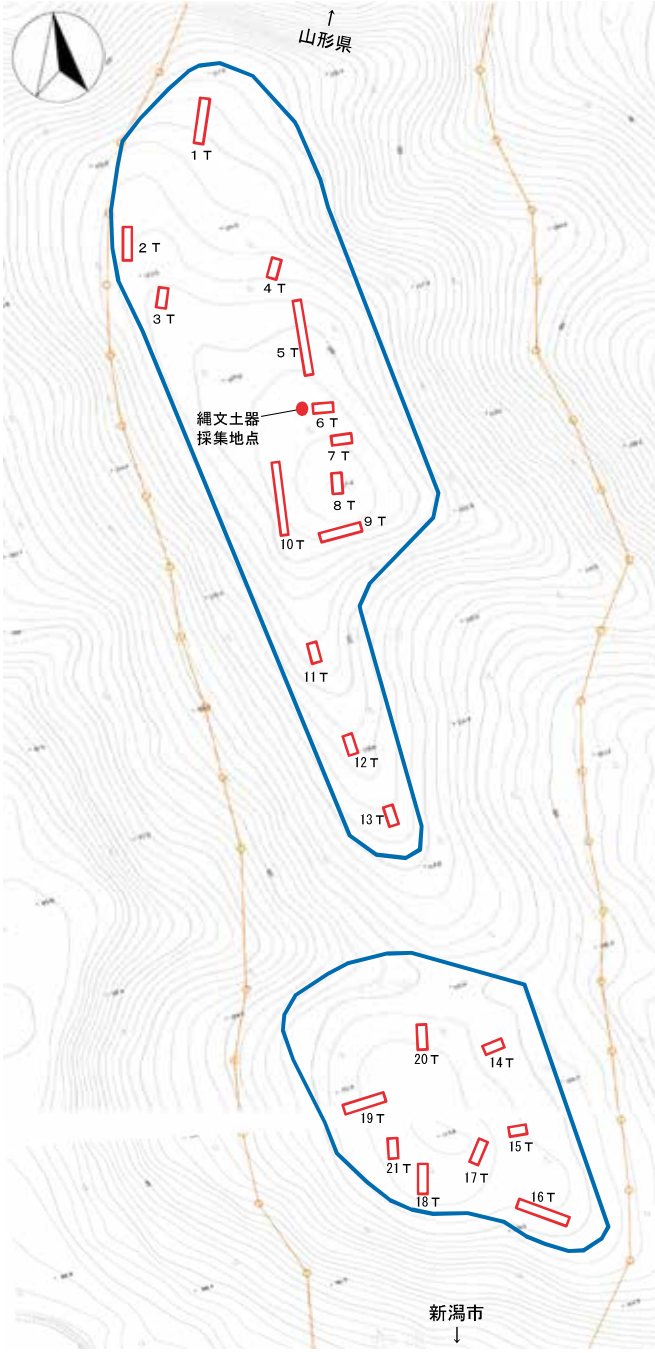
（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

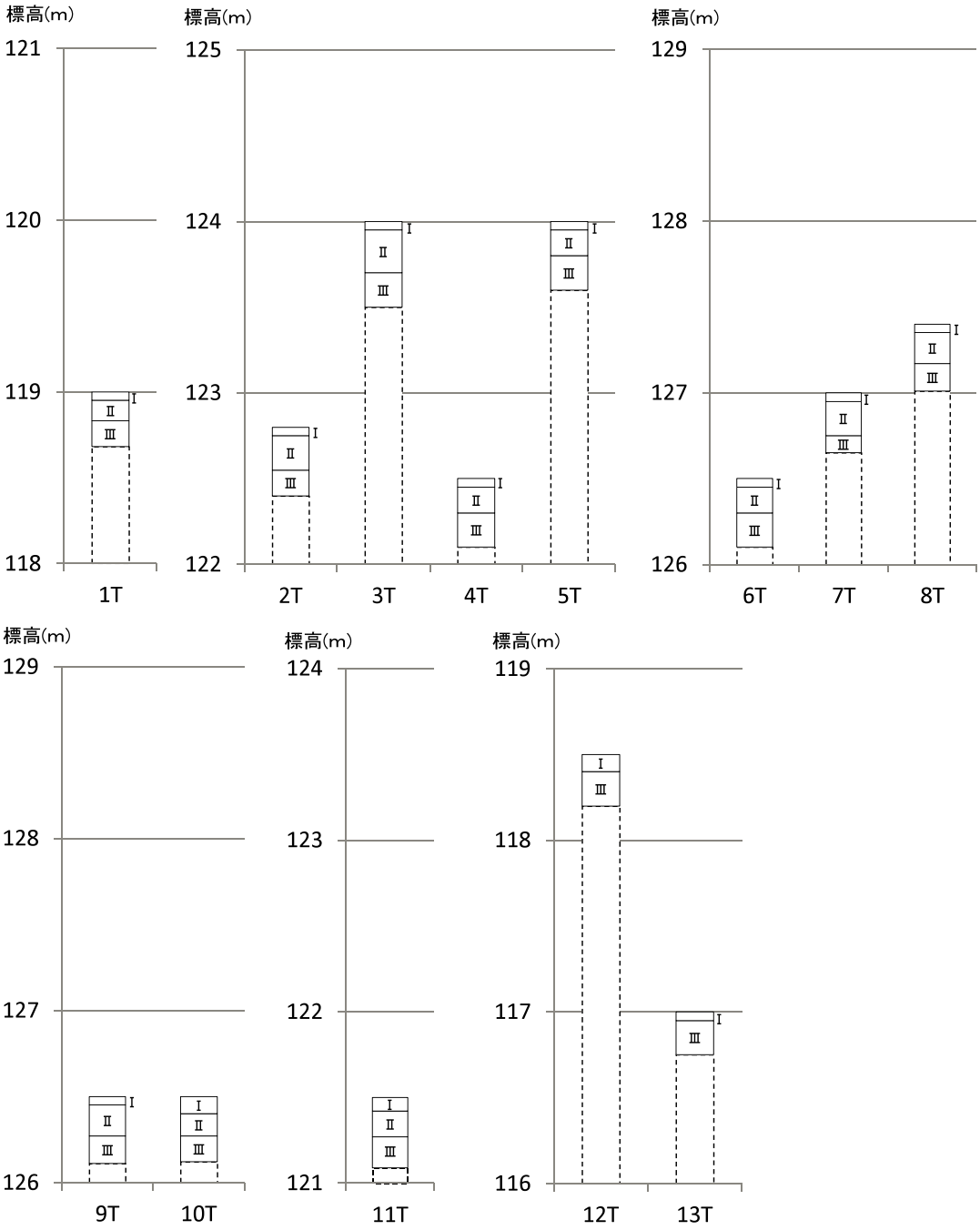
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

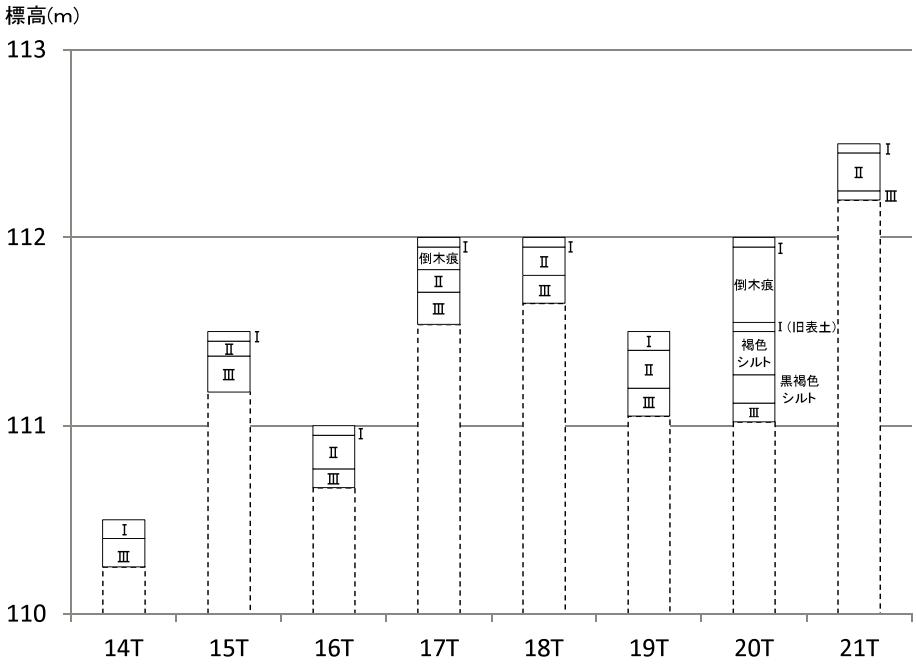
第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）


標高(m)
121
120
119
118
1T
標高(m)
125
124
123
122
2T
3T
4T
5T
標高(m)
129
128
127
126
6T
7T
8T
標高(m)
129
128
127
126
9T
10T
標高(m)
124
123
122
121
11T
標高(m)
119
118
117
116
12T
13T
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ

第３－１図　柱状図（１:40）



第３−２図　柱状図（１:40）

第４図　調査対象地近景（北側頂部　南から）

第５図　５Ｔトレンチ断面（南東から）

第６図　20Ｔトレンチ断面（北から）

第７図　６Ｔ付近採集遺物

14　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「上野（かみの）遺跡」（村上市檜原（ひばら）地区）確認調査

（１）立　地

高根川右岸の扇状地に立地する。標高は約 41ｍで、現況は荒蕪地である。周知の上野遺跡の隣接地に当たる。

（２）調査の概要

３か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地の堆積物は、扇状地を形成する土石流堆積物を基本とする。事業用地西側の山地を形成する岩船花崗岩類の再堆積物からなり、風化した花崗岩の砂礫で構成される。その間に、土壌化した層位（Ⅲa 層・Ⅲb 層・Ⅵa 層・Ⅵb 層）が確認され、遺跡は主にここに含まれる。なお、過去の試掘確認調査及び本発掘調査の基本層序との対応は困難であるため、層名は独自に付したが、遺物包含層の対応関係を示すことに留意した。

（３）層　序

Ⅰａ層：表土

Ⅰｂ層：造成土

Ⅰｃ層：旧表土

Ⅱ　層：明黄褐色砂礫

Ⅲａ層：黒色シルト

（縄文時代後期の遺物包含層）

Ⅲｂ層：黒褐色シルト

Ⅳａ層：明黄褐色砂礫

Ⅳｂ層：にぶい褐色細砂

Ⅴａ層：褐色砂礫

Ⅴｂ層：明黄褐色砂礫

Ⅴｃ層：にぶい褐色細砂

Ⅴｄ層：にぶい黄褐色砂礫

Ⅵａ層：黒色細砂（縄文時代前期の遺物包含層相当層か）

Ⅵｂ層：黒褐色細砂（縄文時代前期の遺物包含層相当層か）

Ⅶ　層：明黄褐色砂礫

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

（４）遺構・遺物

遺構は検出されなかった。２ＴのⅢb 層上面で柱穴状のプランを確認したため断ち割り調査を行ったが、明瞭な掘り込みを確認できず、遺構と判断しなかった。

遺物は、２ＴのⅢa 層から縄文時代後期の土器３点が出土した。本発掘調査範囲で確認されている縄文時代後期の遺物包含層に対応すると考えられる。今回の調査対象範囲に、遺物包含層の広がりを確認したが出土量は少なく、上野遺跡の縁辺に相当すると判断した。

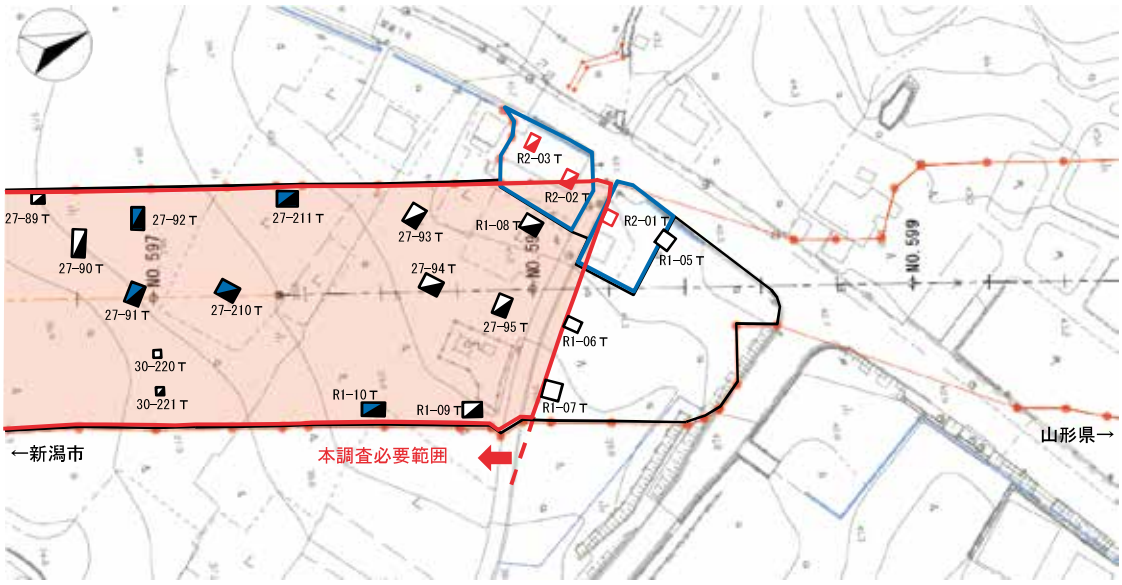
縄文時代前期の遺物包含層に相当すると考えられたⅥa 層・Ⅵb 層については、現地表下 2.5ｍほどで検出した。地下深部であることからトレンチ内で調査できないため、掘削土全量を地表面に取上げて遺物の有無を確認した。その結果、遺物は出土せず、本発掘調査で確認された縄文時代前期の遺跡の広が

りは認められなかった。

なお、３Ｔの砂礫層からも縄文土器が出土したが、土石流堆積物に含まれるものである。土器表面の摩滅が著しく、二次堆積物と判断した。

（５）調査の結果と取扱い

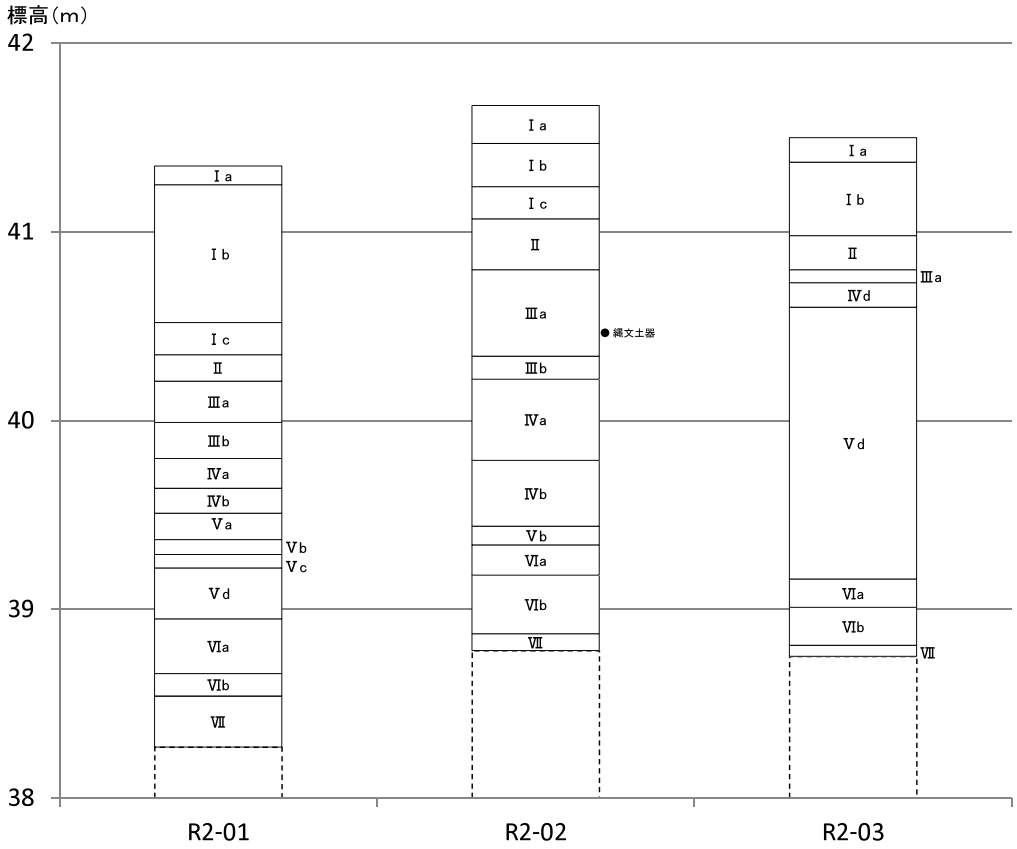
調査の結果、縄文時代後期の遺物が出土したものの少数で、遺構は確認されなかった。このことから、今回の調査対象地は上野遺跡の縁辺に当たり、北側及び西側に遺跡は広がらないと判断した。これまでの試掘確認調査結果及び現在行われている本発掘調査の状況を踏まえ、第２図に示した範囲を本発掘調査の対象とする。



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

第４図　Ｒ２−１Ｔトレンチ断面（北東から）

第５図　Ｒ２−２Ｔトレンチ断面（南西から）



第３図　土層柱状図（１:40）

第６図　Ｒ２−３Ｔトレンチ断面(北東から)

第７図　地下深部の調査
（土壌を地上に取り上げ、遺物の有無を確認した。）

第８図　Ｒ２−２Ｔ・３Ｔ出土遺物

15　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地１」（村上市猿沢（さるさわ）地区）試掘調査

（１）立　地

高根川右岸の谷底平野に立地する。標高は約 24.5ｍで、現況は荒蕪地である。周辺には北１km に縄文時代の上野遺跡が存在する。

（２）調査の概要

２か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地が谷底平野に面することから、洪水性堆積物が堆積物の中心である（Ⅱ・Ⅳ～Ⅶ層）。また、西側の山地から到達した風化花崗岩に由来する土石流堆積物が、山地側の１Ｔで認められた（Ⅲ層）。

（３）層　序

Ⅰ　層：表土

Ⅱ　層：灰白色細砂

Ⅲ　層：明黄褐色砂礫

Ⅳ　層：にぶい黄色細砂

Ⅴ　層：黒褐色砂質シルト

Ⅵ　層：明黄褐色砂質シルト

Ⅶ　層：明黄褐色細砂

Ⅷ　層：灰黄褐色細砂

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）

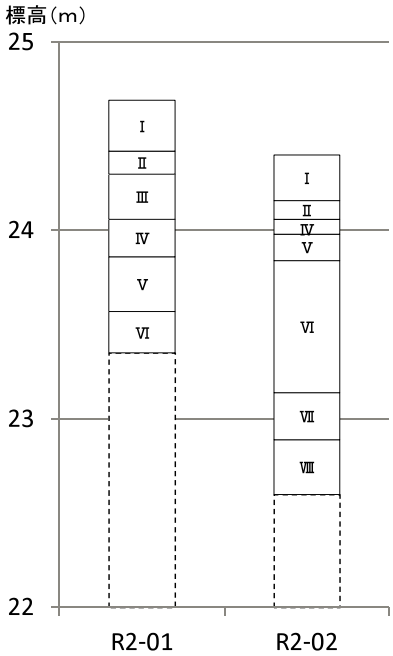
（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

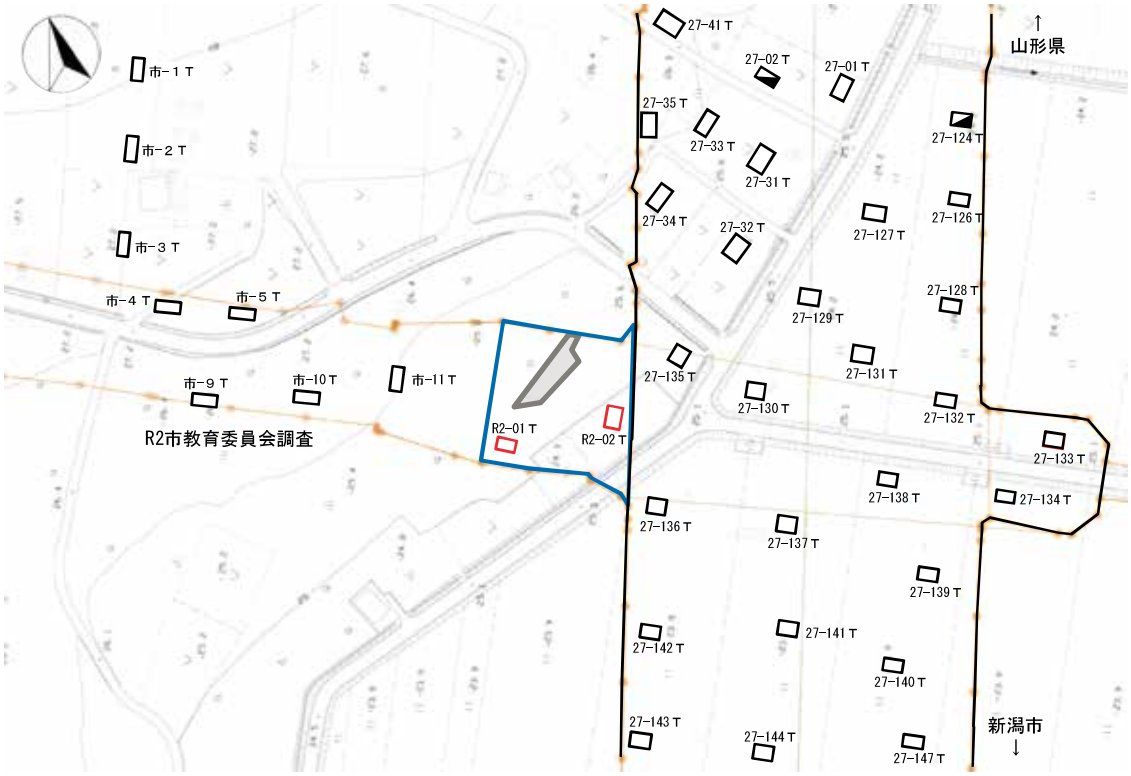
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。また、今回、調査できなかった未買収地については、周囲の調査結果を踏まえ、試掘調査不要と判断する。

第４図　調査対象地近景（東から）



第３図　土層柱状図（１:40）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）

第５図　Ｒ２−１Ｔトレンチ断面（北東から）

第６図　Ｒ２−２Ｔトレンチ断面（西から）

16　一般国道７号朝日温海道路事業関係

「推定地１」（村上市川端（かわばた）地区）試掘調査

（１）立　地

高根川右岸の谷底平野に立地する。標高は約 23ｍで、現況は荒蕪地である。周辺には、南西 200ｍに中世の上野太田遺跡が存在する。

（２）調査の概要

２か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。現在の川端集落の延長上に、自然堤防を構成するⅦ層を検出し、それを覆う洪水性の堆積物を確認した。

（３）層　序

０　層：造成土

Ⅰ　層：黄灰色砂質シルト（旧表土）

Ⅱ　層：灰黄色細砂

Ⅲ　層：黒褐色砂質シルト

Ⅳ　層：灰黄色砂質シルト

Ⅴ　層：灰黄色シルト～砂礫

Ⅵ　層：灰黄色細砂

Ⅶ　層：浅黄色砂礫（自然堤防）

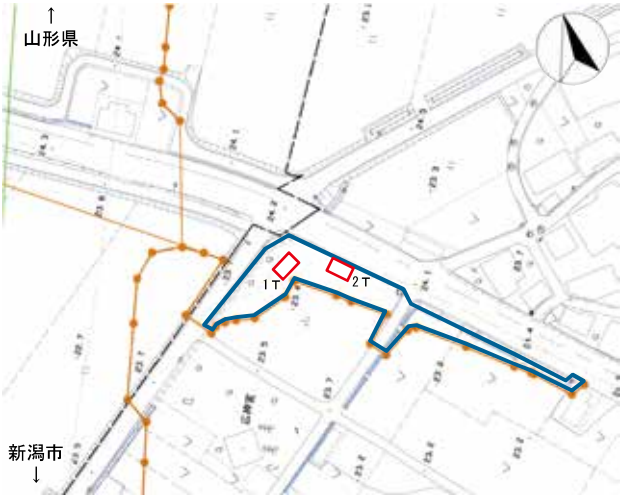
（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

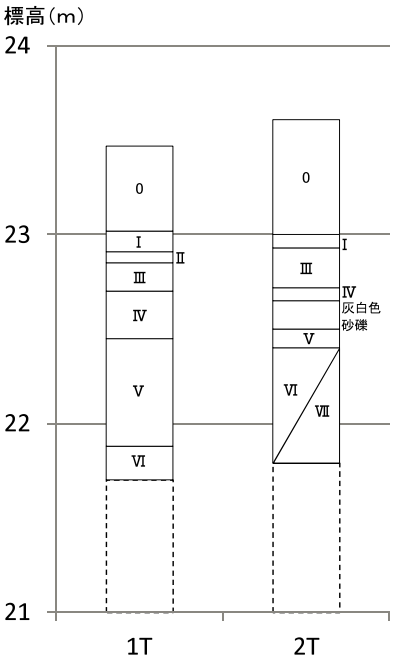
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

第１図　位置図（１:25,000）
（「村上市管内図」　１：50,000 原図）



第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

17　一般国道 49 号野村待避所事業関係

「野田原館跡（のだはらやかたあと）」（阿賀町野村（のむら）地区）確認調査

（1）立　地

阿賀野川の支流・音無川左岸の河岸段丘上に立地する。標高は約 93～98ｍで、現況は休耕田である。調査対象地は、周知の野田原館跡と重複する。

（2）調査の概要

21 か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地は、大幅な切土・盛土により平坦面が造成されており、段丘を形成する砂礫層（Ⅷ層）の上位に、泥炭質シルトと洪水性の堆積物が互層をなしていた。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成９年「御神楽岳」・
平成 11 年「野沢」　１：50,000 原図）

（3）層　序

Ⅰａ層：表土

Ⅰｂ層：造成土

Ⅰｃ層：旧表土

Ⅱ　層：灰白色礫混じり粗砂

Ⅲ　層：黒色シルト（しまり強い）

Ⅳ　層：灰黄褐色シルト

Ⅴ　層：褐灰色砂質シルト

Ⅵ　層：灰黄色砂質シルト

Ⅶ　層：灰褐色砂質シルト

Ⅷ　層：灰色～橙色砂礫（段丘礫層）

（4）遺構・遺物

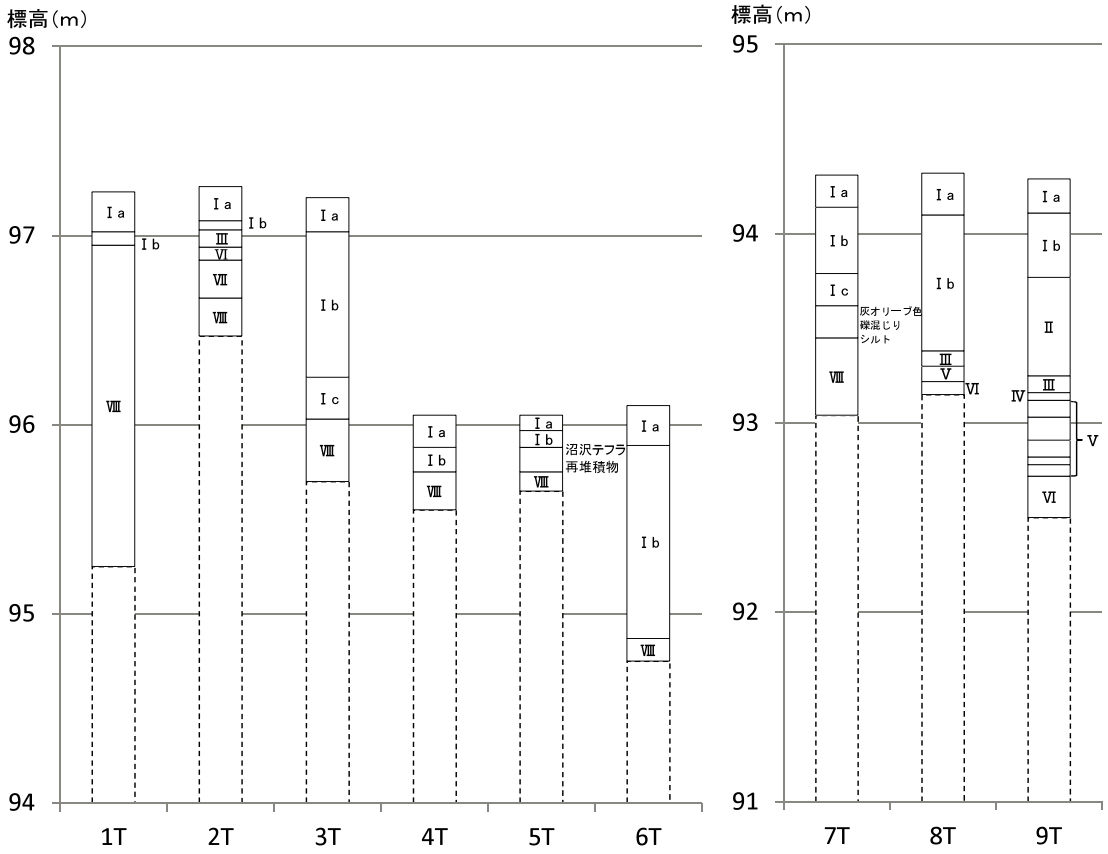
調査対象地は、天正年間に築かれたとされる野田原館跡に当たる。『新編会津風土記』の記載にある字名から範囲が推定されているが、昭和 40 年代の農業整備基盤事業で土地が大きく改変されており、詳細は明らかでない。

今回の調査では、旧地表が部分的に残存することを確認したものの、遺構・遺物は検出されなかった。また、もともとは起伏のある土地であったことが推定された。周辺には関連する遺構や地名があることから、館跡の存在がうかがわれるが、具体的な位置を特定することはできなかった。

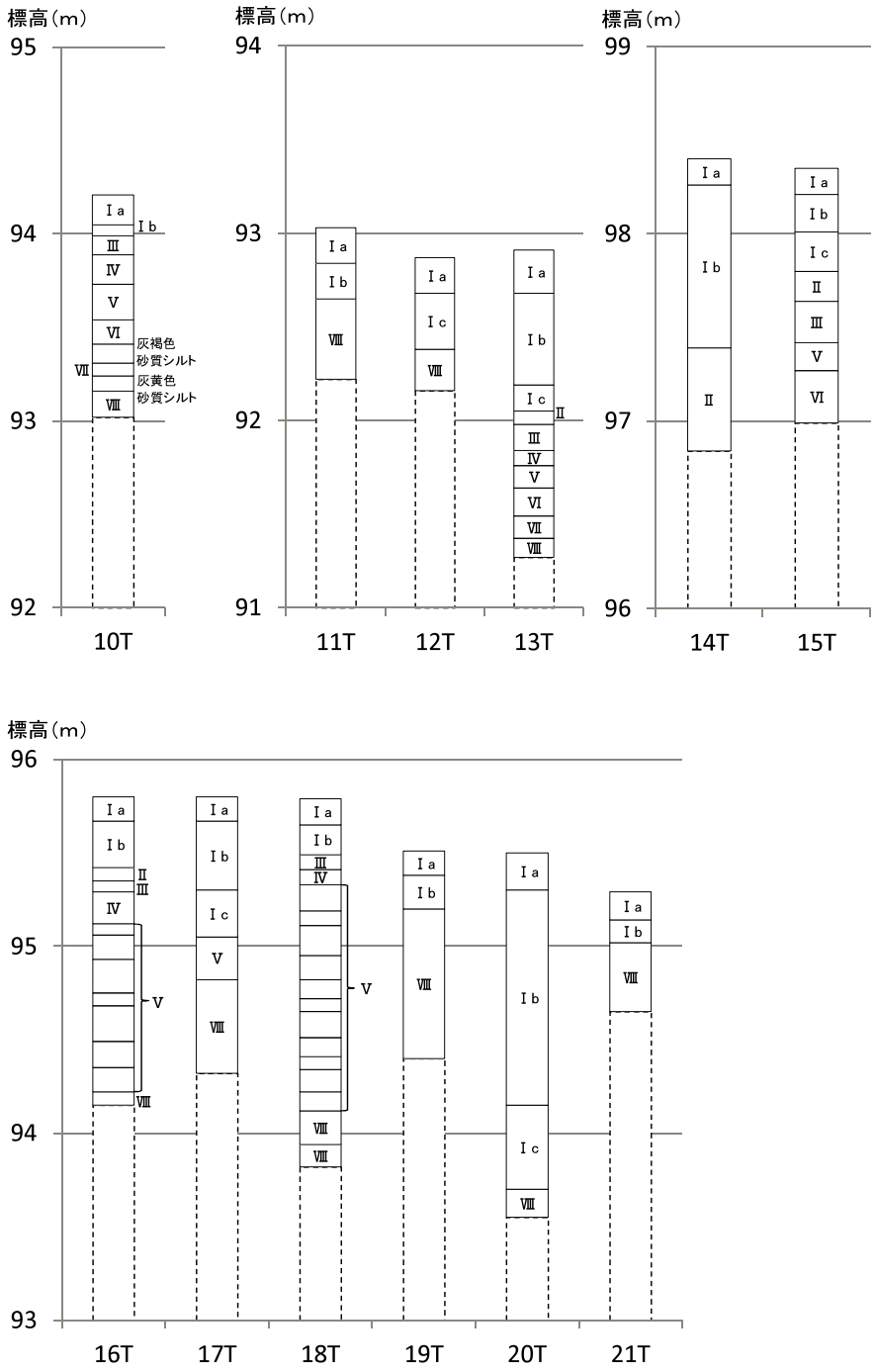
（5）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が確認されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

第２図　トレンチ位置図（１:2000）



第３－１図　土層柱状図（１:40）



第３－２図　土層柱状図（１:40）

第４図　調査対象地近景（南西から）

第５図　１Ｔトレンチ断面（西から）

第６図　９Ｔトレンチ断面（北西から）

第７図　13Ｔトレンチ断面（西から）

第８図　15Ｔトレンチ断面（東から）

第９図　16Ｔトレンチ断面（東から）

第 10 図　18Ｔトレンチ断面（東から）

第 11 図　20Ｔトレンチ断面（西から）

18　一般国道８号曽地チェーン着脱場事業関係

柏崎市曽地（そち）地区試掘調査

（１）立　地

別山川左岸の沖積地に立地する。標高は約７ｍで、現況は水田である。周辺には、南西 600ｍに弥生時代の下谷地遺跡（国指定史跡）、南東 300ｍに弥生時代から古代の行塚遺跡、北東 400ｍに古代・中世の五百刈遺跡が存在する。

（２）調査の概要

６か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地の土層は、洪水性堆積物を主体とし、泥炭質シルト（Ⅴ層）が介在することから、洪水の影響を受けやすい湿地のような環境にあったと考えられた。

（３）層　序

Ⅰａ層：表土

Ⅰｂ層：造成土

Ⅱ　層：灰黄色シルト（旧表土）

Ⅲａ層：明緑灰色砂質シルト

Ⅲｂ層：オリーブ灰色砂質シルト

Ⅳ　層：灰色シルト

Ⅴａ層：灰黄褐色泥炭質シルト

Ⅴｂ層：褐灰色泥炭質シルト

Ⅵ　層：灰黄色粘質シルト

Ⅶ　層：緑灰色細砂

Ⅷ　層：褐灰色粘質シルト

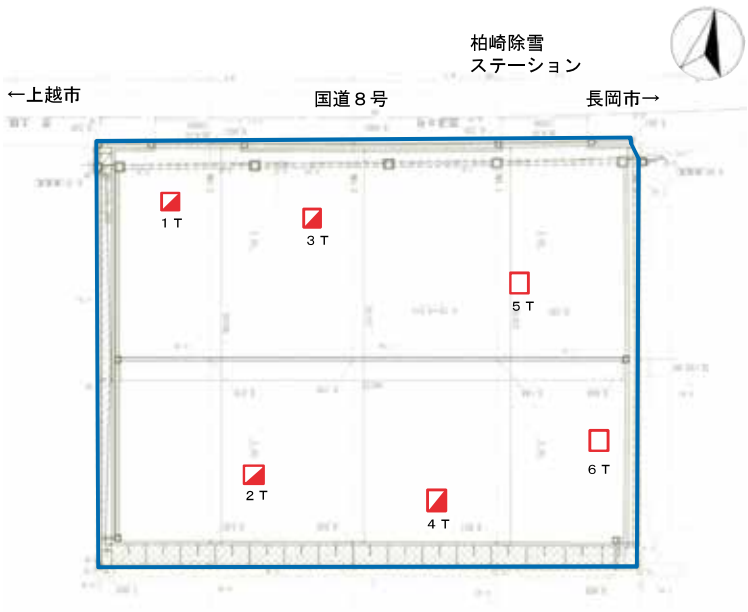
第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成７年「柏崎」　１：50,000 原図）

（４）遺構・遺物

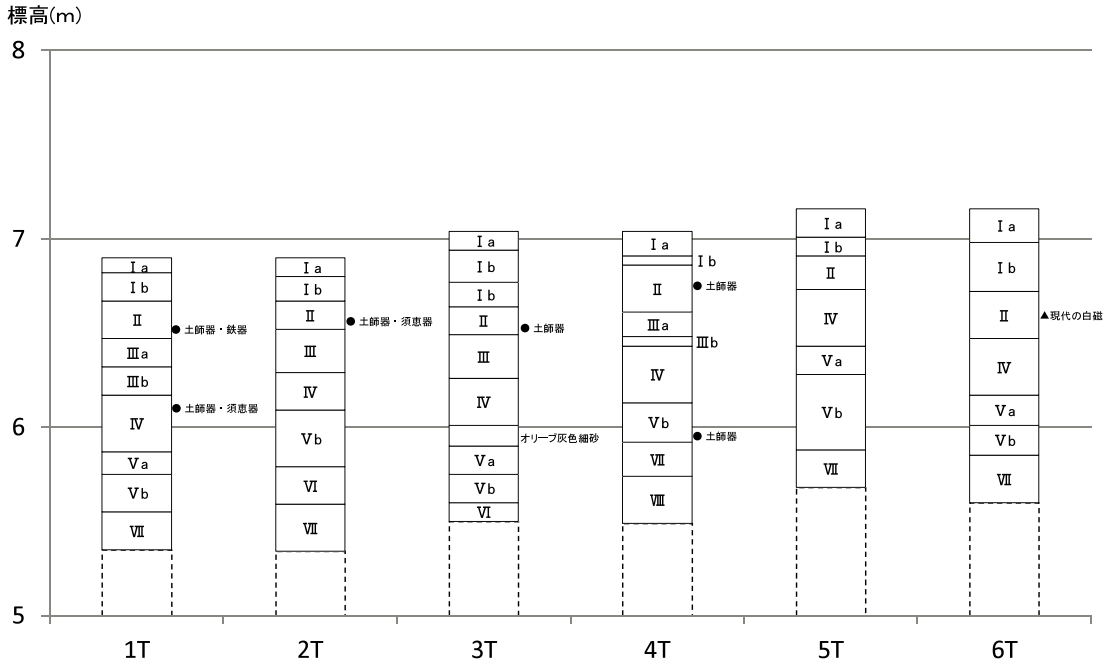
遺物は、Ⅱ層・Ⅳ層・Ⅴｂ層から出土した。いずれも古代の遺物であるが小片である。このうちⅡ層から最も多くの遺物が出土したが、６Ｔで現代の白磁の混入を確認しており、ほ場整備以前の表土に含まれるものと判断した。Ⅳ層・Ⅴｂ層は、古代の遺物包含層と考えられるが遺物の出土数量は極めて少なく、これに伴う遺構は検出されなかった。また、Ⅴｂ層の下位では土層の乱れが確認されたため、水田の存在を想定して調査したが、積極的に判断するための根拠を得ることができなかった。なお、遺物の出土点数は、西から南西側でより多く、その隣接地に遺跡が存在する可能性がある。

（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、古代の遺物が出土したが小片が少数含まれるのみであり、遺構は検出されなかった。このことから、今回の調査対象範囲については、本発掘調査不要と判断する。



第２図　トレンチ位置図（１:1000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　調査対象地近景（北東から）

第５図　１Ｔトレンチ断面（南から）

第６図　２Ｔトレンチ断面（西から）

第７図　３Ｔトレンチ断面（東から）

第８図　４Ｔトレンチ断面（北から）

第９図　５Ｔトレンチ断面（東から）

第 10 図　６Ｔトレンチ断面（西から）

第 11 図　６ＴⅡ層から出土した現代の白磁（西から）

第 12 図　出土遺物（１Ｔ・２Ｔ・３Ｔ）

第 13 図　出土遺物（４Ｔ）

19　一般国道 17 号川口待避所事業関係

長岡市川口（かわぐち）地区試掘調査

（１）立　地

魚野川右岸の台地上に立地する。標高は約 80.5～82ｍで、現況は水田・荒蕪地である。周辺には、中山平山遺跡・川口中山Ⅱ遺跡・ササラ遺跡など、縄文時代の遺跡が存在する。

（２）調査の概要

８か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地の西側を魚野川が北流し、東側には丘陵地が広がる。周辺の地形は、この傾斜に沿うように勾配が認められ、田面の標高は、東側から南側がより高い。特に、３・５・６・７Ｔ周辺では大規模な削平が観察され、かつては小高い地形が存在したことがうかがわれる。

（３）層　序

Ⅰ層は、表土と造成土である。Ⅱ層は、植物遺体を多く含む泥炭質シルトである。中世の遺物が出土したが、近世以降の白磁も含まれることから、近世以降の堆積物と判断した。Ⅲ層は、縄文時代晩期後半の遺物包含層である。上下に細分でき、いずれにも多数の遺物を含む。遺物包含層下位のⅣ～Ⅵ層はシルトと砂の互層であり、Ⅶ層は基盤となる段丘礫層である。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成６年「小千谷」　１：50,000 原図）

Ⅰａ層：表土

Ⅰｂ層：造成土

Ⅰｃ層：造成土（客土）

Ⅱａ層：黒褐色泥炭質シルト（植物遺体多い。）

Ⅱｂ層：暗褐色泥炭質シルト（偽礫混じり。近世以降の遺物を含む。）

Ⅱｃ層：黒褐色泥炭質シルト（植物遺体多い。近世以降の遺物を含む。）

Ⅲａ層：褐灰色細砂（縄文時代晩期後半の遺物包含層）

Ⅲｂ層：褐灰色砂質シルト（縄文時代晩期後半の遺物包含層）

Ⅳ　層：黄灰色泥炭質シルト（粗砂混じり。縄文土器１点出土。）

Ⅴ　層：灰色細砂

Ⅵａ層：明緑灰色砂質シルト（地山と捉えた。しまり強い。）

Ⅵｂ層：浅黄色シルト

Ⅵｃ層：浅黄色砂質シルト

Ⅶ　層：にぶい黄橙色砂礫（段丘礫層）

（４）遺構・遺物

遺物は、縄文時代の土器 96 点・石器 11 点、中世の銭貨１点が出土した。

１Ｔ・８ＴのⅢa 層・Ⅲb 層から、多数の遺物が出土した。また、Ⅳ層上部から土器１点が出土したが、

Ⅲb 層に由来する可能性がある。出土遺物は、縄文時代晩期後半の土器・石器である。土器は、粗製土器の胴部破片がほとんどであり、精製土器は見られない。石器は、鉄石英（黄玉石）の石核・剥片が特徴的に見られるほか、チャート製の石錐もある。地下深部にあるため、トレンチ内での作業が限定されたことから遺構を検出できなかったが、遺物の数量を鑑みれば、遺構を伴うと考えられる。また、木片などの自然遺物が含まれることから、木製品等の有機質遺物の存在が想定される。

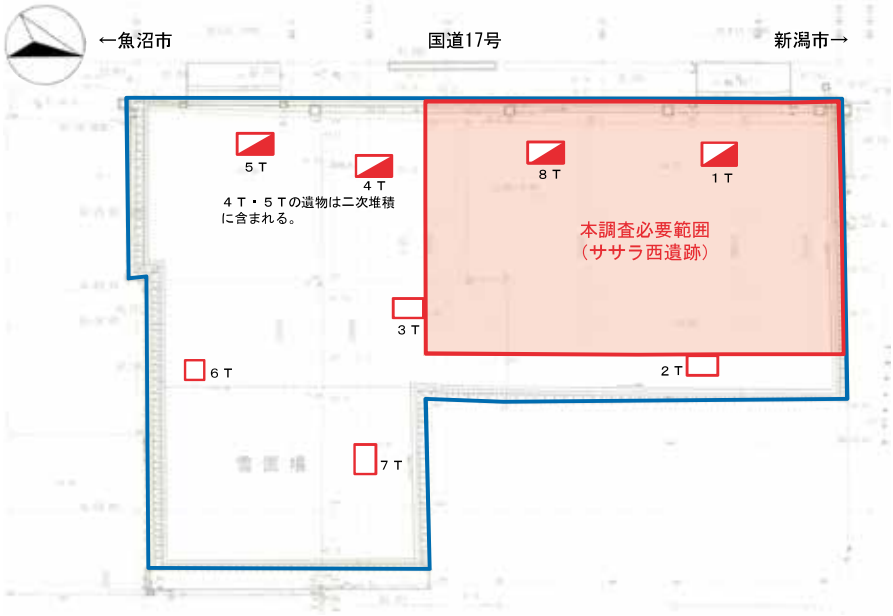
縄文時代の遺物を含むⅢa 層・Ⅲb 層は、１Ｔ・８Ｔ以外では確認されず、周辺に広がりを認められない。１Ｔ・８Ｔ付近は、北側に向かって傾斜する谷地形に相当すると見られ、この部分にⅢa 層・Ⅲb 層が存在する。一方、もともとの小高い地形に当たる３・５・６・７Ｔでは、Ⅵa 層上面で明瞭な削平面が確認され、調査対象地の東側から南側では、Ⅲa 層・Ⅲb 層が失われていると判断した。

４ＴではⅡb 層から縄文時代の石器と中世の銭貨（渡来銭／元豊通寶か）、５ＴではⅡc 層から縄文時代の石器と近世以降の白磁が出土した。縄文時代の石器は、中世及び近世以降の遺物と同一層位から出土しており、二次堆積中に含まれると判断した。

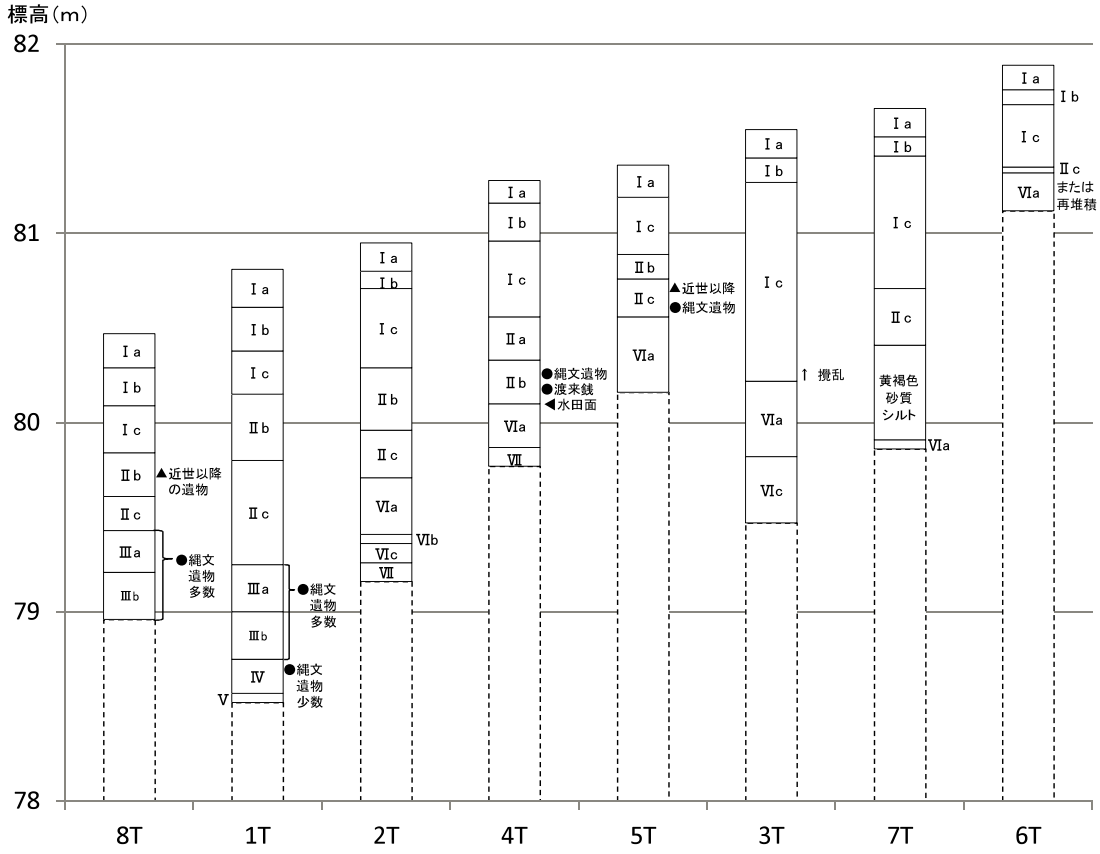
４ＴのⅡb 層とⅥa 層の境では、上下の層位が撹拌されていることを確認した。Ⅱb 層で渡来銭が出土したことから、中世の水田遺構を想定して調査したが、畦畔や水路等を検出できなかった。一方、５ＴではⅡc 層とⅥa 層の境が不整合となっており、Ⅱ層堆積前に大規模な造成（削平）が行われたことがわかった。本来、存在したであろうⅢa 層・Ⅲb 層は、この造成時に失われたと考えられる。また、５ＴのⅡc 層、８ＴのⅡb 層からは、近世以降の白磁が出土した。これらの状況から、Ⅱ層は近世以降の堆積層であり、４Ｔで確認された水田の可能性がある層位の撹拌は、近世以降に形成されたものと判断した。

（５）調査の結果と取扱い

１Ｔ・８Ｔ周辺に広がる谷地形の中で縄文時代晩期後半の新遺跡を発見した。２Ｔの西側から３Ｔの北側にかけての範囲を「ササラ西遺跡」とし、1,900 ㎡について本発掘調査必要範囲と判断した。遺跡の東側から西側に遺跡の広がりを確認できなかったが、かつてそこに存在したと想定される小高い地形上に遺跡の中心が存在した可能性がある。



第２図　トレンチ位置図（１:2000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第４図　調査対象地近景（西から）

第５図　１Ｔトレンチ断面（東から）

第６図　１ＴⅢａ層遺物出土状況（東から）

第７図　４Ｔトレンチ断面（東から）

第８図　４Ｔトレンチ断面（東から）

第９図　５Ｔレンチ断面（東から）

第 10 図　５Ｔトレンチ断面（東から）

第 11 図　８Ｔトレンチ断面（東から）

第 12 図　１Ｔ出土遺物（Ⅲa 層・Ⅲb 層）

第 13 図　１Ｔ・４Ｔ・５Ｔ出土遺物

第 14 図　８Ｔ出土遺物（Ⅱc 層・Ⅲa 層・Ⅲb 層）

第 15 図　８Ｔ出土遺物（Ⅲa 層・Ⅲb 層）

20　一般国道 253 号八箇峠道路事業関係

南魚沼市余川（よかわ）地区試掘調査

（１）立　地

魚沼丘陵に源を発する庄之又川によって形成された扇状地の扇端部に立地する。標高は約 181～192ｍで、現況は水田である。金屋遺跡と六日町藤塚遺跡に挟まれた区間で、周辺には蟻子山古墳群、飯綱山古墳群、余川中道遺跡、坂之上遺跡など古墳時代から古代の遺跡が多く存在する。

（２）調査の概要

33 か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。今回の調査対象地は、南北の延長が 500ｍにも及ぶ広範囲である。扇状地に立地することから土層の堆積は複雑で、北側と南側で対応しない。そこで国道 253 号を境に、北側（１～15Ｔ）と南側（16Ｔ～33Ｔ）を分けて記載した。また、北側については、本発掘調査を行っている金屋遺跡と共通することから、層名を対応させることとした。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 10 年「十日町」　１：50,000 原図）

（３）層　序

各層の内容は、次のとおりである。なお、特に遺跡の存在がうかがわれた土壌化した層位には「（B）」と表記した。

【 北側 】金屋遺跡隣接地・六日町インター入口付近（１～15Ｔ）

Ⅰａ層　：表土
Ⅰｂ層　：造成土
Ⅲ　層　：明黄褐色砂礫
Ⅴａ層　：浅黄色シルト
Ⅴｂ層　：にぶい黄褐色砂礫
Ⅴｃ層　：にぶい黄褐色細砂
Ⅵａ１層：暗灰黄色砂質シルト（ブロック混じり）
Ⅵａ２層：褐灰色砂質シルト(B)
Ⅵａ３層：暗灰黄色砂質シルト
Ⅵａ４層：黒褐色砂質シルト(B)（遺物包含層）
Ⅵａ５層：暗黄灰色砂質シルト
Ⅵｂ１層：灰黄褐色シルト(B)（遺物包含層）
Ⅵｂ２層：暗灰黄色砂質シルト(B)

この範囲から遺物が出土したが、主な遺物包含層はⅥa4 とⅥb1 層と見られる。

Ⅶａ層　：明黄褐色砂質シルト
Ⅶｂ層　：暗灰黄色砂質シルト（Ⅶａ層より明るい色調）
Ⅶｃ層　：明黄褐色シルト
Ⅶｄ層　：明黄褐色砂質シルト

Ⅶｅ層　：明黄褐色細砂

Ⅷ　層　：黄褐色砂礫

Ⅸ　層　：黄褐色砂質シルト

Ⅹ　層　：にぶい黄褐色砂質シルト(B)

Ⅺａ層　：にぶい黄褐色砂質シルト

Ⅺｂ層　：にぶい黄褐色シルト

【 南側 】藤塚遺跡隣接地（16～33Ｔ）

Ⅰａ層：表土

Ⅰｂ層：造成土

Ⅱ　層：にぶい黄褐色砂質シルト(B)（遺物わずかに含む）

Ⅲ　層：暗褐色シルト(B)（上層遺物包含層）

Ⅳ　層：明黄褐色砂質シルト

Ⅴ　層：褐灰色砂質シルト(B)

Ⅵ　層：にぶい黄橙色砂質シルト

Ⅶａ層：にぶい黄褐色砂質シルト(B)

Ⅶｂ層：褐灰色砂質シルト(B)（下層遺物包含層）

Ⅷ　層：黄褐色砂礫（土石流堆積物）

Ⅸ　層：黄灰色砂礫（河川堆積物）

（４）遺構・遺物

調査対象範囲は、３か所（金屋遺跡隣接地・六日町 IC 入口付近・六日町藤塚遺跡隣接地）に区分されている。それぞれで状況が異なることから、個別に記載することとする。

【金屋遺跡隣接地】（１～６Ｔ）

１Ｔでは、遺物包含層（Ⅵa 層・Ⅵｂ層）を良好な状態で検出した。Ⅵa 層は、間層（Ⅵa3 層）を挟んで上下に細分できるが掘削時に分けることはできず、遺物は一括して取り上げた。特に下位のⅥa4 層から、より多くの遺物が出土しており、上位ほど遺物量は少なかった。Ⅵb 層からは、多数の遺物が出土した。須恵器（横瓶）など大破片が多く、この層位が遺跡の一次堆積と考えられる。遺物の年代は、いずれも９世紀である。

２Ｔでは、Ⅵa4 層・Ⅵb1 層から多数の遺物が出土した。１Ｔと同様にⅥb1 層でより多くの遺物が出土しており、この層位が遺跡の一次堆積と考えられる。遺物の年代は、いずれも９世紀である。Ⅶ層上面では、ピット（柱穴）とＬ字状の溝を検出した。溝は竪穴建物の壁溝である可能性がある。断面観察では、遺構の掘り込み面をⅥb2 層上面と判断できるが、Ⅶ層上面まで掘削しないとプランを明瞭に確認できない。遺構埋土はⅥb1 層に由来すると考えられ、遺物包含層に対応する古代の遺構と判断した。Ⅵb2 層に対応するレベルから少数の遺物が出土したが、遺構埋土に含むものである可能性が高い。なお、トレンチ東側の表土直下で溝状のプランを検出したが、斜面地に堆積するⅥa 層の端部であることを確認した。

３Ｔより南側では状況が一変する。３ＴではⅥa4 層を確認したが、遺物は出土しなかった。それより下位のⅦc 層から須恵器の大破片が出土したが、これ以外の出土遺物はない。その下位のⅧ層からも遺物が出土したが、土石流堆積物に含まれ、二次堆積物と判断した。なお、より標高の低い４～５Ｔでは、遺物包含層に相当する層位（Ⅵa 層・Ⅵｂ層）そのものを確認できなかった。

１・２Ｔにおける土層の堆積状況・出土遺物の内容は、本発掘調査を実施している金屋遺跡と共通する。このことから、金屋遺跡は今回の調査対象地まで広がるものと考えられる。一方、標高が一段低くなる５Ｔより南側には遺跡の広がりを確認することができなかったことから、金屋遺跡の広がりは５Ｔより北側と判断した。

なお、調査対象地東側の区画については、入口付近の水路が脆弱であるため、重機が進入できず調査できなかった。調査トレンチの状況・周辺地形の観察から、遺跡の広がりが想定されるが、詳細は不明である。

【六日町ＩＣ入口付近】（７～15Ｔ）

六日町ＩＣ入口付近では、10Ｔ・14ＴのⅥa4 層から古代（９世紀）の遺物が出土した。大破片も含まれることから遺跡の存在がうかがえる状況にあり、特に 10Ｔでより多くの遺物が出土した。また、遺跡の広がりを把握するため、14Ｔでは南北に長いトレンチ（長さ 10.4m）を設定したが、遺物の出土は北側 4m ほどの範囲に限られ少数であった。これらの状況から、遺物包含層は 10Ｔの北側により濃密に広がるものと推察された。一方、７～10・13～15Ｔでは、Ⅵa4 層から遺物は出土しておらず、13・15Ｔにおける出土遺物は現代の造成土中に含まれる二次堆積物である。このことから遺物包含層の広がりは、調査対象地の西側には広がらないと判断した。

14Ｔではピット１基を検出した。遺物包含層（Ⅵa4 層）下位のⅦa 層上面で検出したことから、周辺にトレンチを密に設定して遺構の把握に努めたが、これ以外は検出できなかった。ピットは、半截調査して埋土を確認したが、直径５㎜ほどの細礫を特徴的に含んでいた。細礫は、遺物包含層より上位のⅥa3 層に含まれるが、遺物包含層（Ⅵa4 層）及び遺構検出面（Ⅶa 層）にはほとんど含まない。このことから、遺構の本来の掘り込み面はⅥa3 層より上位に当たる可能性があり、ピットは古代の遺物包含層に伴わないことも想定できる。なお、ピットは図面・写真記録を残して完掘した。

以上の結果から、12Ｔより東側に新たな遺跡の存在がうかがえたが、遺跡の広がりや内容を十分に把握できなかった。この範囲を判断保留とし、追加調査及び北側隣接地の試掘調査結果を踏まえて、取扱いを決定することとする。

【六日町藤塚遺跡隣接地】（16～33Ｔ）

この対象地は、周知の六日町藤塚遺跡の隣接地に当たり、多くのトレンチで遺構・遺物が検出された。

遺物包含層（Ⅲ層）は、ほ場整備で大部分が削平されており、17・19・20・22・24Ｔで確認され、厚さはおおむね 10 ㎝以下である。ここからは古代（９世紀）の遺物が出土しており、ほかの時代の混在は見られなかった。なお、遺物包含層が確認された範囲の北端 17Ｔでは、遺物をわずかに含むⅡ層で被覆されていたため地層の残りは良好であったが、遺物の出土数量は少なかった。また、北西側ではⅢ層が認められるものの、出土遺物の数量は少なかった。調査対象地の南側ほど、遺物を多く包含するものと考えられる。

遺構は、いずれもⅣ層上面で確認された。17Ｔでは溝２条、24・25・26・27Ｔではピット・土坑、28Ｔでは竪穴建物を検出した。特に 26Ｔにおいては遺構密度が高く、重複関係が複雑である。28Ｔで検出した竪穴建物は方形プラント見られ、南西隅で認められた焼土の集中範囲はカマドの可能性がある。遺構の密度や出土遺物の数量を勘案すると、調査対象地の東側に遺跡の中心が存在することが想定される。

また、六日町藤塚遺跡の本発掘調査では、古代の遺構面の下位に、古墳時代中期・後期の遺構面が確認されていることから、27Ｔで部分的に下層の確認調査を行った。その結果、下位に古墳時代後期の遺物包含層・Ⅶb 層を検出した。また、Ⅳ層下位かつⅦb 層を切る遺構が断面で観察された。Ⅳ層上面で検出した

古代の遺構面を上層、Ⅳ層下位かつⅦb 層を切るように検出された古代の遺構面を中層、古墳時代後期の遺物包含層であるⅦb 層を下層とする。ただし、上層の遺構が濃密であったため、中層・下層の状況を十分に把握できていない。

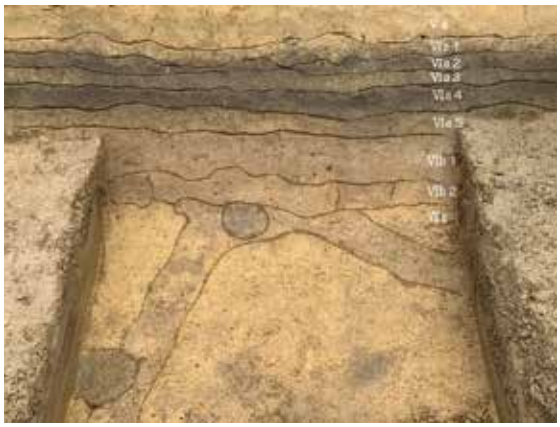
18Ｔより北側では、遺構・遺物は検出されなかった。18Ｔでは、表土直下で縦横に切り合う溝を検出したが、埋土は表土に近似するものであり、17Ｔより南側で検出した遺構埋土とは異質であった。このことから、現代の耕作溝と判断した。なお、部分的に埋土を掘削したが、遺物は出土しなかった。

農道を挟んだ西側（29～33Ｔ）では、表土以外から遺物は出土せず、遺構は検出されなかった。この範囲は、遺構が検出された田面より１ｍ以上の低いことから異なる地形面に当たると考えられ、遺跡の広がりは認められない。六日町藤塚遺跡と余川中道遺跡の間には、流路跡が存在するが、これに相当する地形の落ち際と判断した。

以上の結果から、18Ｔより南側かつ農道より東側に、古代及び古墳時代後期の遺跡の存在を確認した。六日町藤塚遺跡から連続的に広がり、年代も一致することから、同遺跡の広がりと判断した。

（５）調査の結果と取扱い

今回の調査対象地のうち、金屋遺跡の広がりが確認された 1,310 ㎡、六日町藤塚遺跡の広がりが確認された 4,820 ㎡について本発掘調査が必要である。なお、六日町藤塚遺跡においては、部分的に３面の遺跡が重複することが確認されている。また、六日町インターチェンジ入口付近では、多数の遺物が出土した 810 ㎡について判断保留とし、今後の追加調査及び北側隣接地の調査結果をもって最終判断する。

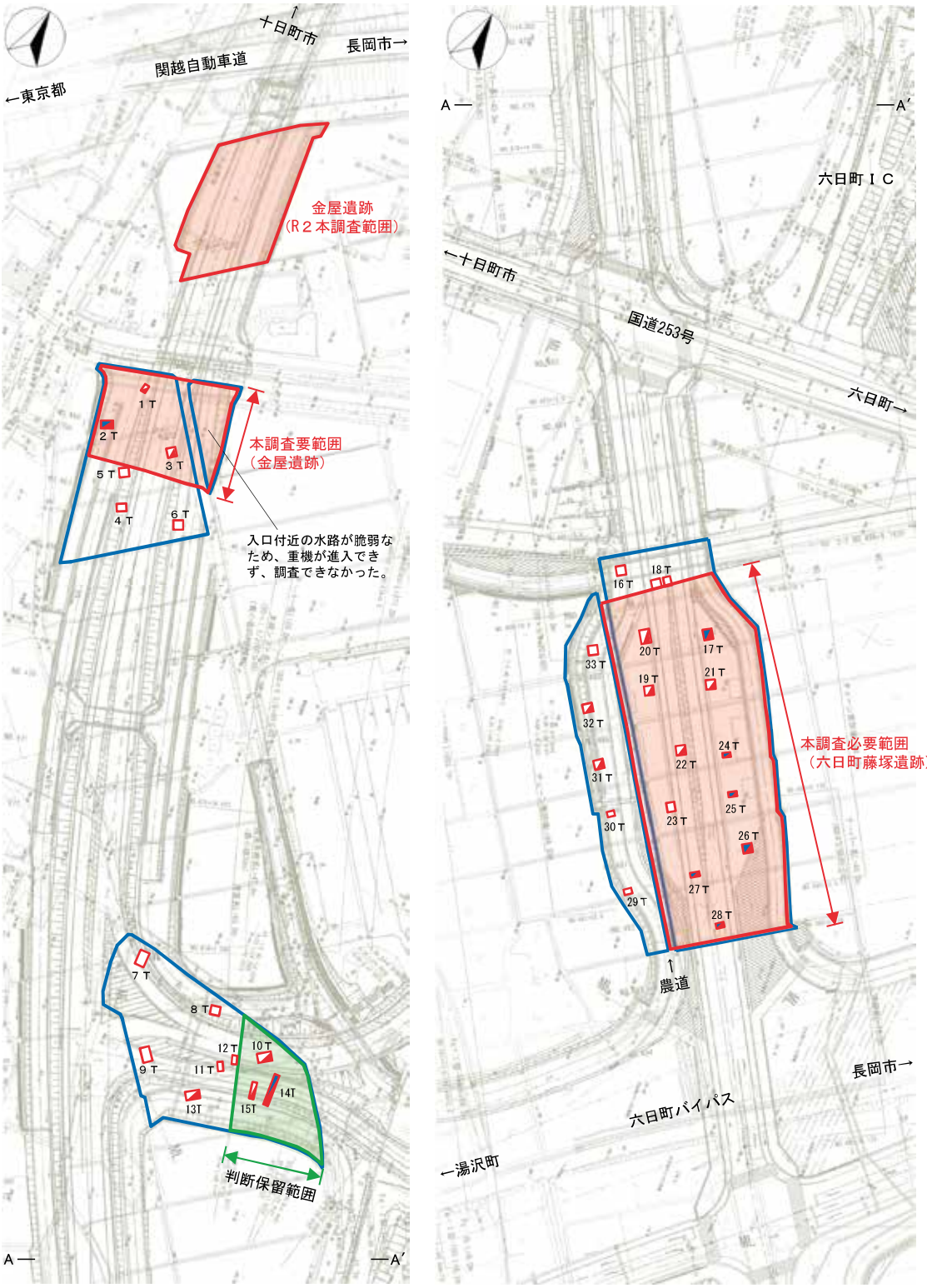


第５図　２Ｔトレンチ断面（北から）

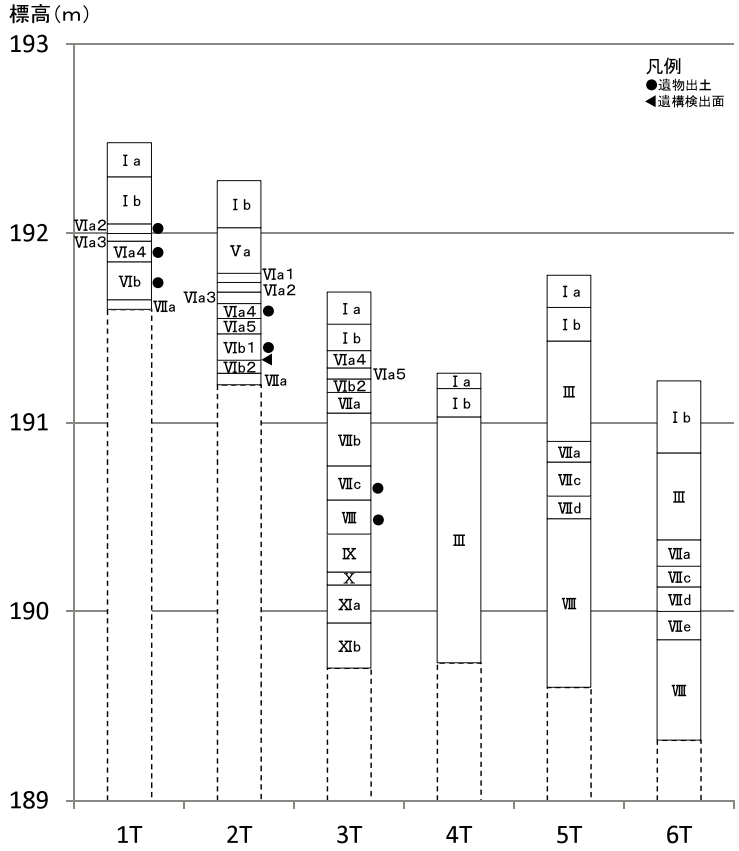
第６図　14Ｔトレンチ断面（東から）

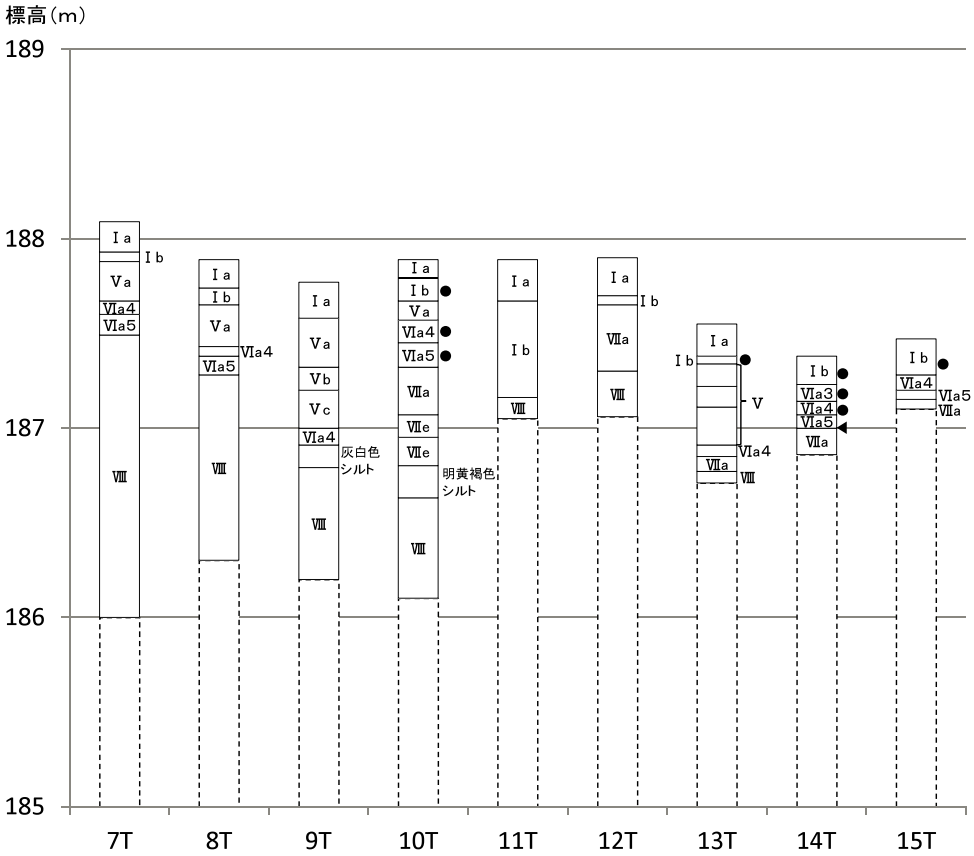
第７図　17Ｔトレンチ全景（東から）

第８図　24Ｔトレンチ全景（南西から）

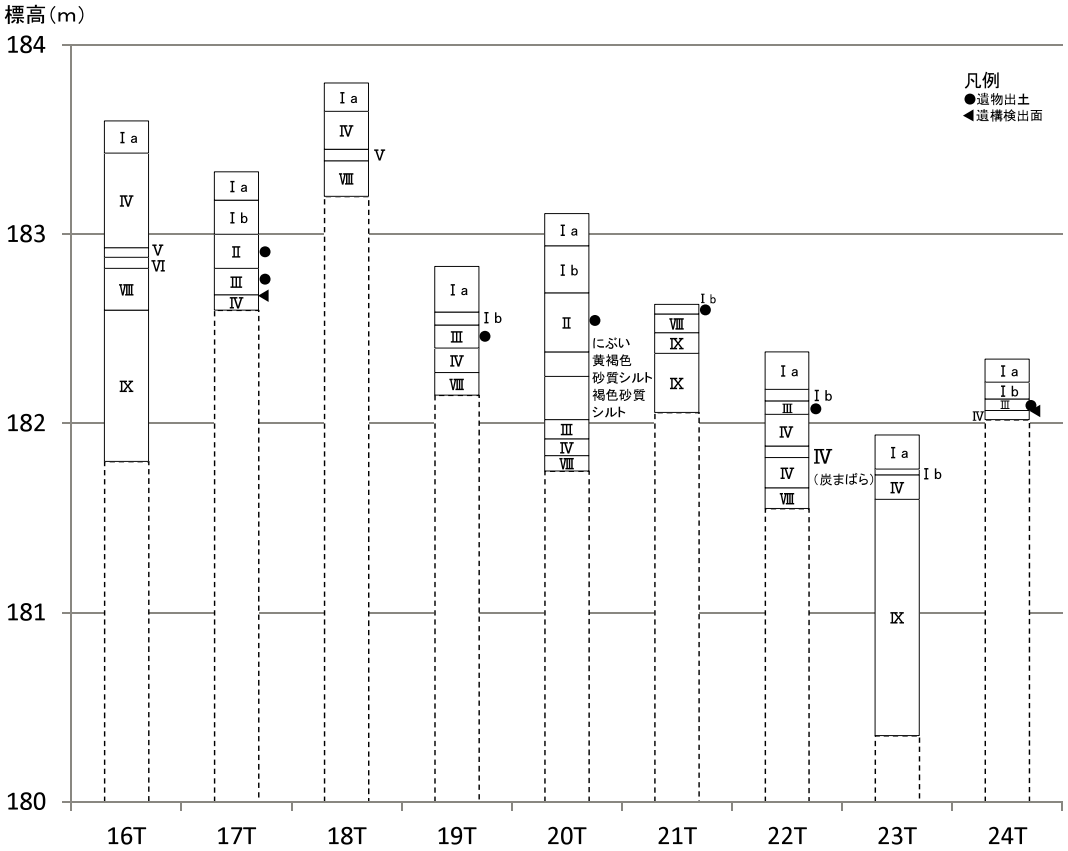


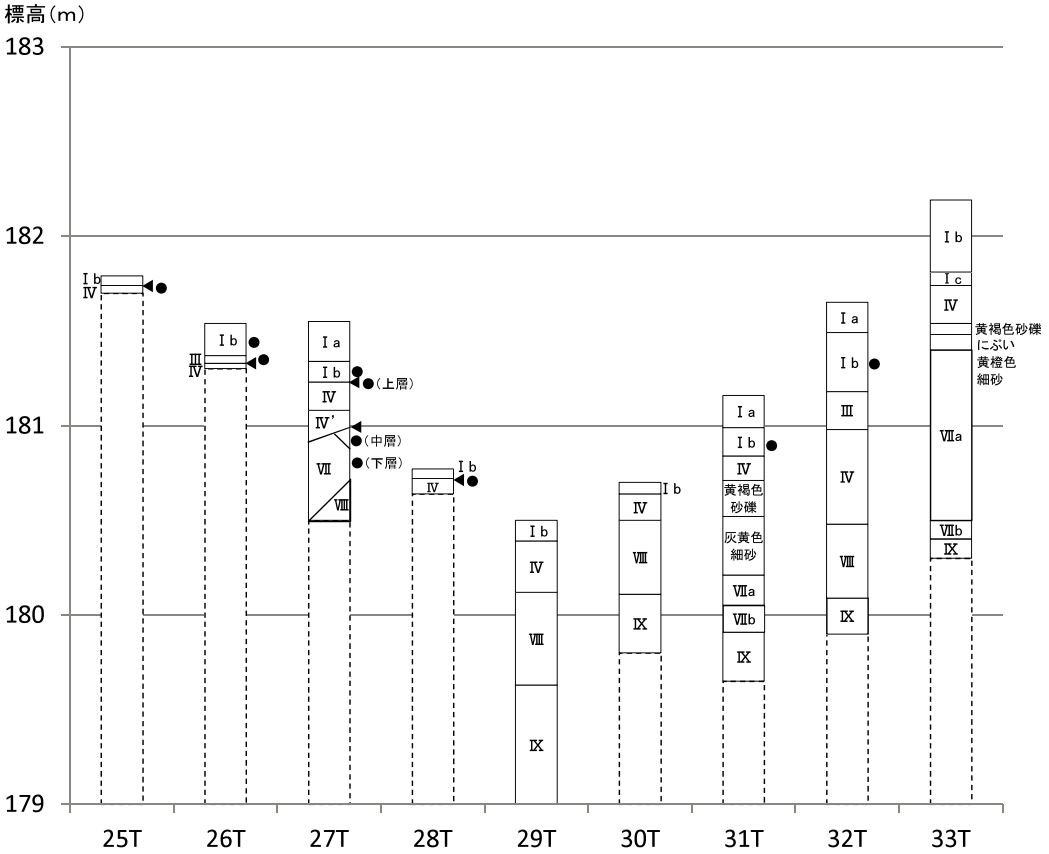
第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



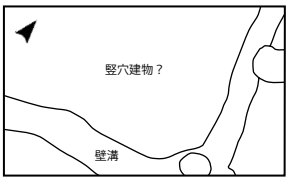


第３－１図　土層柱状図（１:40）

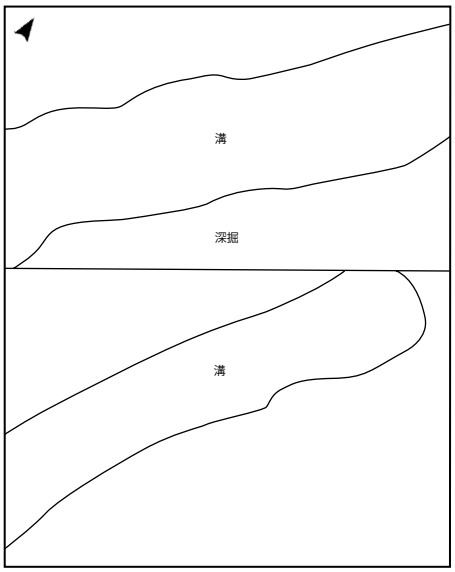




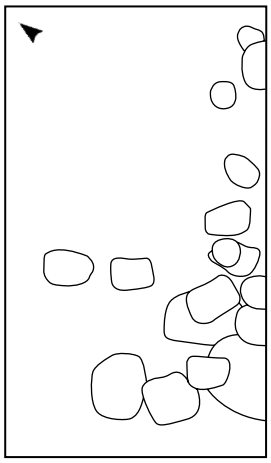
第３－２図　土層柱状図（１:40）



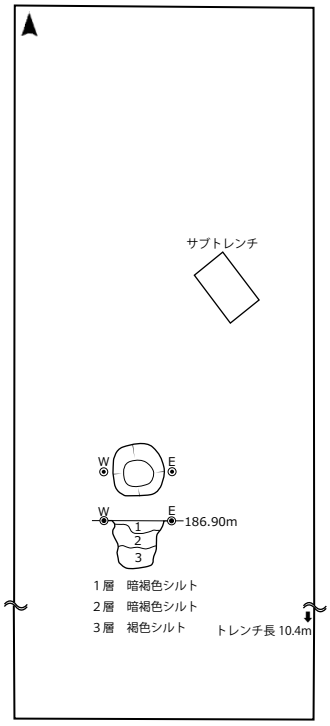
２Ｔ平面図



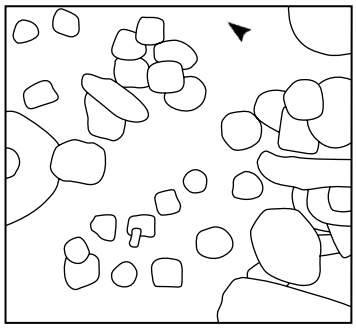
17Ｔ平面図



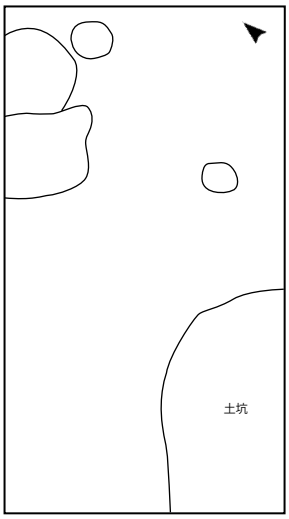
24Ｔ　平面図・断面図



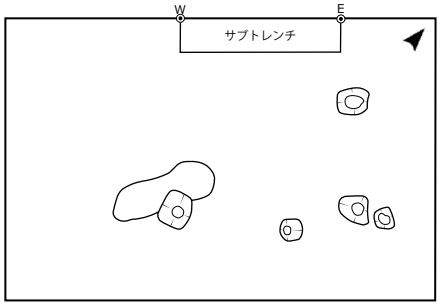
14Ｔ　平面図・断面図



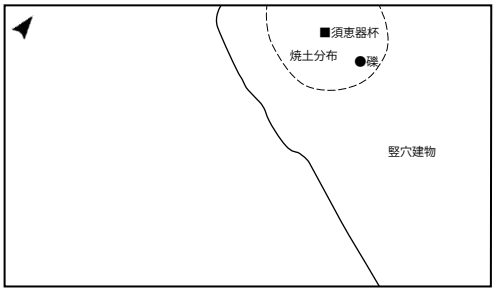
26Ｔ平面図



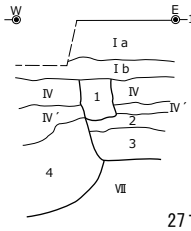
25Ｔ平面図



27Ｔ平面図



28Ｔ平面図



【27Ｔ遺構埋土　土層注記】

１層　黒褐色シルト　古代の柱穴。直径１㎝以下の礫、地山ブロック多い。

２層　灰黄褐色砂質シルト　竪穴建物の埋土か。偽礫をまばらに含む。

３層　にぶい黄褐色砂質シルト　偽礫・炭化物をごくまばらに含む。

４層　褐灰色砂質シルト　古墳時代の遺物包含層。高坏出土。炭化物、偽礫をごくまばらに含む。

27Ｔ断面図

第４図　検出遺構平面図・断面図

第９図　26Ｔトレンチ全景（南西から）

第 10 図　27Ｔトレンチ全景（東から）

第 11 図　27Ｔトレンチ断面（南東から）

第 12 図　28Ｔトレンチ全景（東から）

第 13 図　１Ｔ出土遺物

第 14 図　２Ｔ出土遺物

第 15 図　14Ｔ出土遺物

第 16 図　27Ｔ出土遺物

21　一般国道 17 号神立待避所事業関係

湯沢町神立（かんだつ）地区試掘調査

（１）立　地

魚野川と戸沢川に挟まれた沖積段丘上に立地する。標高は約 367～368ｍで、現況は水田・畑地である。調査対象地は、縄文時代早期・前期・後期及び中世の宮林Ｂ遺跡、式内社である魚沼神社と隣接する。

（２）調査の概要

10 か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

調査対象地は、ほ場整備による土地改変を経ているが、２・３・６Ｔ付近を中心に、戸沢川と平行する埋没谷を検出した。現在も、これと平行する水路があり、東から西へ下る流路が存在したと考えられる。埋没谷の両側には、自然堤防状の帯状の高まりが認められ、基盤としたⅦ層上面の標高が 70～80ｃｍほど高い。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成７年「越後湯沢」　１：50,000 原図）

（３）層　序

基本堆積は、表土下に黒色砂質シルト（Ⅳａ～Ⅳｃ・Ⅴ層）があり、その下位に砂礫層（Ⅶ層）が堆積する。黒色砂質シルトのうち最上位のⅣａ層では、縄文時代後期前葉の土器が２点出土した。Ⅶ層は、直径 30cm を超える礫を主体とする段丘礫層で、かつての流路の痕跡と見られる。

Ⅱ・Ⅲ層は、自然堤防上に当たる７Ｔのみで存在し、その下位からⅣｂ層を検出した。Ⅱ層上面は、縄文時代前期後葉の遺構検出面となる。Ⅱ・Ⅲ層とⅣａ層の上下関係は、同一断面で確認することができず不明であるが、Ⅳａ層からより新しい縄文時代後期前葉の遺物が出土している。このことからⅣａ層は、本来はⅡ層の上位に存在する遺物包含層であり、７Ｔではほ場整備により削平されたものと考えられた。

Ⅰａ層：表土

Ⅰｂ層：造成土

Ⅰｃ層：旧表土（ビニール等を含む。）

Ⅱ　層：明黄褐色シルト（縄文時代前期後葉の遺構検出面）

Ⅲ　層：褐灰色シルト

Ⅳａ層：黒色砂質シルト（より明るい色調。縄文時代後期前葉の土器を含む。）

Ⅳｂ層：黒色砂質シルト（より暗い色調）

Ⅳｃ層：黒色砂質シルト（より明るい色調）

Ⅴ　層：黒色礫混じり砂質シルト

Ⅵ　層：にぶい黄色砂礫

（４）遺構・遺物

周囲より小高い自然堤防上の７Ｔにおいて、表土直下で遺構（竪穴建物・土坑）を検出した。ほ場整備で削平されていたが、遺構の遺存状況は比較的良好であった。

竪穴建物は、少なくとも１辺３ｍ以上の広がりをもつ。調査範囲が限られているため平面プランは明らかでないが、方形基調と見られる。検出面からの深さは 18 ㎝ほどであり、底面は平坦である。底面で検出した柱穴３基は、建物構造の一部と考えられる。遺構埋土は、地山ブロックを多量に含むことが特徴的で、人為的に埋め戻された可能性が高い。なお、竪穴建物の底面は黒色のⅣｂ層であり、今後、調査を行う場合は注意が必要である。

第５図　調査対象地近景（南東から）

竪穴建物の年代を確認するために東側を掘削したところ、底面付近で縄文土器が多数出土したが、いずれも小片であった。文様をもつ土器が出土しておらず、時期の詳細は不明であるが、胎土・縄文原体・整形・器壁等の観察から、前期後葉に位置付けられる可能性がある。石器も１点出土した。頁岩製の石核であり、剥片石器の素材である。

第６図　３Ｔトレンチ断面（南東から）

竪穴建物の西側には、土坑と見られる直径 1.5 ｍほどの円形プランを検出した。検出面で確認した埋土は、竪穴建物の１層に共通しており、両者は同時期の遺構と考えられる。

これらの広がりを把握するために８～10Ｔを設定したが、遺構検出面となるⅡ層が存在せず、遺構の広がりは認められなかった。埋没谷に相当する１～６Ｔと共通する堆積状況であり、遺構は調査対象地外の南側～南東側に広がると見られる。この結果から、事業用地の南西隅に遺跡が存在することが確認されたが、周知の宮林Ｂ遺跡と一連の自然堤防上に立地するものと考えられる。

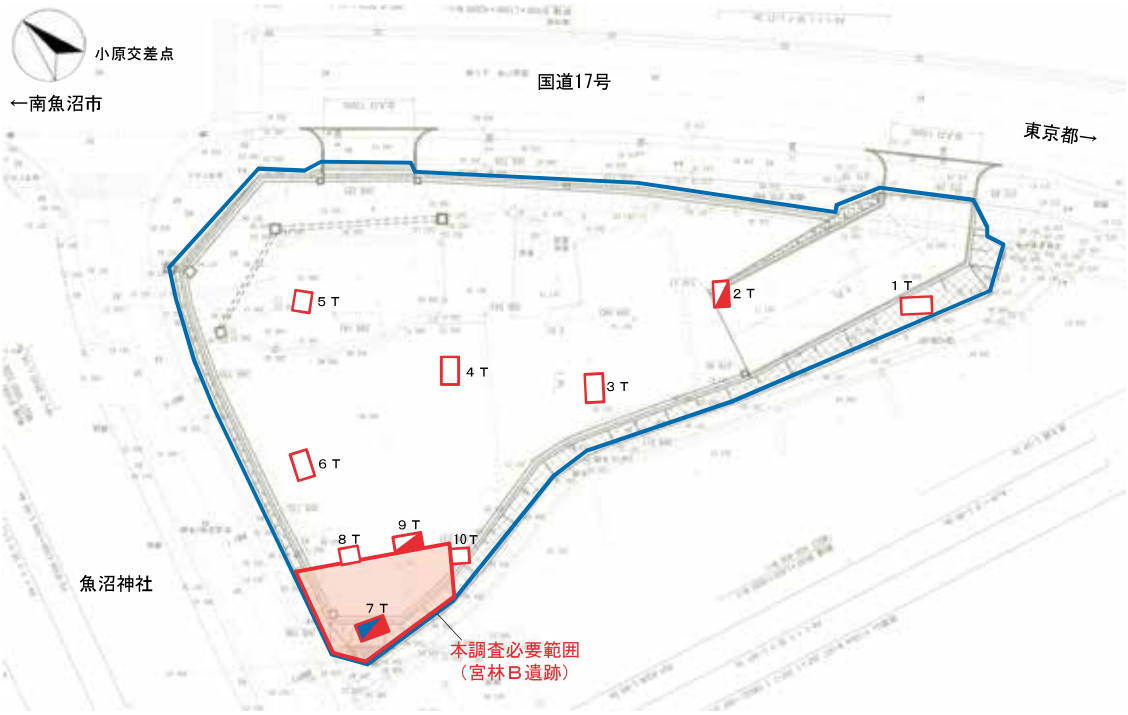
第７図　４Ｔトレンチ断面（北西から）

７Ｔのほかでは、２Ｔ・９ＴのⅣa 層から縄文土器片が単独で出土した。いずれも縄文時代後期前葉のものであり、７Ｔで検出した遺構よりも新しい時期に位置付けられる。遺物を包含するものの出土点数は少なく、遺跡の縁辺部に当たると判断した。

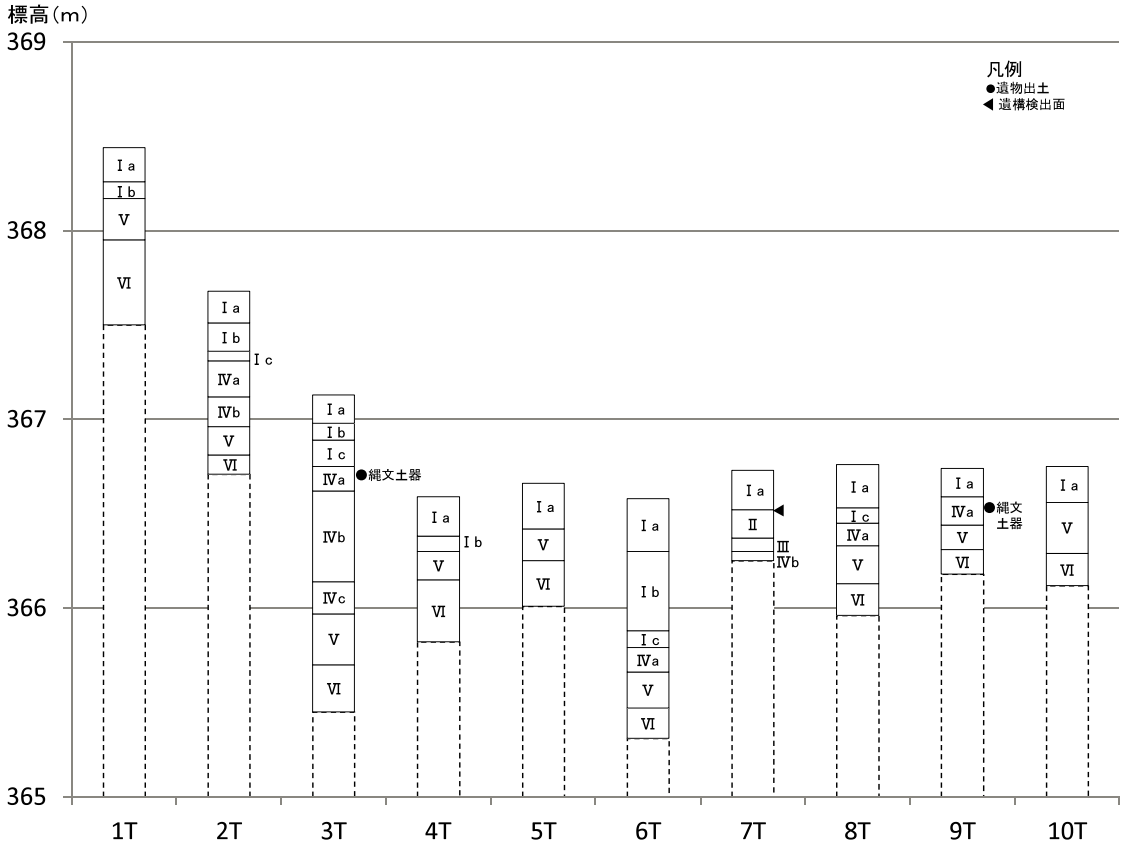
宮林Ｂ遺跡は、戸沢川改修事業に伴い発掘調査されており、縄文時代早期・前期後葉・後期前葉の遺物包含層が層位的に検出されている。今回の調査成果と対比すると、Ⅳa 層が後期前葉の遺物包含層、Ⅱ層上面で検出した遺構が前期後葉の遺物包含層と対応することができる。

（５）調査の結果と取扱い

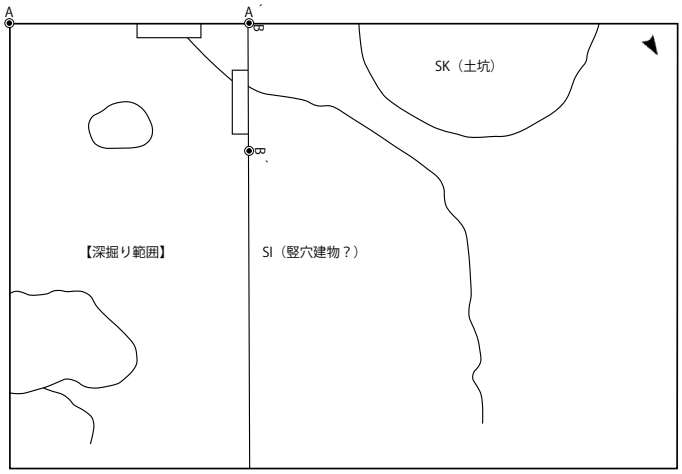
調査の結果、７Ｔで縄文時代前期の遺構・遺物を検出し、周知の宮林Ｂ遺跡の広がりを確認した。事業用地南西隅の 200 ㎡について保護措置が必要であり、今後、取扱い協議が必要である。



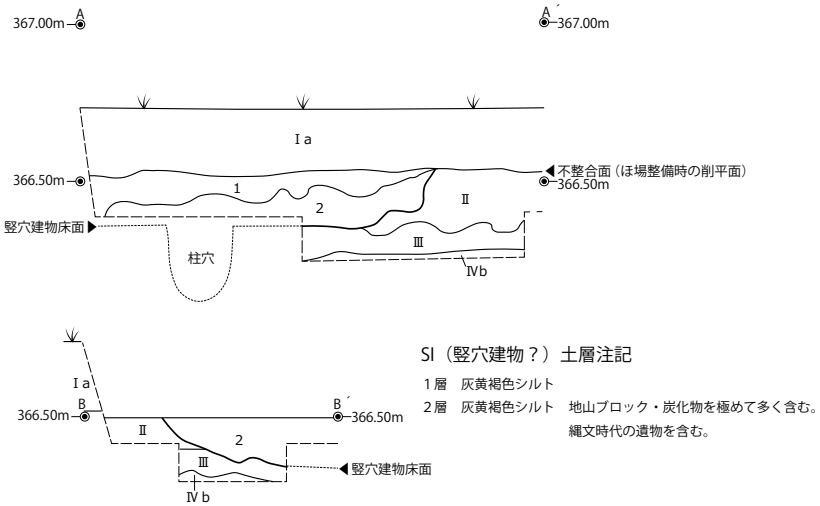
第２図　トレンチ位置図（１:1000）



第３図　土層柱状図（１:40）



７Ｔ平面図（Ｓ＝１:40）



７Ｔ断面図（Ｓ＝１:20）

第４図　検出遺構　断面図・平面図

第８図　６Ｔトレンチ断面（南東から）

第９図　７Ｔ付近近景（南東から）

第 10 図　７Ｔ遺構検出状況（北東から）

第 11 図　７Ｔ遺構検出状況（西から）

第 12 図　７Ｔトレンチ断面 A-A′（北東から）

第 13 図　７Ｔトレンチ断面 B-B′（東から）

第 14 図　７Ｔ遺構内遺物出土状況（北東から）

第 15 図　９Ｔトレンチ断面（南から）

第 16 図　７Ｔ出土遺物

第 17 図　２Ｔ・９Ｔ出土遺物

22　一般国道８号大潟除雪基地事業関係

上越市大潟区渋柿浜（しぶかきはま）地区試掘調査

（１）立　地

日本海から約 600ｍ内陸の、砂丘上に立地する。標高は約６～6.5ｍで、現況は山林である。周辺には北 400ｍに古代の渋柿浜遺跡、北東 500ｍに中世の中ノ山遺跡が存在する。

（２）調査の概要

11 か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。調査対象地の大半が削平されており、表土直下に新砂丘が露出した。旧地表と見られるⅡ層を重点的に調査し、あわせて地下深部に存在する古砂丘を探索した。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成 10 年「柿崎」　１：50,000 原図）

（３）層　序

Ⅰ　層：表土

Ⅱ　層：にぶい黄褐色細砂

Ⅲ　層：灰黄褐色細砂

（４）遺構・遺物

遺構・遺物は、検出されなかった。

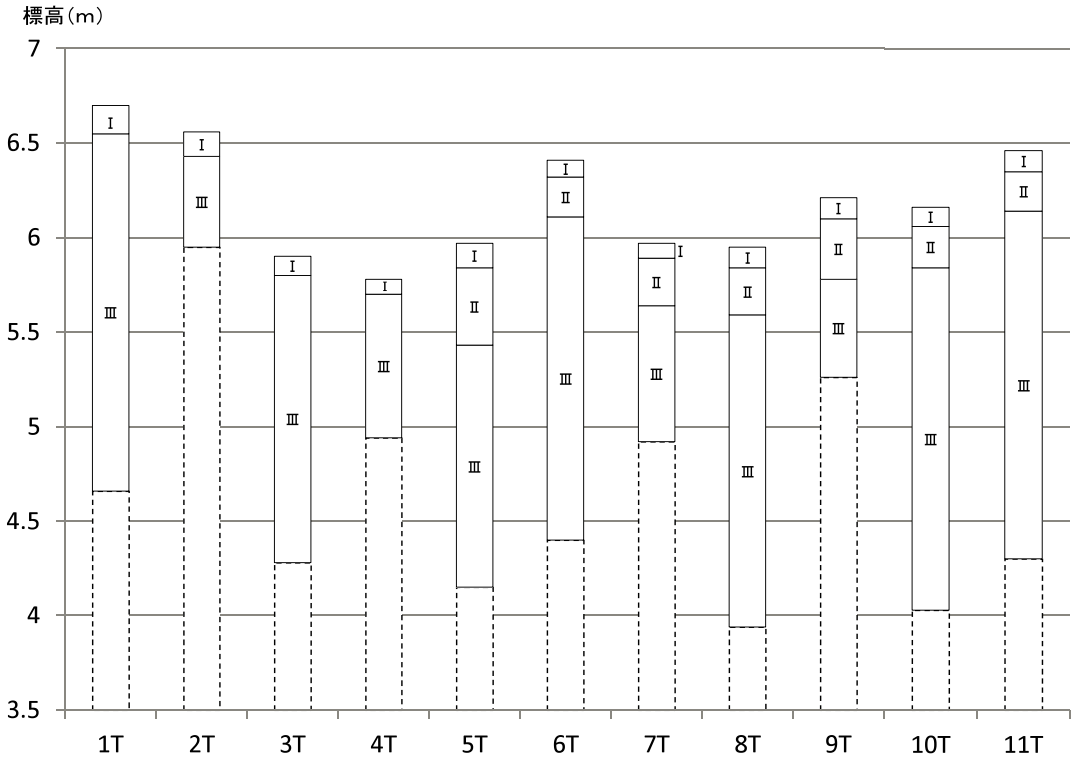
（５）調査の結果と取扱い

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったことから、今回の対象範囲について本発掘調査は不要と判断する。

第４図　調査対象地近景（東から）

第５図　１Ｔトレンチ断面（南東から）

第２図　トレンチ位置図（１:2,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第６図　５Ｔトレンチ断面（北西から）

第７図　８Ｔトレンチ断面（北西から）

第８図　９Ｔトレンチ全景（北西から）

第９図　11Ｔトレンチ断面（南西から）

23　一般国道 49 号阿賀野バイパス事業関係

「蕪木（かぶらぎ）遺跡」（阿賀野市堀越（ほりこし）地先）確認調査

（１）立　地

阿賀野川の旧河道右岸の自然堤防上に立地する。標高は約 10ｍで、現況は道路敷である。調査対象地は、周知の蕪木遺跡の範囲内に当たる。

第１図　位置図（１:50,000）
（国土地理院発行　平成９年「新津」　１：50,000 原図）

（２）調査の概要

１か所のトレンチを設定して試掘調査を行った。

（３）層　序

道路建設時に表土が除去されており、遺物包含層に相当する層位は、この工事で削平されたと見られる。

０　層：道路造成時の盛土

Ⅰ　層：造成時の撹乱（旧表土をブロック状に含む。）

Ⅱ　層：明青灰色～灰白色シルト（遺構検出面）

Ⅲ　層：灰色粘質シルト

Ⅳ　層：灰色粘質シルト（やや泥炭質）

Ⅴ　層：灰色砂質シルト（下部は細砂）

（４）遺構・遺物

遺構は検出されなかった。第５図では、黒色のプランを確認できるが、いずれにもビニール等を含んでおり、道路建設前の水路跡と判断した。

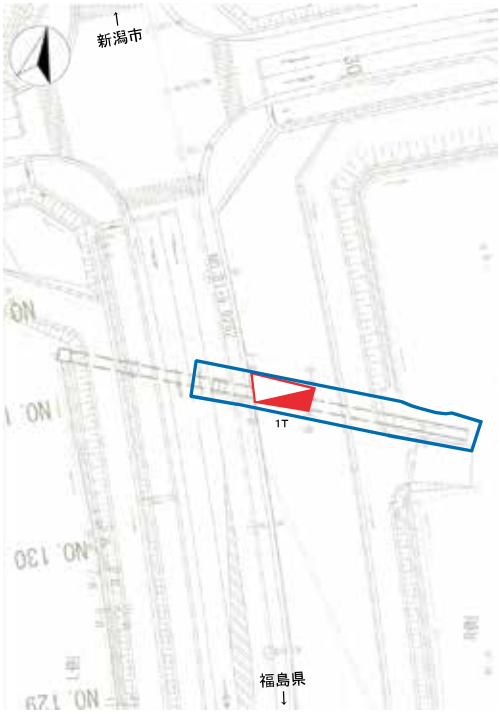
遺物は、古代の須恵器１点と中世陶器１点が出土した。いずれも撹乱部分からの出土であり、二次堆積物と判断した。なお、中世陶器は被熱が著しく、変色・変質している。

（５）調査の結果と取扱い

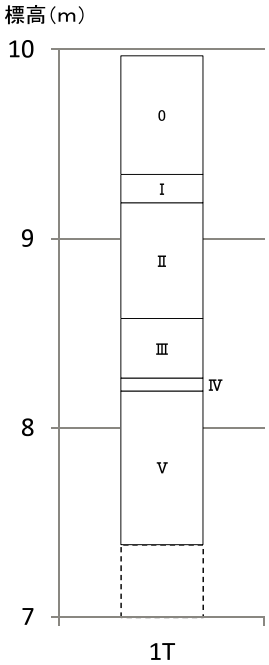
調査の結果、遺構は確認されなかった。遺物は２点出土したが、いずれも二次堆積物であり、今回の対象範囲については、本発掘調査不要と判断する。

第４図　トレンチ全景（東から）

第５図　トレンチ完掘状況（南西から）



第２図　トレンチ位置図（１:1,000）



第３図　土層柱状図（１:40）

第６図　トレンチ全景（西から）

第７図　トレンチ断面（西から）

第８図　出土遺物

報告書抄録

ふりがな	れいわがん・にねんどけんないいせきしくつ・かくにんちょうさほうこくしょ
書名	令和元・２年度県内遺跡試掘・確認調査報告書
副書名	県内遺跡発掘調査報告書
巻次	Ⅸ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第290集
編著者名	加藤学・髙橋保雄・塩野寛人・工藤祐大
編集機関	新潟県教育委員会
所在地	新潟県中央区新光町４番地１
発行年月日	2021（令和３）年３月17日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほうみょういせき 法妙遺跡	むらかみしなかはまあざほうみょう 村上市中浜字法妙	15212	646	38° 32′ 30″	139° 33′ 09″	2020601～ 20200604	166	国道７号 朝日温海道 路建設
たけのしたいせき 竹ノ下遺跡	むらかみしほりのうちあざたけのした 村上市堀ノ内字竹ノ下	15212	682	38° 51′ 67″	139° 54′ 50″	20190607～ 20190610・ 20191008～ 20191017・ 20200123～ 20200127・ 20200422・ 20200605・ 20200608・ 20200624・ 20200706	749	国道７号 朝日温海道 路建設
おおかわじょうせき 大川城跡	むらかみしふや 村上市府屋	15212	638	38° 51′ 38″	139° 54′ 19″	20200529・ 20200601・ 20200917～ 20200918	51	国道７号 朝日温海道 路建設
かみのいせき 上野遺跡	むらかみしひばら 村上市檜原	15212	608	38° 29′ 31″	139° 52′ 95″	20190529～ 20190530・ 20191118～ 20191122・ 20200716	198	国道７号 朝日温海道 路建設
かぶらぎいせき 蕪木遺跡	あがのしほりこしあざかぶらぎ 阿賀野市堀越字蕪木	15223	405	37° 80′ 99″	139° 22′ 12″	20201204	40	国道49号 阿賀野バイ パス建設
さ さ ら にしいせき ササラ西遺跡	ながおかしかわぐちなかやま 長岡市川口中山	15202	1498	37° 26′ 27″	138° 86′ 76″	20201029～ 20201030	96	国道17号 川口待避所 建設
かなやいせき 金屋遺跡	みなみうおぬましょかわ 南魚沼市余川	15226	24	37° 08′ 12″	138° 87′ 36″	20191125～ 20191126・ 20201116～ 20201119	115	国道253号 八箇峠道路 建設
むいかまちふじづかいせき 六日町藤塚遺跡	みなみうおぬましょかわ 南魚沼市余川	15226	301	37° 07′ 74″	138° 87′ 68″	20201119～ 20201125	42	国道253号 八箇峠道路 建設
みやばやしびーいせき 宮林Ｂ遺跡	ゆざわまちかんだつ 湯沢町神立	15461	56	36° 93′ 15″	138° 82′ 13″	20200803～ 20200804	109	国道17号 神立待避所 建設
たていせき 舘遺跡	じょうえつしこまばやし 上越市駒林	15222	1576	37° 14′ 03″	138° 32′ 85″	20190919	92	国道253号 上越三和道 路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
法妙遺跡（ほうみょういせき）	遺物包含地	縄文	なし	なし	
竹ノ下遺跡（たけのしたいせき）	遺物包含地	平安・中世	土坑・溝・ピット	土師器・製塩土器・須恵器・珠洲焼・青磁・鉄滓	
大川城跡（おおかわじょうせき）	城館跡	中世	テラス	なし	
上野遺跡（かみのいせき）	遺物包含地・集落跡	縄文	焼土範囲	縄文土器	
蕪木遺跡（かぶらぎいせき）	遺物包含地	平安・中世	なし	須恵器・中世陶器	
ササラ西遺跡（ささらにしいせき）	遺物包含地	縄文・中世	なし	縄文土器・石器・銭貨	
金屋遺跡（かなやいせき）	遺物包含地	平安	溝・ピット	土師器・須恵器	
六日町藤塚遺跡（むいかまちふじづかいせき）	遺物包含地	古墳・平安	竪穴建物・土坑・溝・ピット	土師器・須恵器	
宮林Ｂ遺跡（みやばやしびーいせき）	遺物包含地	縄文	竪穴建物・土坑	縄文土器・石器	
舘遺跡（たていせき）	遺物包含地	平安	掘立柱建物・土坑・溝・ピット	土師器・須恵器	

要　約	・道路事業に伴う試掘・確認調査を令和元年度に19か所、令和2年度に23か所で実施した。 ・竹ノ下遺跡、ササラ西遺跡を新発見し、周知の金屋遺跡、六日町藤塚遺跡、宮林Ｂ遺跡の範囲を拡大した。竹ノ下遺跡では古代・中世の製塩・製鉄関連資料、ササラ西遺跡では縄文時代晩期後半の遺物包含層、金屋遺跡・六日町藤塚遺跡では平安時代の竪穴建物等、宮林Ｂ遺跡では縄文時代前期の竪穴建物、舘遺跡では平安時代の掘立柱建物を検出した。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第290集
県内遺跡発掘調査報告書Ⅸ
令和元・２年度県内遺跡試掘・確認調査
令和3年(2021)年3月15日印刷
令和3年(2021)年3月17日発行
編集・発行　新潟県教育委員会
〒950－8570　新潟市中央区新光町４番地１
電話　025（285）5511
印刷・製本　株式会社ハイングラフ
〒950－2022　新潟市西区小針１丁目11番８号
電話　025（233）0321

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第290集『令和元・２年度県内遺跡試掘・確認調査』　正誤表

2021年4月追加

頁	位置	誤		正	
抄録	竹ノ下遺跡 北緯／東経	38° 51′ 67″	139° 54′ 50″	38° 30′ 59″	139° 32′ 43″
抄録	大川城跡 北緯／東経	38° 51′ 38″	139° 54′ 19″	38° 30′ 46″	139° 32′ 31″
抄録	上野遺跡 北緯／東経	38° 29′ 31″	139° 52′ 95″	38° 17′ 35″	139° 31′ 46″
抄録	蕪木遺跡 北緯／東経	37° 80′ 99″	139° 22′ 12″	37° 48′ 36″	139° 13′ 16″
抄録	ササラ西遺跡 北緯／東経	37° 26′ 27″	138° 86′ 76″	37° 15′ 42″	138° 52′ 05″
抄録	金屋遺跡 北緯／東経	37° 08′ 12″	138° 87′ 36″	37° 04′ 52″	138° 52′ 25″
抄録	六日町藤塚遺跡 北緯／東経	37° 07′ 74″	138° 87′ 68″	37° 04′ 38″	138° 52′ 36″
抄録	宮林Ｂ遺跡 北緯／東経	36° 93′ 15″	138° 82′ 13″	36° 55′ 53″	138° 49′ 17″
抄録	舘遺跡 北緯／東経	37° 14′ 03″	138° 32′ 85″	37° 08′ 25″	138° 19′ 43″